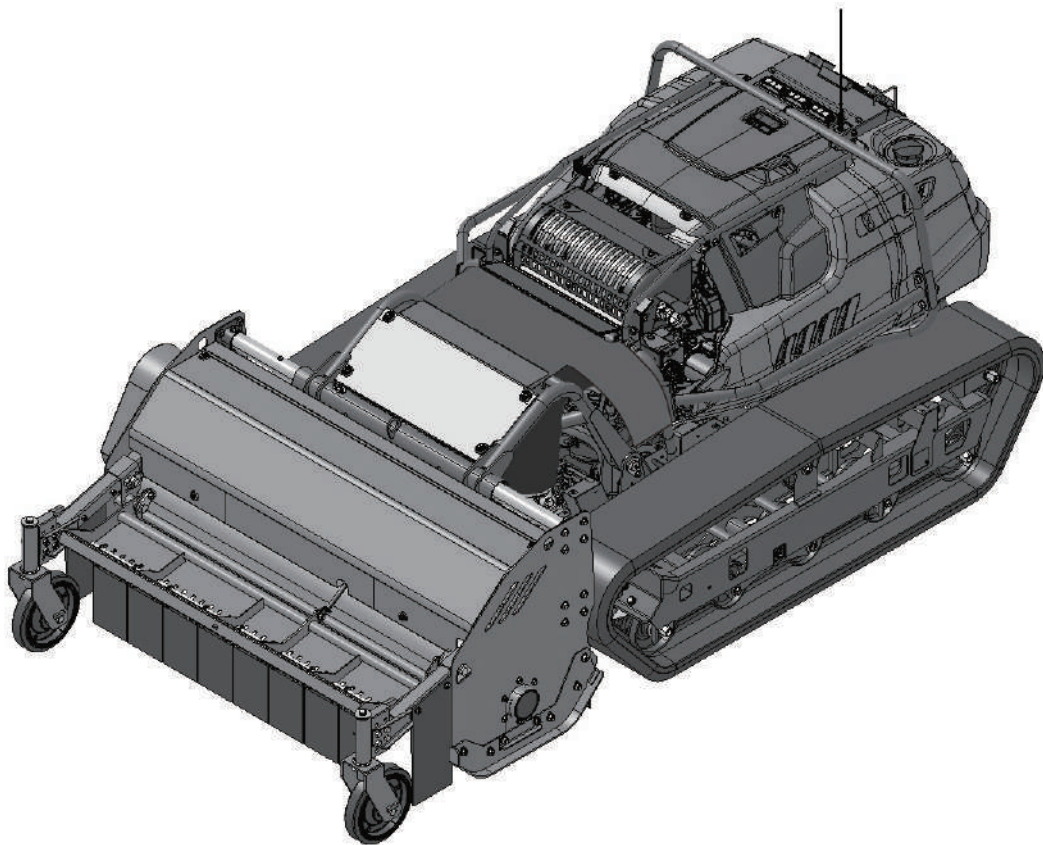


草刈作業車 CG271

取扱説明書

アラフォー傾子



・ご使用の前に必ずお読みください。

5121 5101 002 01

株式会社 筑水キャニコム

本書について

このたびは、本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

本書は、本製品の正しい運転操作および保守・点検方法を知っていただくために、詳しい情報を提供することを目的とし作成しています。本製品をご使用になる前に必ず本書を読み、理解された上で、正しい取り扱いをしてください。

また、エンジン取扱説明書もあわせてお読みください。

なお、本書ははじめて本製品を使用される方を対象として作成しています。

警 告

- ・ 本書を必ず読んで内容を理解してから本製品の運転および保守・点検を行ってください。
- ・ 本製品の運転操作および保守・点検を行う場合は、必ず本書に従ってください。
- ・ 本書はいつでも参照できるように大切に保管してください。

本製品について

警 告

- ・ 本製品は草刈作業車です。草刈作業以外の用途には使用しないでください。また、本製品専用のモア以外は使用しないでください。
- ・ 本製品には、潜在する危険があります。本製品の運転操作および保守・点検を行う場合は、必ず本書に従ってください。
- ・ 本製品の取扱上の危険をすべての使用状況で予測できているわけではありません。本製品を使用の際は、本書に記載している注意事項に限らず、日頃より安全に使用できるよう作業も十分に配慮してください。
- ・ 本製品は、公道および公道とみなされる道路での運転はできません。当該道路上での運転による事故および違反につきましては、責任を負いかねます。
- ・ 本製品を改造して使用しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は、メーカー保証の対象外となります。
- ・ 安全カバー等を取り外して使用しないでください。重大な事故の原因となります。

本書の警告について

本書では、危険度の高さ（または事故の大きさ）にしたがって、警告用語を下記のとおり分類しています。以下の警告用語がもつ意味を理解し、本書の内容（指示）に従ってください。

警 告 用 語	意 味
 危 険	差し迫った危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う場合に使用されます。
 警 告	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う可能性のある場合に使用されます。
 注 意	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、中・軽傷を負う可能性のある場合に使用されます。また、本製品に物的損害が発生する場合にも使用されます。
 アドバイス	注意を促したい場合、使用上役立つ情報について使用されます。

リース（レンタル）業者の皆様へ

 注 意
・ 本製品を他の事業者または個人に貸し出す際には、取り扱い方法を明確に説明し、使用の前に本書を必ず読むよう指導してください。

保証とアフターサービスについて

保証について

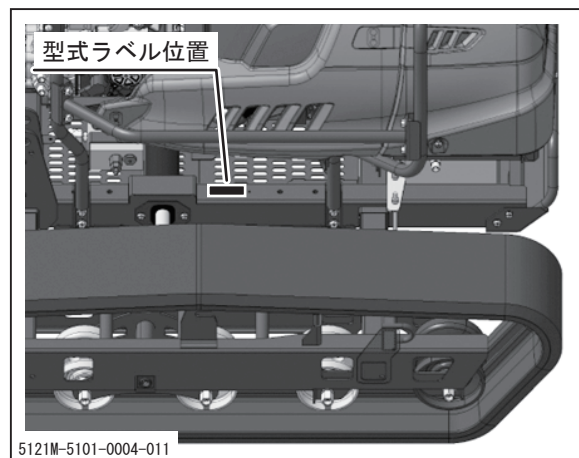
当社は本製品について、保証書の内容に基づいて保証をいたします。保証書の発行にはお客様登録が必要です。製品に同封のお客様登録カードをご記入の上ご送付ください。登録完了までの保証内容については本書巻末に貼付の仮保証書を参照してください。

アフターサービスについて

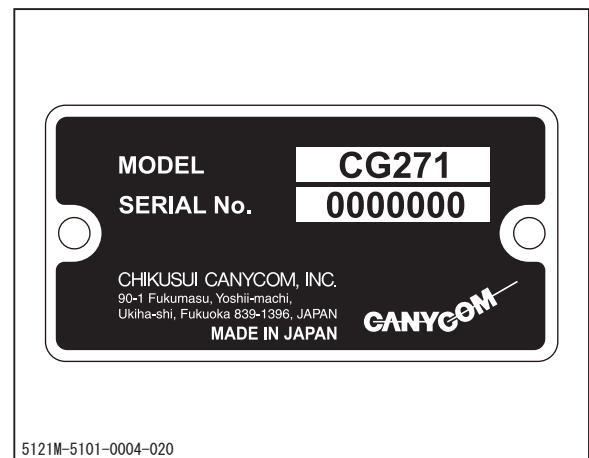
ご使用中の不具合、ご不審な点およびサービスに関するご用命は、お買い上げいただいた販売店または当社センターへお気軽にご相談ください。その際、型式ラベルに記載の商品型式、製造番号および搭載エンジンのメーカー名、型式名、エンジンの機番、並びに作業機の名称と機番を併せてご連絡ください。

搭載エンジンのメーカー名および型式名ならびに作業機の名称については、本書の「**本製品の仕様**」を参照してください。（☞21ページ）

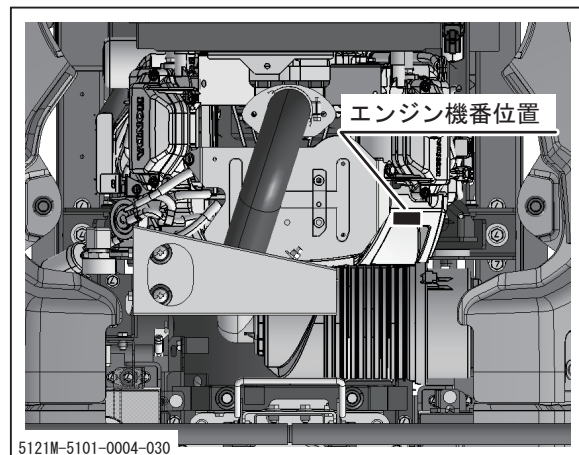
型式ラベル位置



型式ラベル



エンジン機番位置



補修用部品の供給年限（期間）について

この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打ち切り後9年といたします。ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合があります。

補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了致しますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

目 次

1. 安全に関する注意事項 1

本製品に添付してある警告ラベルについて	1
本機	1
安全運転・作業のための心得	3
運転前の心得	3
運転・作業時の心得	4
駐車時の心得	9
整備時の心得	11

2. 各部の名称とはたらき 13

各部の名称とはたらき	13
本機	13
ラジコン送信機	18
マニュアルコントローラ	20
操作装置のシンボルマーク	20

3. 製品仕様 21

本製品の仕様	21
標準付属品明細	23

4. 運転と操作 24

運転前の準備	24
始業点検	24
燃料の点検と補給	24
送信機の充電とバッテリー交換	25

運転のしかた	27
始動のしかた	27
エンジン再始動のしかた	30
エンジン停止のしかた	31
ラジコン送信機の使い方	32
運転のしかた	37
停止のしかた	42
駐車のしかた	44
マニュアルコントローラでの車両の操作	45
作業のしかた	47
左クローラトレッドの伸縮操作	49
モア装置の昇降操作	49
モア装置のスライド作業	52
刈高さとゲージ輪の調整	52
刈取り（モア）作業のしかた	53
アンテナ取付位置について	56
ディスプレイの操作のしかた	58
①ホーム画面	58
②メンテナンス画面	59
③設定画面	60
④ -1 現在エラー画面	61
④ -2 過去エラー画面	63
⑤データ表示画面	64

5. 保守・お手入れ

71

定期点検表	71
日常点検チェックシートおよび日報	73
作業場のチェック	73
本機のチェック	73
作動チェック	74
定期点検箇所一覧表	75

給油・給脂一覧表	78
給油	78
給脂	78
消耗部品	80
クリーニングモードについて	81
操作手順	81
エンジン	82
エンジンオイルの点検・補給・交換	82
エンジンオイルフィルタの交換	84
エアクリーナの清掃・交換	85
エンジンスクリーンの清掃	86
後方カバー通気フィルタの点検・清掃	86
油圧系統	87
油圧作動油の点検・補給・交換	87
油圧作動油フィルタの交換	90
油圧ホースの点検	92
オイルクーラの清掃	92
走行装置	93
クローラ張り調整	93
ユウドウリンとトラックローラの点検	95
トレッド伸縮の点検	95
走行モータ減速機オイル交換	96
H S T 走行リンク部扇ギヤの点検・交換	97
ブレーキの調整	98
電装品	99
車速中立位置の調整	99
バッテリーの点検・交換	100
バッテリーの充電	101
ワイヤハーネス・バッテリープラスケーブルの点検	102
ヒューズの交換	102
ランプ類の交換	103

作業機（モア）	104
刈刃ケースギヤオイルの交換	104
刈刃の点検・交換	105
刈刃駆動ベルトの点検・調整・交換	106
刈刃駆動シャープピンの交換	107
使用後のお手入れ	108
通常使用後のお手入れ	108
寒冷期使用後のお手入れ	108
洗車	109
長期保管のしかた	110

6. 不具合発生時の処置 111

不具合診断表	111
不調と処置	111
本機の不調と処置	113

7. 本製品の移送 115

トラックへの積み降ろし要領	115
クレーン等による吊り上げ要領	116
吊り上げ準備	116
吊り上げのしかた	117
ジャッキアップ要領	118

8. オプション 119

スパイク	119
------	-----

保証書

本書の巻末に添付

※本製品の取扱説明を受けた後に、受領証と共にお受け取りください。

付録

・エンジン取扱説明書

※本書とあわせて必ずお読みください。

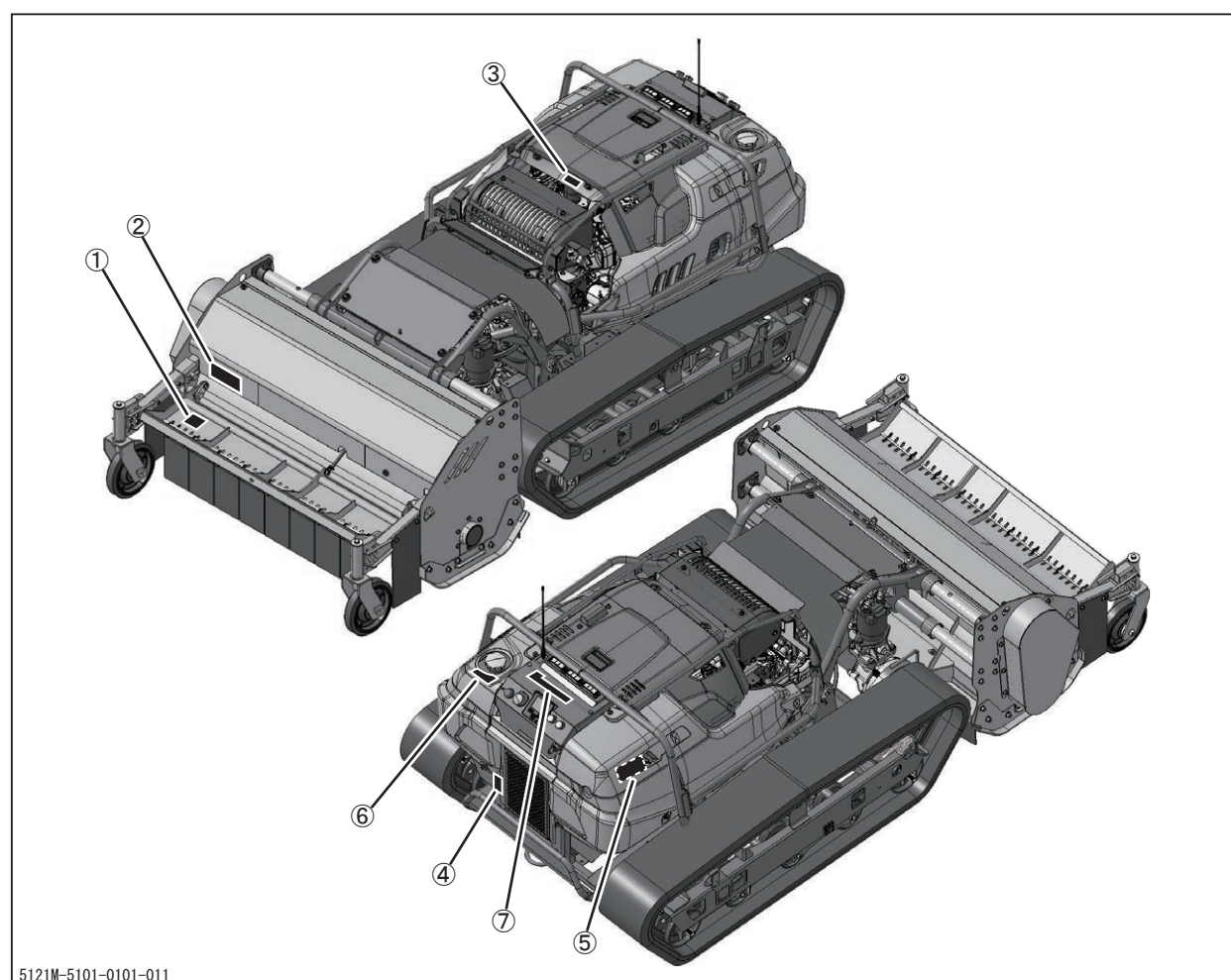
本製品に添付してある警告ラベルについて

本製品には下記の警告ラベルが添付してあります。

この警告ラベルは安全に関して特に注意を要する事項について記載してあります。本製品を使用する際には必ず警告ラベルの指示に従い、禁止事項は絶対に行わないでください。

- ・ 警告ラベルの位置および内容について十分把握しておいてください。
- ・ 警告ラベルは内容がわかるようにいつもきれいにしておいてください。
また、清掃には有機溶剤やガソリンを使用しないでください。
- ・ 警告ラベルを損傷・紛失したり判別できなくなったりした場合は、新品と交換してください。部品番号は本書または実物で確認し、販売店へ注文してください。

本機



① 5121 5032 000



② 5121 5026 000



③ 5347 5071 001



④ 5229 5022 000



⑥ 5121 5027 000

自動車用 無鉛ガソリン



⑤ 5121 5028 001



⑦ 5121 5021 000

燃料残量低下警告
 (2 秒間隔に 1 回点滅)

⚠ 警 告



草・ゴミなどが堆積すると発火のおそれがあります。
 始業時・作業時・終業時に下記の清掃・点検を必ず行ってください。

- ① マフラー・エンジン周辺、後方カバー内のバッテリー付近の枯草・塵埃などの堆積を除去してください。
- ② ショートによる火災防止のため、配線の干渉・不締りの点検を行ってください。
- ③ 枯草刈り作業時は1時間ごとに清掃を行ってください。

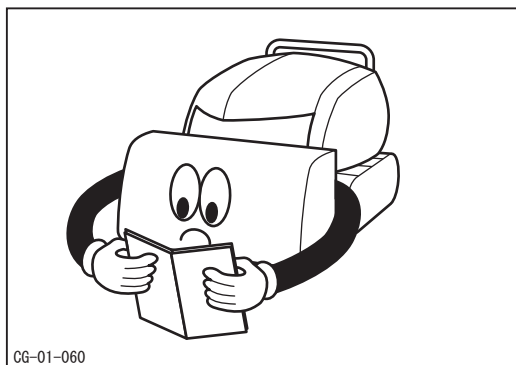
5121M-5101-0101-021

5121 5021 000

安全運転・作業のための心得

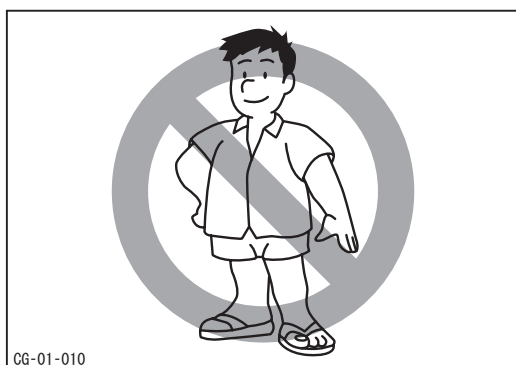
運転時・作業時に必ず守っていただきたい一般安全事項を記載しています。運転時・作業時には各章に記載されている安全事項についても必ず従い、安全運転、安全作業を心がけてください。

運転前の心得



取扱説明書・警告ラベルを読む

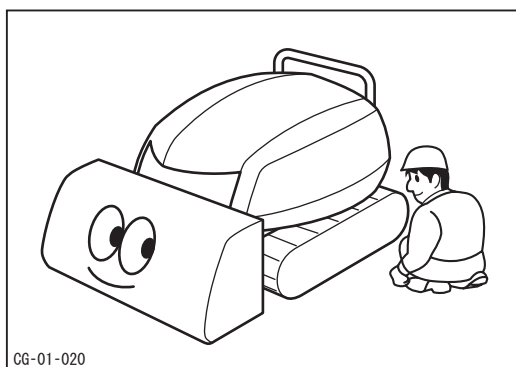
この機械を動かす前に、取扱説明書（本書）と機械に貼り付けてある警告ラベルをよく読み、本機の安全な使い方をよく理解した上で運転してください。また、本機を他人に貸すときや、初めての人に使用させるときも、取扱説明書と警告ラベルの内容を熟知させてから運転させてください。



正しい服装と保護具の着用

運転・作業にふさわしい服を着用し、軽装やサンダル履き、ダブダブの衣服等で運転・作業をしないでください。また、ヘルメット、保護靴、保護めがね、手袋等の保護具を着用してください。

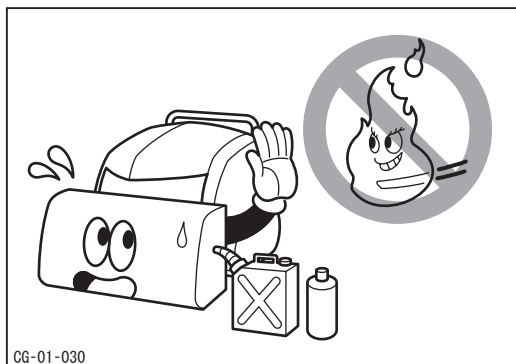
- ・長髪やタオルを首などに巻いた状態での運転は巻き込まれ危険です。
- ・袖口や裾がきっちりと締まった活動的な服装で作業してください。



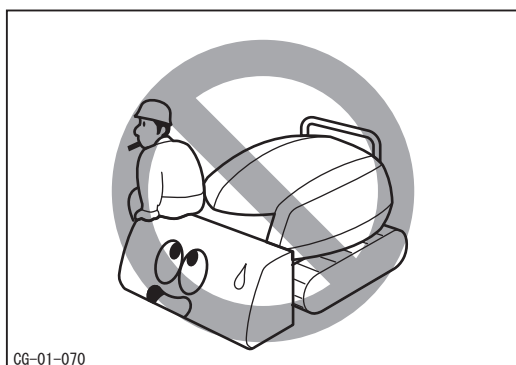
始業点検の励行

運転の前に必ず始業点検を行い、異常箇所はただちに補修してください。

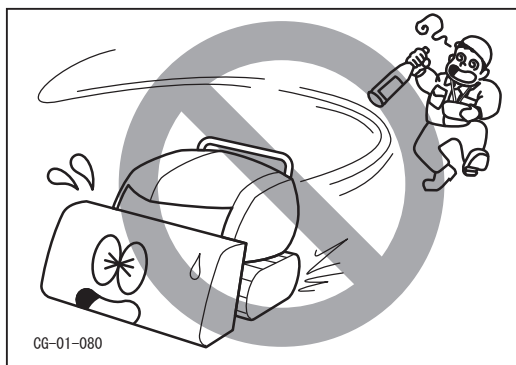
- ・定期点検表に従い、始業点検を行ってください。異常箇所や不具合を補修するまでは絶対に本機を使用しないでください。
- ・ベルト、シャフトなどの安全カバーが外れた状態で運転しないでください。
- ・車両に堆積した草等はきれいに取り除いてください。火災のおそれがあります。
- ・安全装置が作動することを確認してください。
- ・本機を改造しないでください。改造すると機械の機能や耐久性に影響を及ぼし事故に繋がるだけでなく、法規に違反する可能性もあります。

**火気厳禁**

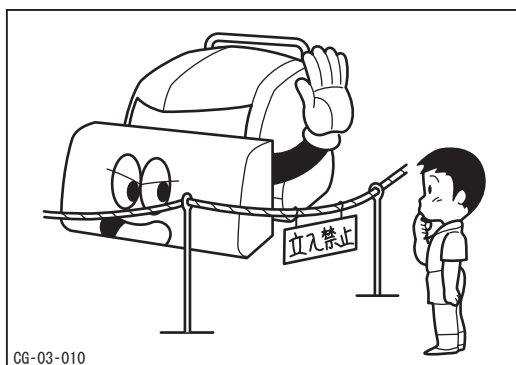
燃料・油脂の取扱時は、火気を近づけないでください。バッテリーの充電中やエンジンの整備時にも、火気を近づけないでください。また、バッテリー、配線、マフラ、燃料タンク、エンジン周りなど高温になる箇所や燃料の付着する可能性のある箇所に堆積したゴミや草等はきれいに取り除いてください。火災のおそれがあります。

**乗車禁止**

本製品はラジコン専用機です。乗車しないでください。

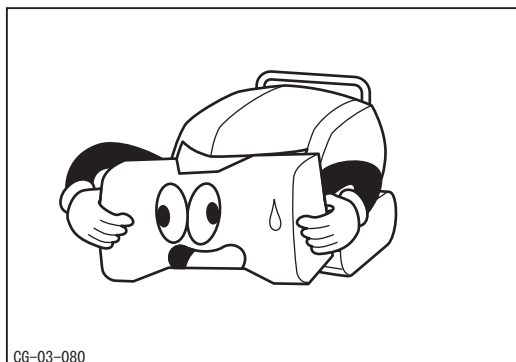
**無謀運転禁止**

飲酒時や体調が悪い時、病気や妊娠中には運転・作業を行わないでください。また、取扱説明書や警告ラベルの内容が理解できない人、子供、そのほか本製品の運転・作業に適さない人による運転・作業も行わないでください。

運転・作業時の心得**作業中の安全確保（立入禁止）**

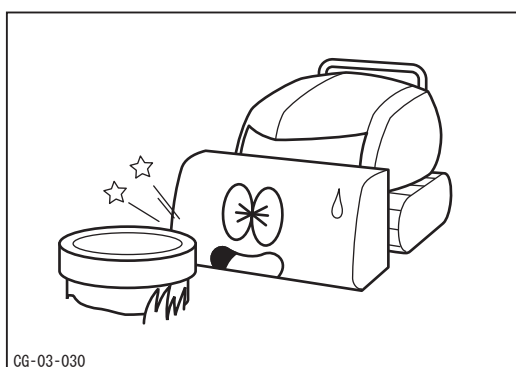
運転・作業時は本製品の周辺に人（特に子供）を近づけないでください。必要な場合には、草刈作業中であることを掲示し、ガードロープを張る等してください。

- ・家屋の立て込んだ所や人の多い所では使わないでください。
- ・モア前方・後方は刈った草や石などが飛ばされるので危険です。特に人や家屋に向けないように注意してください。



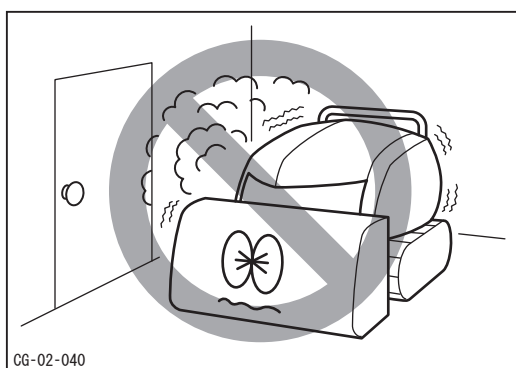
推奨アタッチメント以外の使用禁止

弊社奨励アタッチメント以外は本製品に装着・使用しないでください。また、奨励アタッチメントの使用時は、そのアタッチメントの取扱説明書・警告ラベルを理解し、その指示にしたがって使用してください。



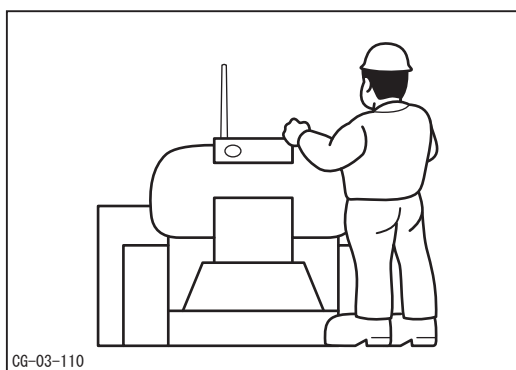
穴・溝・障害物等に注意

運転・作業の前に必ず穴・溝・障害物等を確認し、十分に注意して運転・作業を行ってください。また、石・空き缶など飛び跳ねるおそれのあるものや、投棄物・ワイヤーなど機械に巻き込むおそれのあるものを取り除いてから作業してください。また、不法投棄された可燃性のスプレー缶等を巻き込むと発火する危険性があります。



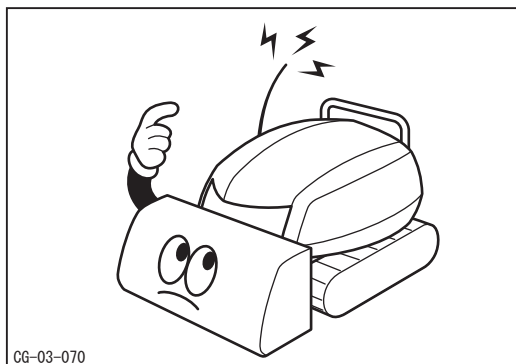
換気の悪い場所での始動・運転禁止

エンジンの始動・運転は必ず換気のよい場所で行なってください。排気ガスによる中毒のおそれがあります。



エンジン始動時の注意

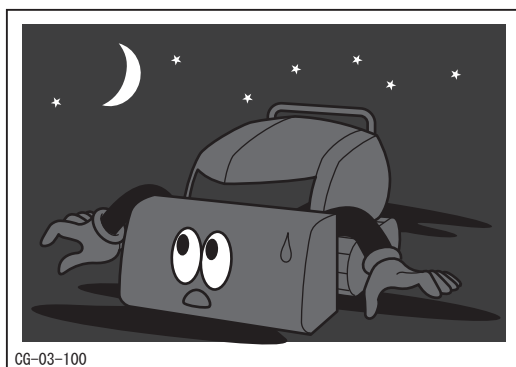
エンジンを始動するときは、操作モードを[マニュアル（手動）]にしてから行ってください。また、スタータ端子を直結してエンジンを始動しないでください。



電波状況の確認

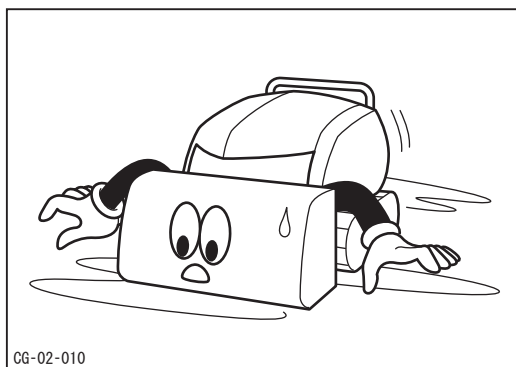
本機はラジコン機です。送信機の操作通りに車両が動作することを確認のうえ使用してください。

- ・ラジコン送信機は水に濡らさないでください。誤作動の恐れがあります。
- ・雨の中で操作するときは、ラジコン送信機が濡れないように注意してください。
- ・本機を長時間雨の中で使用しないでください。誤作動する恐れがあります。



夜間作業の禁止

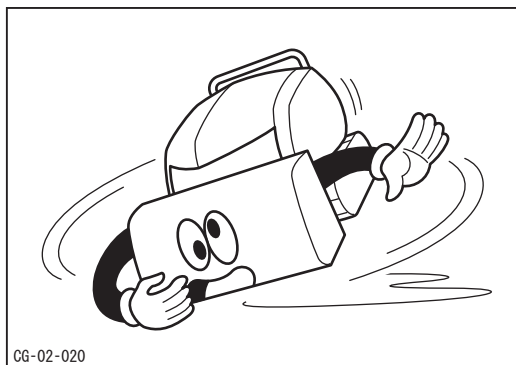
本機には夜間作業用のライトは装備されていません。夜間やトンネル内部などの暗い場所で、十分な照明が確保されていない場所では本機を使用しないでください。



安全速度遵守

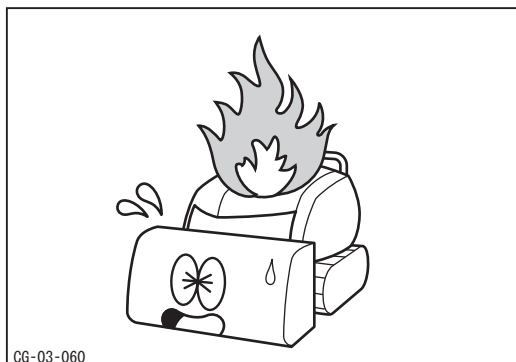
発進時は必ず周囲の安全を確認し、走行時は路面の勾配や状態に応じた安全速度で走行してください。

- ・起伏地や高い草を刈るときは、異物やかくれている障害物に当たらないように、刈り高さを高く設定して作業を行ってください。
- ・移動位置（モアを吊り上げた状態）で刈り取り作業を行わないでください。



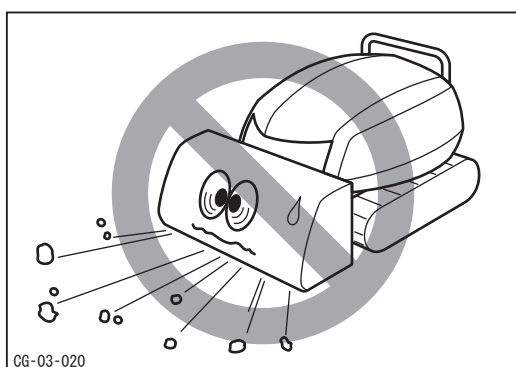
急発進、急加速、急旋回、急停止の禁止

急発進・急加速・急旋回および急停止を行わないでください。車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあります。



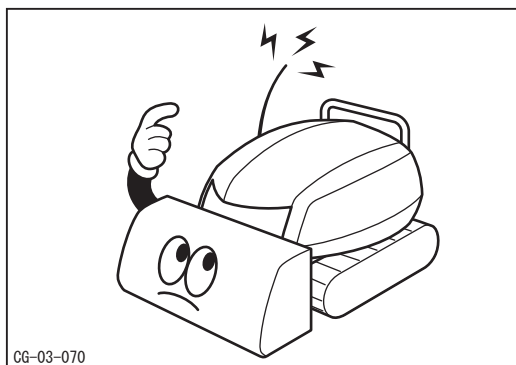
作業中の清掃励行

作業中は、使用 2 時間毎にエンジンルーム内を清掃してください。刈取った草が堆積したまま使用を続けると、エンジン、マフラの熱により発火する危険性があります。枯草刈の場合は1時間に1回以上の清掃を実施して下さい。



周囲へ配慮する

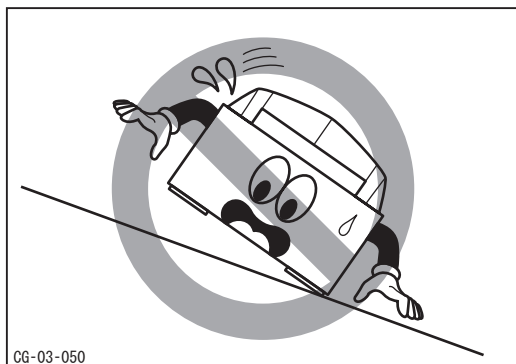
小石等の異物の飛散により、人や動物、農作物、建築物、自動車等へ被害を及ぼさないように十分に注意して作業を行ってください。特にPTOスイッチを[ON]にするときは、モアの前後に人が居ないことを確認してください。また、PTOを[OFF]にした後も、しばらくは刈刃軸が惰性で回転しますので、近づかないでください。



ラジコン使用上の注意

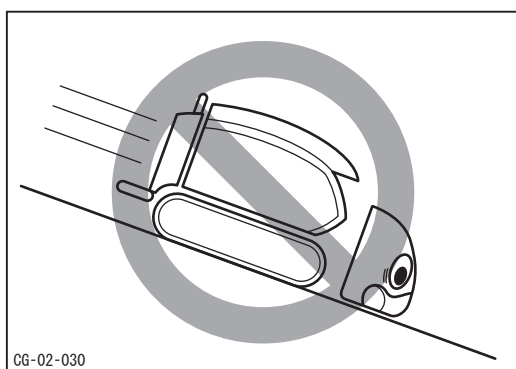
ラジコン操作は慣れが必要です。特に機械に正対して操作する場合は、操作の方向と機械が動く方向が逆になりますので、感覚をつかむまで安全な場所で操作を確認してから作業を行ってください。

- ・ラジコン使用時にコントロール不能になった場合は、送信機の非常停止スイッチを押して機械を停止してください。それでもエンジンが停止しない場合は本機側の緊急エンジン停止スイッチを押すか、キースイッチを[OFF]にしてエンジンを停止します。
- ・本機のエンジンがかかった状態で送信機を放置しないでください。誤操作やいたずらによる暴走のおそれがあります。
- ・ラジコン運転からマニュアル（手動）運転に切換えるときは、必ず一旦走行を停止してから切換えてください。機械が急停止するおそれがあります。



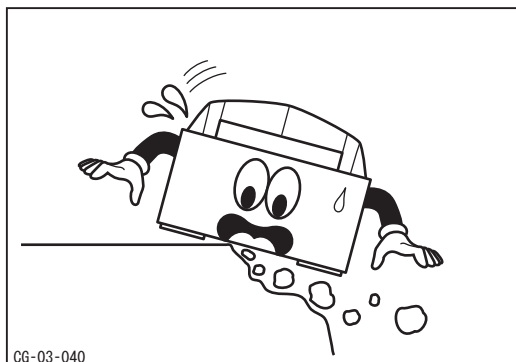
傾斜地での使用時の注意

- ・緊急時以外は、斜面でのマニュアル（手動）操作は行わないでください。
- ・傾斜地では、左クローラのトレッドを広げ機体左側を必ず谷側にし、等高線上を谷側から山側へ刈るようにしてください。斜面上部からの草刈は法面状況の把握が困難となり横転の危険があります。
- ・斜面で旋回を行わず、往復走行での作業を行ってください。斜面での旋回は機械が転倒する危険があります。
- ・傾斜地でラジコン操作を行う場合は、機体の左後方を10mほど離れた位置で操作を行ってください。本機の下側で操作を行うと、転倒・スリップ時に本機に巻き込まれるおそれがあります。
- ・障害物の乗り越え時に車体のバランスを失う可能性があります。無理な乗り越えは行わないでください。
- ・降雨後の濡れた斜面や、草丈の長い斜面では、横滑りの危険があります。このような斜面では、速度を落とし注意して走行してください。



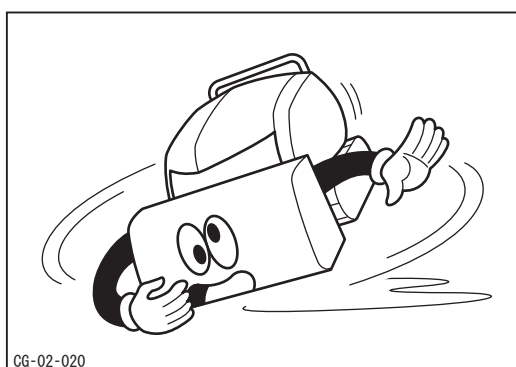
下り坂では低速で走行する

下り坂では特に低速で走行してください。



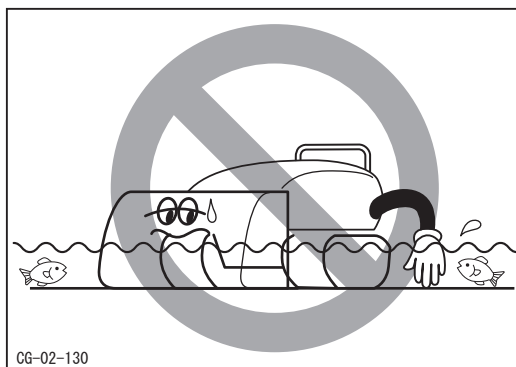
路肩の崩れに注意

溝や土手の端は作業を行わないでください。路肩が崩れるおそれがあります。特に降雨後や地震後は注意してください。



異常発生時

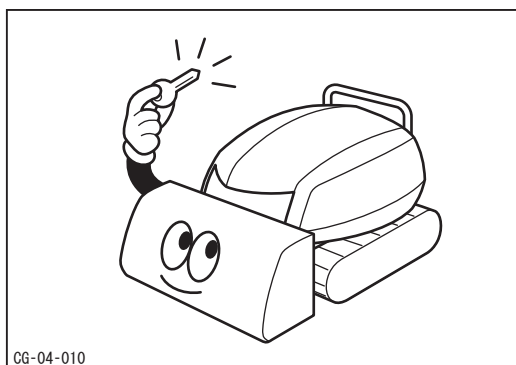
使用中に異常が発生したり、障害物に当たったときは機械を平坦な場所に移動してエンジンを止め、送信機の電源を切ってクローラの前後に車止めをしたうえで、ただちに本機とモアの点検を行ってください。作業を再開する前に必ず破損部を修理してから作業に取り掛かってください。



水深での使用禁止

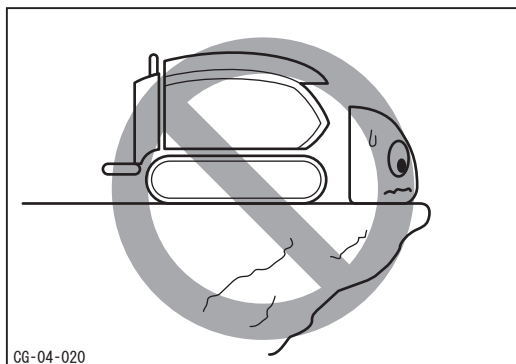
水深や、泥濘地では使用しないでください。電装部品の被水等により、故障する恐れがあります。また、水中・泥濘地で作業終了後は必ず洗浄し、給脂を行ってください。

駐車時の心得



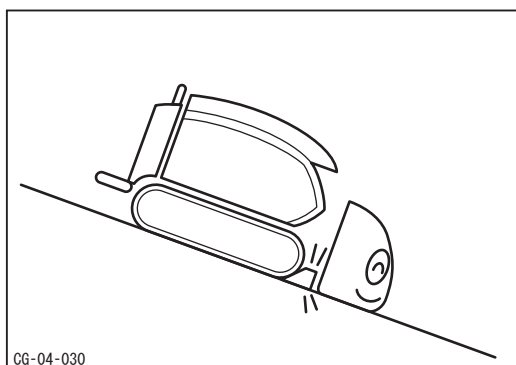
駐車時の安全確認

駐車時は機械を平坦地に置き、モアなどを地上におろした状態でエンジンを停止してください。また、機械を離れるときは必ずキーを抜き、送信機の電源を切ってください。また、クローラの前後に車止めをしてください。



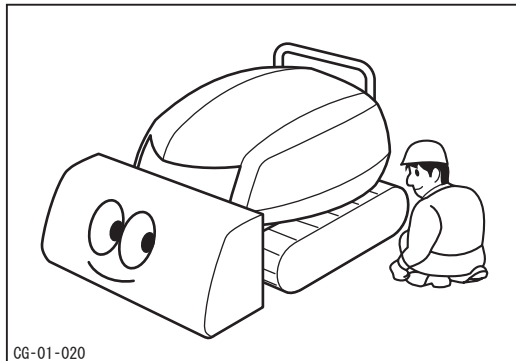
危険な場所や燃えやすい物の近くでの 駐停車禁止

駐停車時は地盤の固い平坦地を選び、危険な場所には駐停車しないでください。また、燃えやすいものの近くには駐停車しないでください。



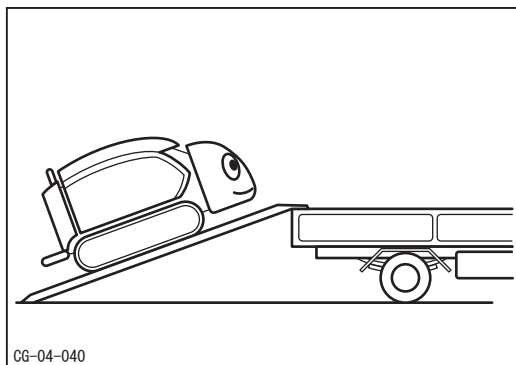
傾斜地での駐車禁止

傾斜地には駐車をしないでください。やむなく傾斜地に駐車する場合は、必ず輪止めをしてください。



使用後の清掃の励行

使用後は、車両に堆積した草等をきれいに取り除いてください。刈取った草が堆積したまま使用を続けると、エンジン、マフラなどの熱により発火する危険性があります。

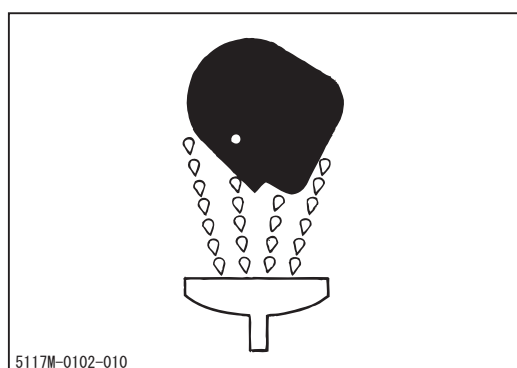
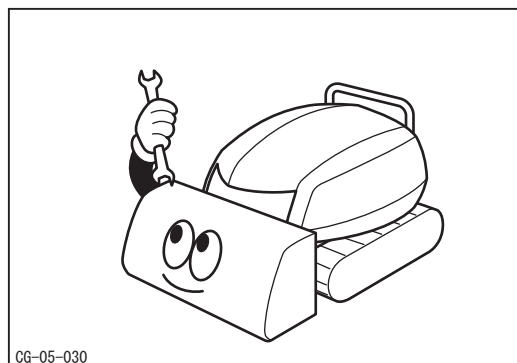


運搬・移動時の注意

本製品は道路運送車両法により道路走行はできません。移動時はトラックなどで運送してください。

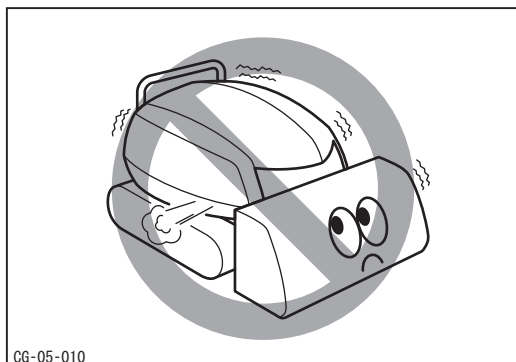
- ・トラックへ積載するときは本製品に適したあゆみ板（ブリッジ）を使用してください。
- ・積載はエンジン回転数を下げ、低速度で安全を確認しながら、積み込みは前進、積み降ろしは後進で行ってください。
- ・積載時はエンジンを停止してクローラに輪止めを施し、車体をワイヤーロープなどでトラックの荷台に固定してください。
- ・運搬中は急発進・急ハンドル・急ブレーキなどを行わず、安全運転を心がけてください。

整備時の心得



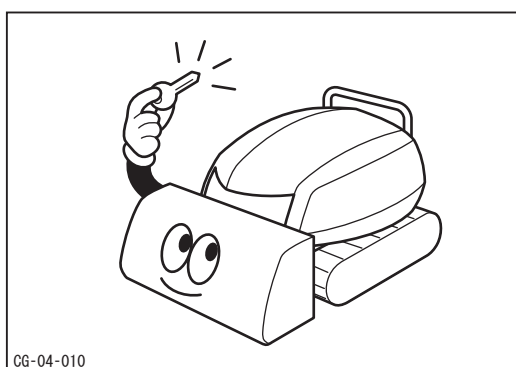
整備上の諸注意

- ・燃料・油脂の取扱時は、火気を近づけないでください。燃料補給時はエンジンを止め、キースイッチを[OFF]にしてください。
- ・バッテリーが放電し、ブースターケーブルを接続して始動するときは、取扱方法をよく読み、それに従ってください。
- ・バッテリー液は希硫酸ですので、取扱には注意してください。体や衣服についた場合はすみやかに水で洗い、医師の診察を受けてください。
- ・短絡事故を防ぐため、バッテリーを外すときは必ずマイナス（－）の端子から外し、接続時もマイナスの端子を最後に取り付けてください。
- ・本製品は油圧装置を備えています。油圧部品を外すときは必ず残圧を抜いてから外してください。圧力のかかった作動油は、皮膚に浸透し、傷害を起こす可能性があります。
- ・油圧装置の油漏れを探すときは、必ず保護メガネをかけ、ボール紙などを利用して漏れを探してください。万一作動油が皮膚に浸透した場合は強度のアレルギーを起こす恐れがあるので、ただちに医師の診察を受けてください。
- ・ラジコンの送受信機内部には絶対に触れないでください。
- ・洗浄時は、ラジコン送受信機やエンジンECUに水が浸入しないよう注意してください。
- ・点検・清掃、修理・調整をするときは、落下防止のため固定台には歯止めをしてください。
- ・車体の下で作業する場合やモアを上げて点検する場合は、リジッドラック等で挟まれ防止の措置を行ってください。



点検・整備時エンジン停止

- ・点検・整備時は必ずエンジンを停止し、キーを抜き取ってください。
- ・運転後はエンジンや周辺機器が高温になっています。エンジン本体やHSTなどに触れないようにしてください。停止後十分に冷えてから点検・整備を行ってください。

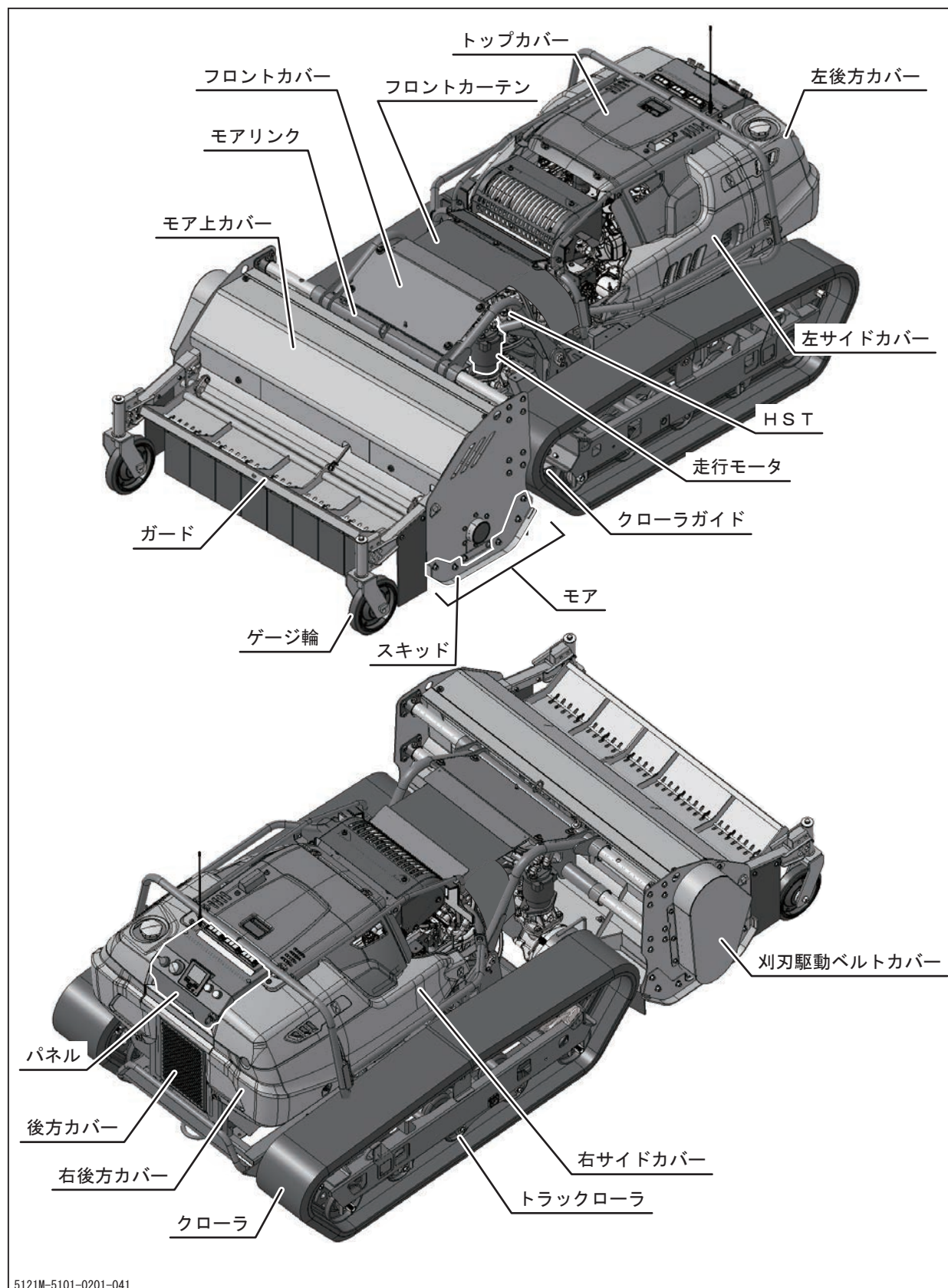


保管時の注意

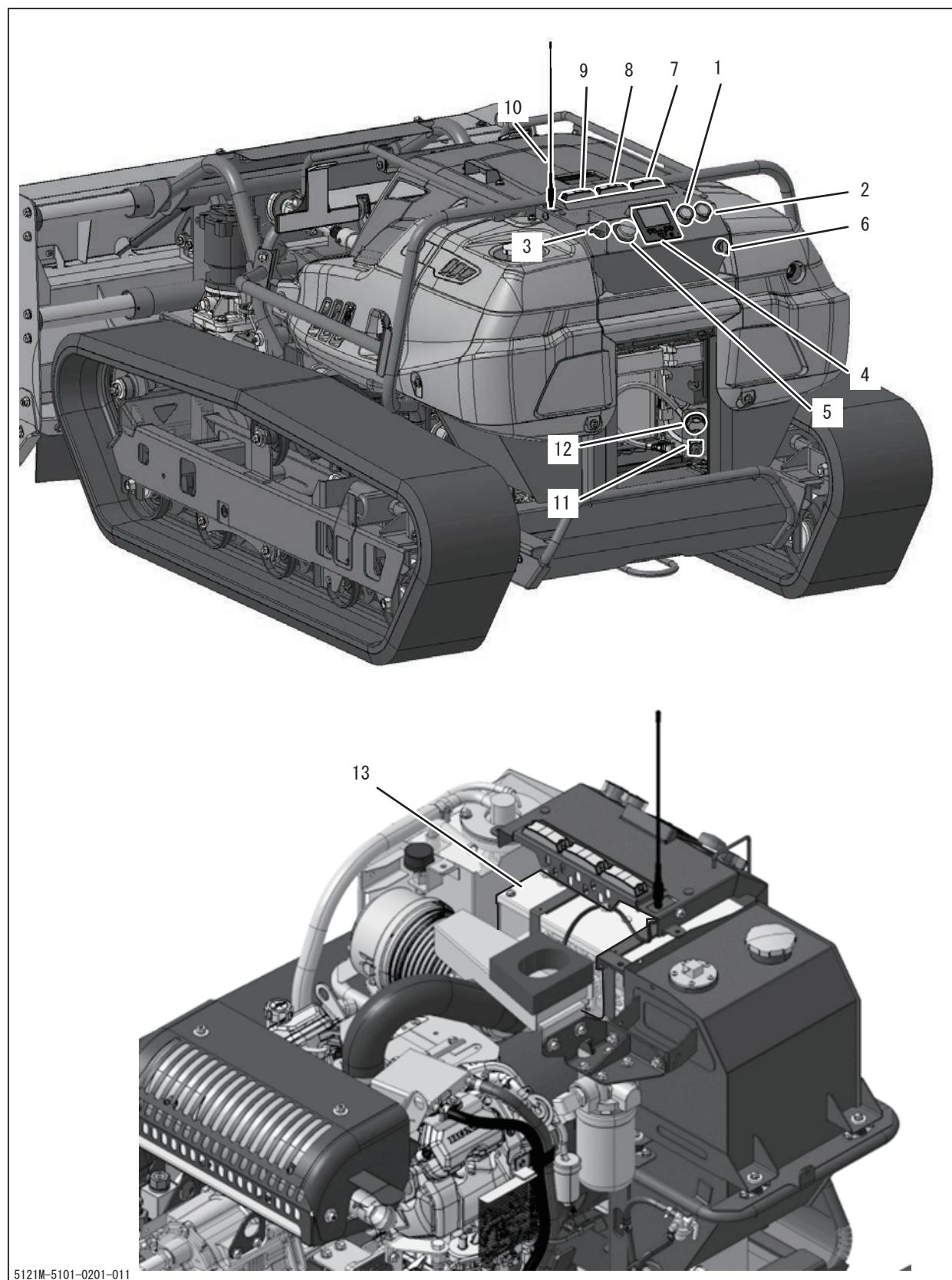
駐車時は事故や盗難、いたずらなどを防ぐために、必ずキーを抜いて保管してください。長期間の保管の時は、バッテリーの放電や漏電防止のため、バッテリーキルスイッチを[OFF]にして保管してください。

各部の名称とはたらき

本機

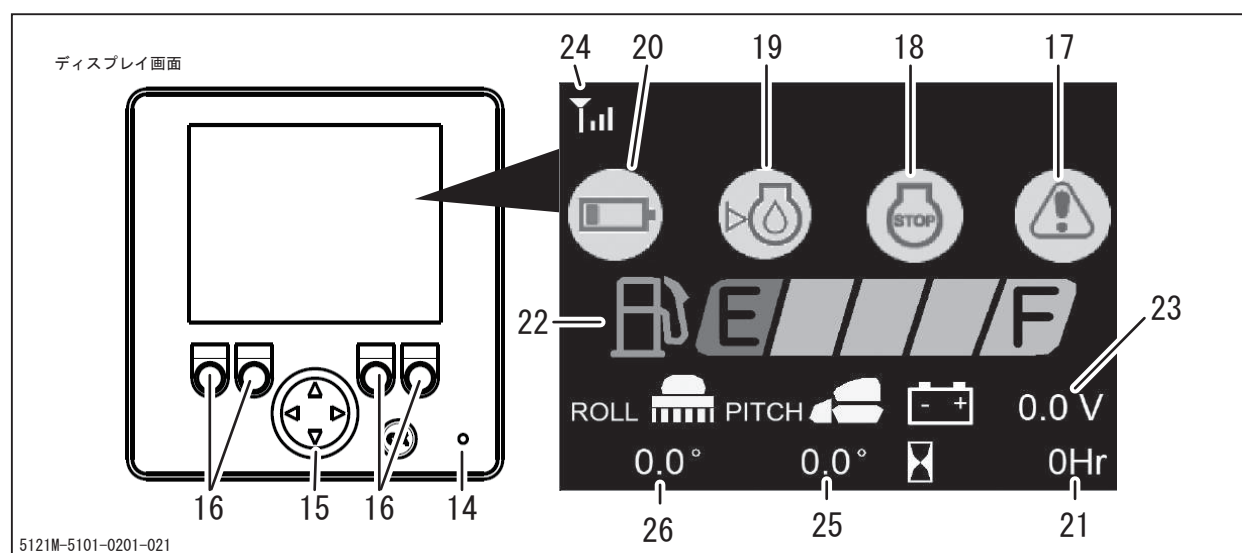


5121M-5101-0201-041



- 1 手動/ラジコン切替……………スイッチを押す度に、ラジコンとマニュアル（手動）モードに切り替わります。（走行中はスイッチを切り替えないでください。
 スイッチランプ点灯時…… ラジコンモード
 スイッチランプ消灯時…… マニュアル（手動）モード
 スイッチランプ点滅時…… エンジン運転前にラジコンモードになっています。
 エンジン始動時は、手動にセットします。
- 2 負荷制御スイッチ ……………アクセルノブを最高回転位置で、スイッチを“入”（スイッチランプ点灯）にしておくと、作業中に急激な負荷がかかった場合、車速を自動的に減速し、エンジンストールを極力防止します。また、負荷が軽減すると車速スティックで設定している速度まで自動的に復帰します。車速を減速してもエンジンの回転数が戻らず、指定回転数以下になってしまった場合は、自動で刈刃クラッチを切ります。
 【負荷制御条件詳細】
 設定エンジン回転数75%で減速します。
 設定エンジン回転数65%で刈刃クラッチOFFします。
- 3 アクセルノブ ……………エンジンの回転数を増減します。
 ……エンジン回転が上がります。
 ……エンジン回転が下がります。
- 4 ディスプレイ ……………エンジン回転数、燃料残量、累計稼働時間等を表示します。
- 5 緊急エンジン停止スイッチ ……緊急でエンジンを停止したい時に用います。
- 6 キースイッチ ……………エンジンの始動・停止に用います。
- 7 受信異常警告灯(赤色) ……ラジコンで走行中、本機が送信機の電波を正しく受信できなくなると、走行を停止し表示灯が点滅します。この状態が5秒以上続くとモアの回転も停止します。本機に近づくなど、正しく受信できるようにしてください。
- 8 作業機作働中警告灯(青色) ……モアを回転させると、表示灯が点滅します。モアを回転させたまま、高く上げたり、人を近づけたりしないでください。

- 9 傾斜警告灯(黄色) ……1秒間に2回点滅……車体の前後、右傾斜時の角度が20度、もしくは左傾斜時の角度がディスプレイで設定した角度を超えた時
2秒間隔に1回点滅…燃料残量が低下している時
- 10 受信アンテナ ……ラジコンの電波を受信します。改造したり仕様の異なるものを取り付けないでください。
- 11 マニュアルコントローラ ……マニュアル運転を行なうとき、マニュアルコントローラの接続端子
接続端子
ケーブルを接続します。マニュアルコントローラのケーブルを接続していないときは、キャップをはめ確実にロックしてください。キャップがなく雨水が入った場合は、故障・誤動作の原因となります。
- 12 バッテリキルスイッチ ……バッテリマイナス回路の接続・切断を切り替えることができ、車両整備・長期保管等に使用します。
- 13 コントローラ ……走行・モアの制御を行います。

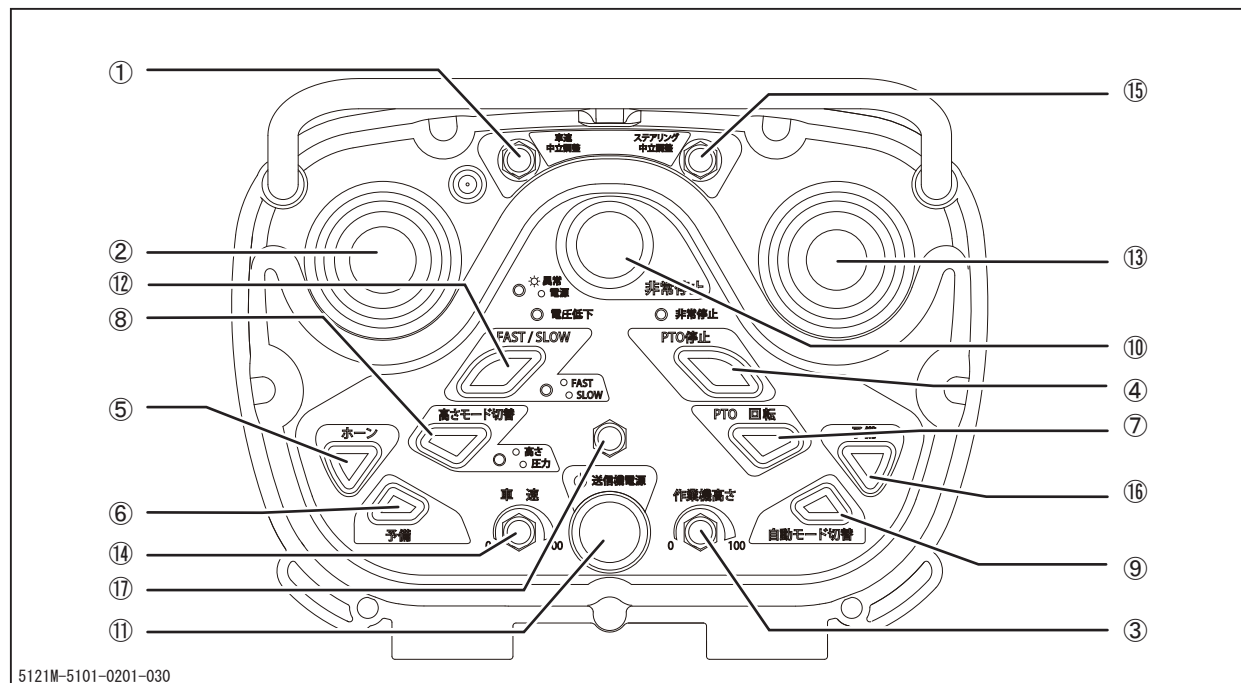


- 14 LED ……ディスプレイ故障時に赤色に点灯します。
- 15 カーソルスイッチ ……頁切り替えやクリーニングモード時に使用します。
- 16 4連スイッチ ……画面ごとに機能が異なります。(☞ディスプレイ操作のしかた、58ページ)

- 17 エラー ……エンジン、車体ECUのいずれかのエラーを検出します。(※¹)
- 18 エンジン非常停止 ……送信機非常停止スイッチ作動、横転検出時やエンジン停止要求のある故障発生時にエンジンを停止して点灯します。
(※¹)
- 19 エンジンオイル ……エンジンオイルレベルの低下検出時に点灯します。(※¹)
レベル低下警告 本警告は、エンジンオイルレベルスイッチがオイル量低下を検出したら点灯し、エンジンが停止します。
- 20 車体バッテリー電圧低下警告 ……車体バッテリー電圧の低下検出時に点灯します。(※¹)
- 21 アワメータ ……ディスプレイ上にエンジンの回転した積算時間を表示します。エンジンメカ、キャニコムにて動作確認後、出荷していますので積算時間は0ではなく、ばらつきがあります。
(※¹)
- 22 燃料計 ……燃料タンク内の残量を表示します。
F……満タン／ E……空 (※¹)
- 23 バッテリ電圧計 ……現在のバッテリー電圧を表示します。(※¹)
- 24 受信感度 ……無線の受信感度を示します。(※¹)
0：電波なし
1：受信不良
2：通常
3：良好
- 25 ピッチ角度 ……車体のピッチ（前後）方向の角度を表示します。(※¹)
- 26 ロール角度 ……車体のロール（左右）方向の角度を表示します。(※¹)

(※¹：キースイッチをONにしたときに表示されます)

ラジコン送信機



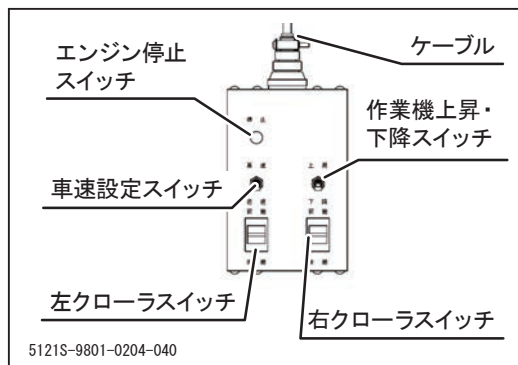
ラジコン送信機による操作は、本機の手動/ラジコン切替スイッチがラジコンになっており、かつ送信機の電波が正常に受信されているときのみ可能です。

＊送信機は精密機械のため、落したり過度な操作力を加えたりせず、取扱い、操作には十分注意してください。またスイッチ、ケース類が破損した場合はすみやかに修理してください。

- 1 車速中立調整 ……………車速スティックのニュートラルを調整します。
- 2 車速スティック ……………走行スピードの調整と進行方向を決めます。
- 3 作業機高さ調節ダイヤル ……自動モードにした時の圧力値または高さを設定します。
(高さモード切替が“圧力”の場合、作業機高さ調整ダイヤルが約40%以上でモアが上がり出します。フローティングで作業する場合は、40%以下に設定してください。)
- 4 PTO停止スイッチ……………PTOを停止します。
- 5 ホーンスイッチ ……………ホーンを鳴らします。
- 6 予備スイッチ ……………未使用

-
- 7 PT0回転スイッチ……………PT0を回転させます。
 - 8 作業機高さモード切替 ……モアの刈高さモードを切り替えます。
 - 9 作業機自動モード ……モアの刈高さ調節を自動モードにします。
圧力点灯時（ゲージ輪が地面に接地し、起伏に追従）
 - 10 非常停止スイッチ ……本機を非常停止させます。
 - 11 電源スイッチ ……送信機の電源です。
 - 12 車速スティック用減速 ……スイッチ“SLOW”時、車速調節ダイヤルで最高車速の設定が行えます。
 - 13 ステアリングスティック ……旋回方向を変えます。また、ステアリングモードを、ピボットターン、スピントーンから選択します。
 - 14 車速調整ダイヤル ……車速スティック操作時の最高速度を設定します。
 - 15 ステアリング中立調整 ……ステアリングスティックのニュートラルを調整します。
 - 16 予備スイッチ ……未使用
 - 17 予備ダイヤル ……未使用
スイッチ

マニュアルコントローラ



ケーブル：車体と接続

エンジン停止スイッチ：押すとエンジンを停止

車速設定スイッチ：車速を高速か低速に設定

左クローラスイッチ：左クローラ前後進

作業機上昇・下降スイッチ：作業機の昇降

右クローラスイッチ：右クローラ前後進

操作装置のシンボルマーク

本製品、および本書には運転操作及び保守管理のために、下に示す操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味をよく理解し、誤操作の内容に注意してご使用ください。

	燃料計
	バッテリー電圧低下警告
	エンジンオイルレベル低下警告
	エンジン非常停止
	エラー
	受信感度

	バッテリー電圧
	アワメータ
	高速、または高
	低速、または低

本製品の仕様

 注 意

・本製品の仕様を理解した上で、正しく使用してください。

名 称 ・ 型 式			CG271HC
機 械 質 量		kg	740
使 用 温 度 範 囲		℃	-5～40
使 用 標 高 範 囲		m	1500以下
機 械 寸 法	全 長	mm	2320 (2010) *1
	全 幅	mm	1275 (1440) *2
	全 高	mm	905 (1220) *3
	ク ロ ー ラ 中 心 距 離	mm	955～1155
	最 低 地 上 高	mm	145
	平 均 接 地 圧	kPa (kgf/cm ²)	16.0 (0.16)
エ ン ジ ン	名 称		空冷4サイクル2気筒OHV式ガソリン
	型 式		HONDA iGX800
	シリンダー（内径×行程）	mm	83×72
	総 排 気 量	cc	779
	最 大 ト ル ク	N・m/rpm	54.5/2500 *4
	最 大 出 力	kW(PS)/rpm	18.6(25.3)/3600 *4
	連 続 定 格 出 力	kW(PS)/rpm	15(20.4)/3600
	無 負 荷 最 高 回 転 数	rpm	3600±150
	ア イ ド ル 回 転 数	rpm	1400±150
	始 動 方 式		セルスタータ
	使 用 燃 料		自動車用無鉛ガソリン
	燃 料 タ ン ク 容 量	L	20
	定 格 燃 料 消 費	L/h	7.1
	エ ン ジ ン オ イ ル 容 量	L	交換時1.7、フィルタ込み1.9
	点 火 方 式		フルトランジスタ
	点 火 プ ラ グ		BPR5ES (NGK)

*1：（ ）内は輸送時（ゲージ輪外し＋ガード閉じた状態）の数値です。

*2：（ ）内は、左クローラトレッド拡張時の数値です。

*3：（ ）内は、アンテナを立てた時の数値です。

*4：ここに表示したエンジン出力は SAE J1349 に準拠して 3,600min⁻¹(rpm)（エンジンの最大出力）および 2,500min⁻¹(rpm)（エンジン最大トルク）で測定された代表的なエンジンのネット出力値である。量産エンジンの出力はこの数値と変わることがある。完成機に搭載された状態での実出力値はエンジン回転数、使用環境、メンテナンス状態やその他の条件により変化する。

※この仕様は、改良のため予告なく変更する場合があります。

名 称 ・ 型 式			CG271HC
走行性能	方式		可変油圧ポンプ＋油圧モータ
	履 帯		ゴムクローラ
	走行速度	前進	km/h
		後進	km/h
	静止安定角度	左	度
		右	度
	最大走行傾斜度	登坂方向	度
		左右方向	度
刈取装置	刈 刃 形 式		フリー刃
	刈 幅		mm
	刈 刃 枚 数		枚
	刈 刃 駆 動 方 式		油圧クラッチ＋プロペラシャフト＋ベルト駆動
	刈 高 さ		mm
	モア昇降高さ（最大）		mm
	ス ラ イ ド 量		mm
ラジコン	周 波 数 方 式		429.2500～ 429.7375MHz (12.5kHz間隔 40波中 1 波自動選択)/ 特定小電力無線装置/免許不要
	操 作 項 目	走 行	車速スティック（スプリングバック）
			ステアリングスティック
			トレッド伸縮スイッチ
			車速調整ボリューム
		モ ア	PTOスイッチ
			作業機昇降スイッチ
			作業機刈高さ調整ボリューム
			作業機圧力/高さモードスイッチ
		ホ ー ン	ホーンスイッチ
		エ ン ジ ン	非常停止スイッチ

*5：（ ）内は、左クローラトレッドを拡張した際の数値です。

*6：刈高さは圃場の状態で変化する場合があります。

※この仕様は、改良のため予告なく変更する場合があります。

標準付属品明細

チェック	No.	部 品 名	個 数	備 考
☐	1	取扱説明書	1	本書
☐	2	エンジン取扱説明書	1	
☐	3	エンジン工具	1	エンジン整備用
☐	4	グリースニップル	1	トラックローラグリスアップ用 (☞78ページ)
☐	5	ホース	1	エンジンオイル交換用 (☞82ページ)
☐	6	ブラケット	1	モアカバー用 (☞55ページ)
☐	7	フックパイプ	2	吊上げ用フック (☞116ページ)
☐	8	ピン	2	吊上げ用フック抜け防止用 (☞116ページ)
☐	9	リンクピン	2	抜け防止ピンロック (☞116ページ)
☐	10	シャープピン (首下46mm)	1	刈刃ギヤケース-プーリ間用 (☞107ページ)
☐	11	シャープピン (首下51mm)	2	プロペラシャフト両端用 (☞107ページ)
☐	12	PW	3	シャープピン固定用
☐	13	ワリピン	3	シャープピン
☐	14	キャップ	30	クローラスパイク穴用 (28ヶ+予備2ヶ)
☐	15	消火器	1	

運転前の準備

始業点検

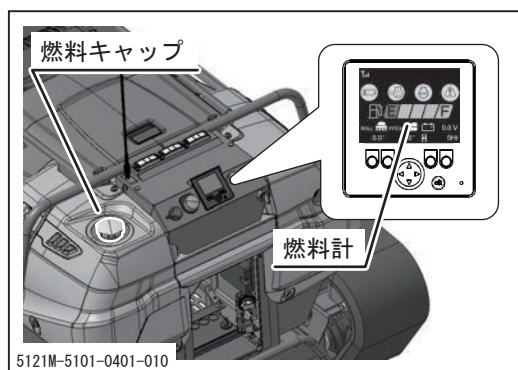
運転前には必ず始業点検を行ってください。

点検の要領については「定期点検表」（71ページ）を参照してください。

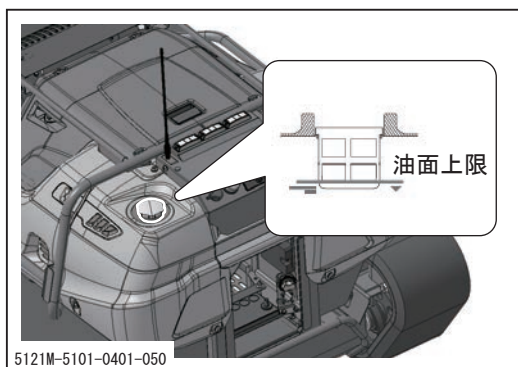
燃料の点検と補給

！ 警 告

- ・ 燃料の取扱時は、火気を燃料に近づけないでください。
- ・ 給油は必ずエンジンを停止した状態で行ってください。
- ・ 身体に静電気を帯びたまま作業すると、放電による引火、爆発が起き重大な傷害につながる恐れがあります。燃料キャップを開ける前には、車体などの金属部に触れ静電気を除去してください。
- ・ 燃料キャップを開ける際は、ゆっくりゆるめ、空気の抜ける音が止まってから取り外して下さい。急に開けると気化したガソリンが急激に放出されることがあります。
- ・ 給油時に燃料がこぼれた場合にはすみやかに拭き取ってください。
- ・ 給油は油面上限（給油口内フィルタ下段）以下になるようにして、給油口から燃料がこぼれないよう十分注意してください。油面上限を超えて給油した場合、燃料もれを起こす可能性があります。



1. キースイッチを[ON]にした状態で、ディスプレイ上の燃料計を確認し、燃料が不足している場合は、燃料を補給します。



2. 燃料キャップを外して給油します。給油後、キャップを確実に締めます。

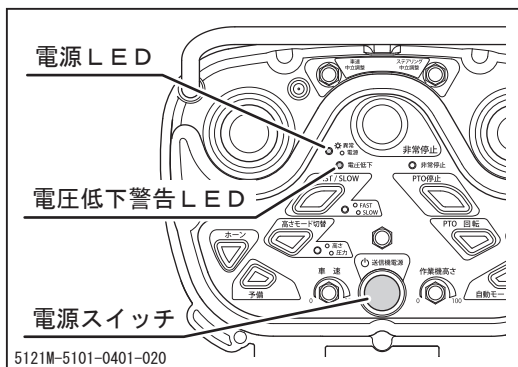
アドバイス

- ・ 使用燃料、タンク容量：78ページ

送信機の充電とバッテリー交換

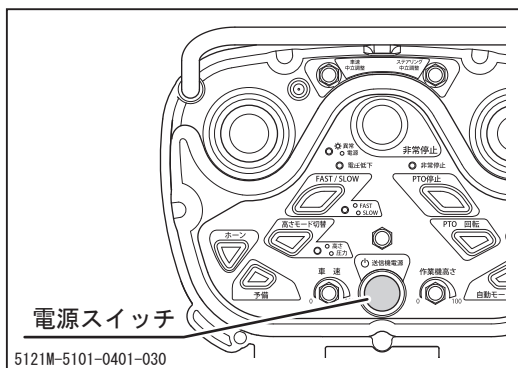
⚠ 危険

- ・ 送信機のバッテリー電圧が低下したままで操作を行うと、操作中にバッテリーが切れ本機が操作不能になり、重大な事故に繋がる恐れがあります。送信機のバッテリー電圧低下警告LEDが点滅・点灯したら、ただちに送信機のバッテリーを交換または充電してください。



送信機の充電

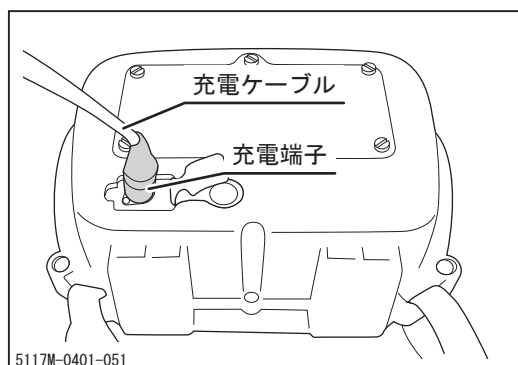
1. 電源スイッチを押して送信機の電源を入れ、送信機のバッテリー電圧を確認します。バッテリー電圧が低下してくると[電圧低下（電低）警告LED]が点滅します。その状態から約15分後に[電圧低下（電低）警告LED]が点灯し、操作不能となります。その場合はただちにバッテリーを充電します。



2. 電源スイッチを押して送信機の電源を切ります。

アドバイス

- ・ 充電は必ず送信機の電源を切ってから行ってください。
- ・ 満充電の状態では送信機は20時間程度使用することが出来ます。



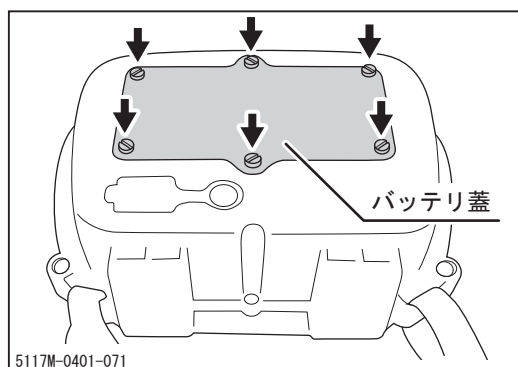
3. 充電器の充電ケーブルを送信機裏側の充電端子に差し込み充電します。
4. 充電器の電源ケーブルを家庭用100Vのコンセントに差し込み充電を行います。
5. 下記の充電器LEDメッセージ機能を参考に、充電が完了するまで充電します。
6. 充電が完了したら、充電器の電源ケーブルをコンセントから抜き、充電ケーブルを送信機から抜きます。

リフレッシュLED	状 態
緑点灯	準備中
緑点滅	放電中

充電LED	状 態
赤点灯	通電中、電池接続前
緑点滅	予備充電中
黄点灯	急速充電中
緑点灯	充電完了
赤点滅	電池不良
赤と緑点滅	充電出力過電圧

👉 アドバイス

- ・付属の充電器は過充電防止機能があります。



バッテリーの交換

1. 送信機裏のバッテリー蓋を固定しているビス(6本)をコインか(－)ドライバーで緩め、バッテリー蓋を取り外します。
2. 中のバッテリーを取り外し、新しいバッテリーと交換します。
3. バッテリー蓋を閉め、ビス(6本)で固定します。

運転のしかた

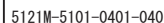
始動のしかた

警 告

- ・ エンジンの始動は必ず換気のよい場所で行ってください。一酸化炭素中毒の恐れがあります。
- ・ エンジンを始動する前に、必ず手動/ラジコン切替スイッチが[手動]になっていることを確認してください。
- ・ エンジン始動時は、送信機の電源スイッチも[OFF]になっていることを確認してください。
- ・ マニュアルコントローラで操作しない場合は、マニュアルコントローラ接続端子のキャップが確実にロックされていることを確認してください。キャップがされておらず、端子が濡れている場合は、端子を乾かしてからキャップを嵌めてください。マニュアルコントローラ端子が濡れると誤作動の原因となります。
- ・ 本機及びラジコン送信機を雨の中で使用しないでください。故障や誤作動の原因になります。
- ・ 機械が突然動き出すおそれがあるため、絶対にスタータ端子を直結してエンジンを始動しないでください。

注 意

- ・ エンジン回転中は、キースイッチを[スタート]の位置に回さないでください。スタータモータおよびエンジン破損の原因となります。
- ・ 10秒以上スタータモータを回さないでください。始動しない場合はキースイッチを[OFF]の位置に戻し、30秒以上休んでから再始動してください。
- ・ 冬期または寒冷地では十分に暖機運転を行ってください。エンジンが十分に暖まらないうちに作業すると、エンジンや油圧機器の寿命を縮めるおそれがあります。



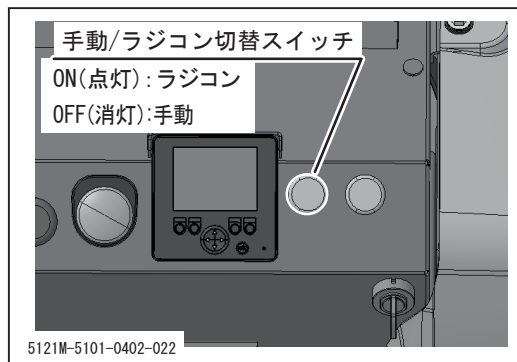
2. パネルの緊急エンジン停止スイッチが“運転”になっていることを確認します。



- ①受信異常表示回転灯（赤色）
- ②モア作動中表示回転灯（青色）
- ③傾斜警告表示回転灯（黄色）

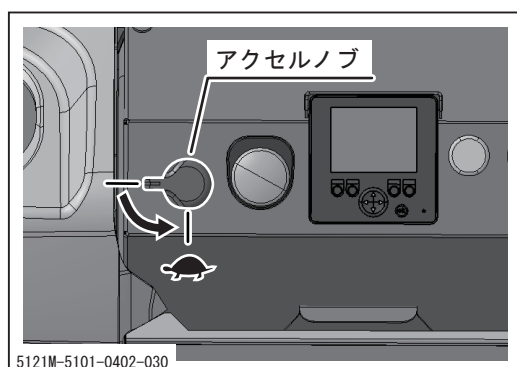


- ・手動/ラジコン切替スイッチが[ラジコン]になっている場合は、ランプは連続点滅します。
- ・点灯すべきランプが点灯しない場合は部品を交換してください。
- ・ランプが点滅している場合は、その原因を処置してから使用してください。



4. 手動/ラジコン切替スイッチが[手動]に切り替わっているか確認します。

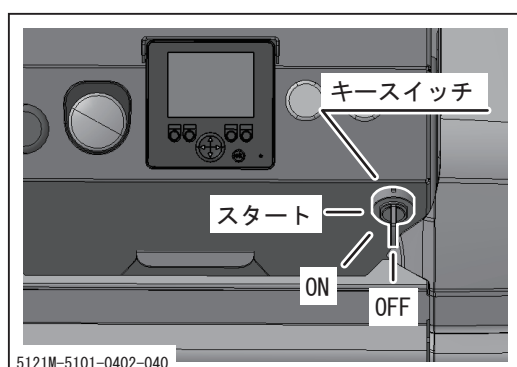
ON(点灯):ラジコン OFF(消灯):手動



5. アクセルノブを[亀(低速)]にします。
6. モニタホーム画面が表示されるのを待ちます。

アドバイス

- ・ バッテリ電圧が10.5V以下の場合は補充電後、始動してください。
※キースイッチ[ON]位置で一定時間エンジンがかからないとバッテリー表示が0.1Vとなりますが、故障ではありません。
- ・ 緊急エンジン停止スイッチが“停止”のままキースイッチを[ON]にした場合、一旦キースイッチを[OFF]にし、緊急エンジン停止スイッチを“運転”にしてから再度キースイッチを[ON]にしてください。キースイッチを[ON]にしたまま緊急停止スイッチを操作するとバッテリー電圧低下のエラーを検出します。



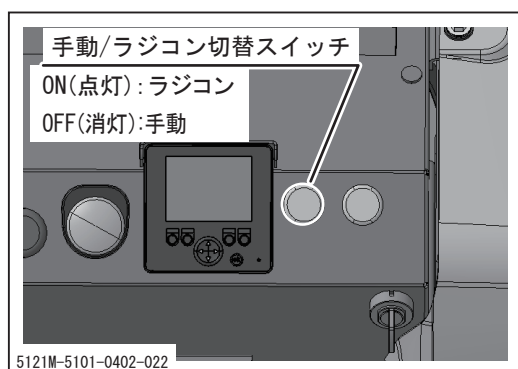
7. モニタホーム画面が表示されたのを確認した後でキースイッチを[スタート]位置に回し、エンジンを始動します。エンジンが始動したら、キーから手を離してください。
8. そのまま5分程度暖機運転します。

👉 アドバイス

購入後、最初の 20 時間は慣らし運転期間として、過負荷をかけないように控えめな運転を行なってください。この期間中は、特に次のことを守ってください。

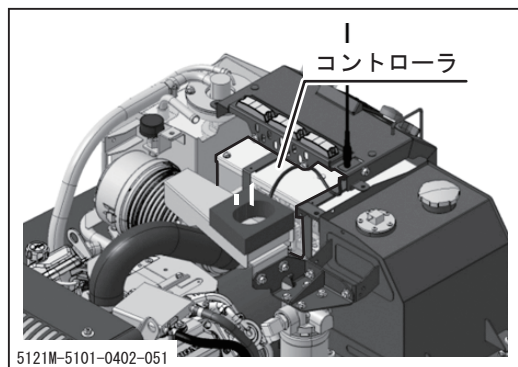
- ・必要以上のスピードや負荷をかけないようにしてください。
- ・運転はエンジンが十分暖まってから行なうようにしてください。
- ・悪路や傾斜地では速度を落とし、ゆっくりと走行してください。

エンジン再始動のしかた



エンジン始動後、エンストした場合

1. 一度、本機とラジコン送信機の電源を[OFF]にします。
2. 本機のキースイッチを[ON]にし、モニタランプを点検します。
3. 手動/ラジコン切替スイッチを“手動”に戻し、再度エンジンを始動させてください。



センサ・アクチュエータ等の異常でエンジンが停止した場合

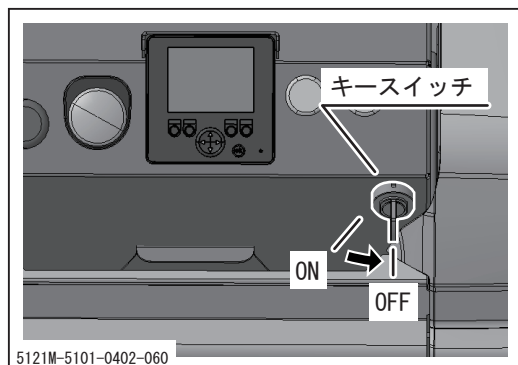
センサ・アクチュエータ等の異常を検知した場合、エンジンが自動的に停止し、その原因がディスプレイに表示されます。異常停止した場合は、その項目について確認・処置を行なった後、運転してください。（☞114ページ）

故障が検出された場合はディスプレイに故障コードが表示されます。故障コードが表示された場合は販売店にお問い合わせください。

👉 アドバイス

- ・エンジンや車体ECUが異常を検知した時は、ディスプレイのエラーが点灯し、現在エラー画面が表示されます。
- ・異常検知状態のまま使用すると、故障や事故の原因となりますので、必ず必要な処置をとってください。

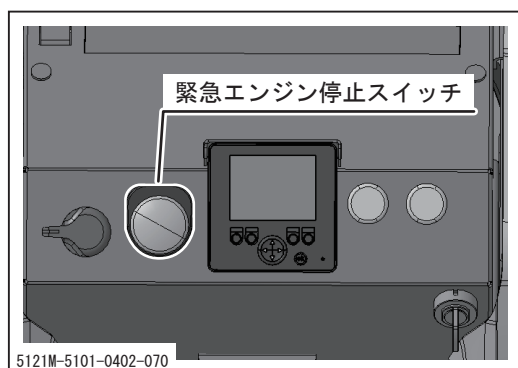
エンジン停止のしかた



本機のキースイッチによるエンジン停止
キースイッチを[OFF]にすると、エンジンが停止します。

👉 アドバイス

- ・手動/ラジコン切替スイッチを“ラジコン”に切り替えた場合は、エンジン停止後“手動”（スイッチランプ消灯）に戻しておいてください。



緊急エンジン停止

本機が予期せぬ挙動をした時、ラジコン操作でエンジンが停止しない場合は、操作部にある緊急エンジン停止スイッチを押してください。停止後、必ずキースイッチを[OFF]にし、スイッチを“運転”の位置まで回してください。

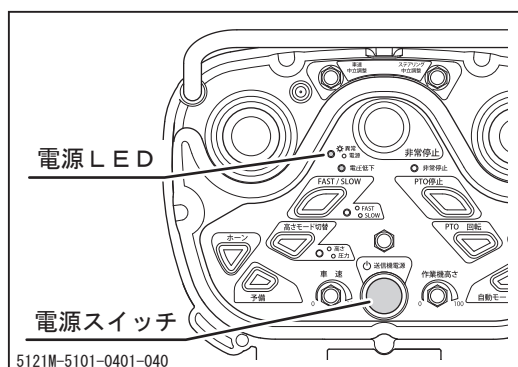
ラジコン送信機の使い方

！ 危 険

- ・送信機のバッテリー電圧が低下したままで操作を行うと、操作中にバッテリーが切れ本機が操作不能になり、重大な事故に繋がる恐れがあります。送信機のバッテリー電圧低下警告LEDが点滅・点灯したら、ただちに送信機のバッテリーを交換または充電してください。

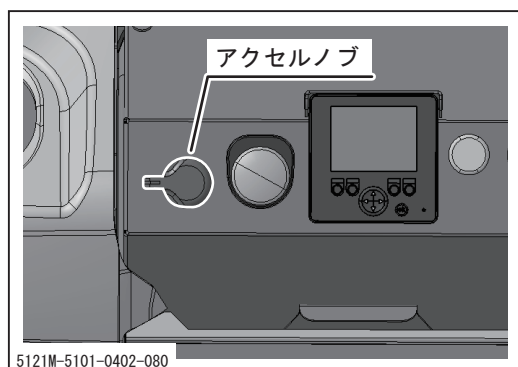
！ 警 告

- ・ラジコンで作業中に作業者と本機が離れすぎたり（約100mは操作可能）、距離が遠くなくても地形の関係上、機械が送信機の電波を正しく受け取れないことがあります（受信異常状態と呼びます）。この場合、本機は走行を停止し、赤色警告灯が点灯します。送信機のスイッチを入れなおし、しばらく待っても赤色警告灯が消灯しない場合は、本機に近づくなどして、正しく受信できるようにしてください。
- ・送信機で操作を2分間行わなかったときは、自動的に送信ができなくなります。この場合、本機はモアを停止し赤色警告灯が点灯します。作業を再開する場合は、送信機の電源スイッチを一旦[OFF]にし、再度[ON]にしてください。
- ・本機側アンテナの締め付け状態が悪いと受信異常を起こす恐れがあります。必ず始動前にアンテナの締め付け状態を確認してください。

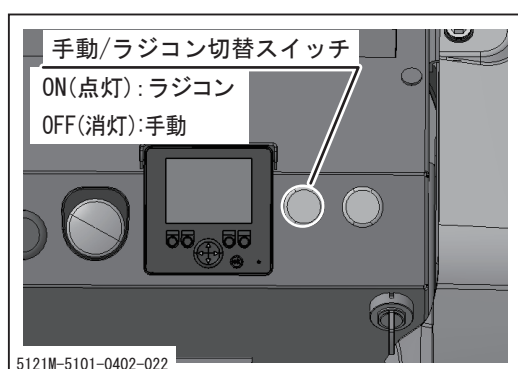


ラジコンモードへの切り替え

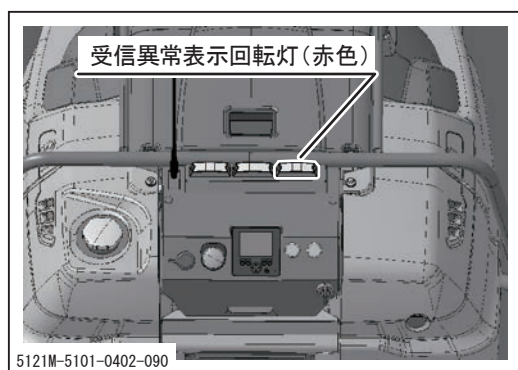
1. 送信機の電源LEDが消灯していることを確認します。



2. エンジン始動後、アクセルノブを適切な位置に調整します。

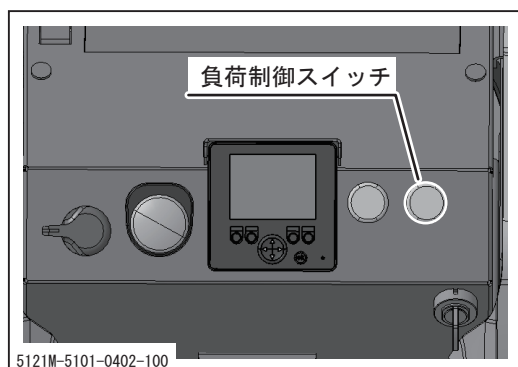


3. 手動/ラジコン切替スイッチを押し、[ラジコン (スイッチランプ点灯)] に切り替えます。



アドバイス

- ・ラジコンモードに切り替わると、スイッチランプと本機上部の赤色警告灯が点灯します。



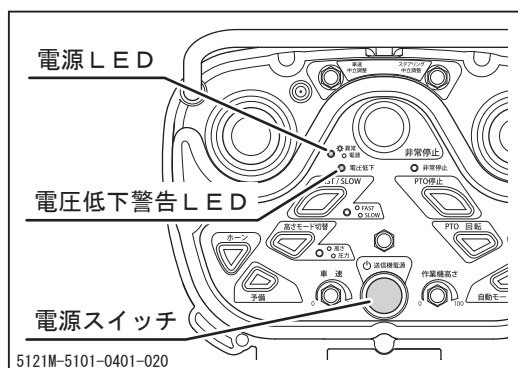
4. 負荷制御スイッチを押し、負荷制御の[入]・[切]を選択します。

負荷制御[入]……スイッチランプ点灯

負荷制御[切]……スイッチランプ消灯

アドバイス

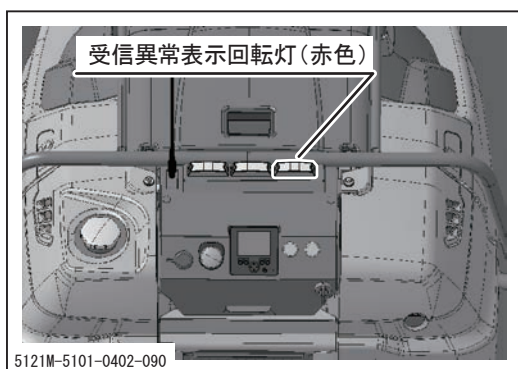
- ・ 負荷制御は作業中の急激な負荷増加時のエンストを防止するため、エンジン回転数が一定回転数以下になった場合、走行速度を減速させ、モアの出力を停止してエンジン回転数を回復させる機能です。



5. 電源スイッチを押して送信機の電源を入れます。電源が入ると電源LEDが点灯します。

アドバイス

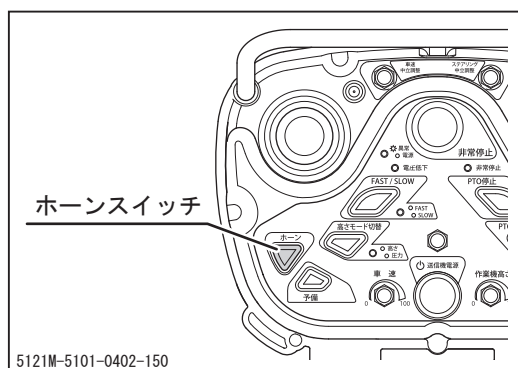
- ・ 送信機のバッテリー電圧が低下している時は、[電圧低下（電低）警告LED]が点滅し、そこから約15分後に[電圧低下（電低）警告LED]が点灯し、操作不能となります。電低LEDが点滅・点灯した時は、ただちに送信機のバッテリーを交換または充電してください。
- ・ 本機の受信機が送信機からの電波を受信し、操作が可能な状態になると、本機上部の赤色警告灯（受信異常警告灯）が消灯します。消灯を確認後、送信機で操作を行ってください。





アドバイス

- ・ラジコン運転中、送信機の落下などを防止し、操作をしやすいために、必ず送信機を肩ベルトと腰ベルトで体に固定して使用してください。
- ・送信機上面は生活防水となっていますので、短時間であれば雨中で使用することもできます。しかし、長時間または強い雨天での使用は行わないでください。また、送信機を水洗いしないでください。送信機裏面は非防水のために浸水し、故障や誤作動を起こす可能性があります。



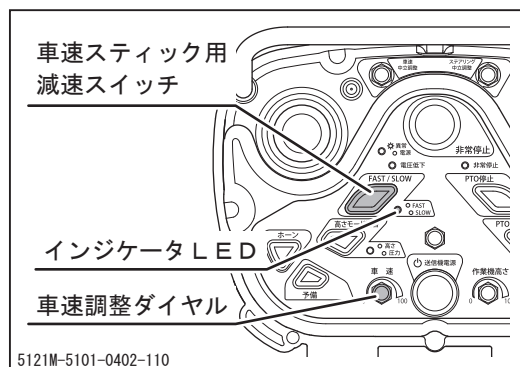
車速中立位置の確認

エンジン始動時、車速中立位置の確認を行ってください。中立が狂っている場合は中立位置の調整（P.99ページ）を行ってください。

1. エンジン始動後、車速スティックから手を離し、スティックが[中立]の状態です。ホーンスイッチを押し（約0.5秒）、ホーンがピーと1回鳴ることを確認してください。
2. ホーンが2回、または3回鳴る場合は車速中立位置がズレているので調整してください。

アドバイス

- ・ホーンスイッチは車速中立位置の設定後は通常のホーンとして使用できます。



最高速度の設定

1. 車速スティック用減速スイッチを[SLOW]にすると、インジケータLEDが消灯し、前後進の最高速度を、車速調整ダイヤルで設定できます。ダイヤルを左に一杯回すとほぼ停止状態となります。右へ回すと速度が上がり、右一杯で約4.5km/hになります。

アドバイス

- ・車速スティックを前、または後へ一杯倒した状態で車速調整ダイヤルの最高速度を設定しておくと車速スティックの操作が容易に行なえます。
2. 車速スティック用減速スイッチを[FAST]にすると、インジケータLEDが点灯し、車速スティックにより前後進共0～4.5km/hまで操作できます。

運転のしかた

警 告

- ・ 運転時は本製品の周辺に人を近づけないでください。発進時は必ず周囲の安全を確認し、ゆっくりと発進させてください。旋回時は必ず周囲の安全を確認してください。
- ・ 急発進、急加速、急旋回を行わないでください。車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあります。
- ・ 機械の下方に人がいないかどうか確認してください。横滑り、転倒などで下方の人を巻き込む危険があります。
- ・ 機械と運転者の間は10m～20m位が最も作業しやすい距離です。機械と人が近すぎると、ちょっとした操作ミスで人と衝突する危険があります。また運転者が機械からあまり遠ざかると、通行人や障害物の発見が遅れたりして危険です。

注 意

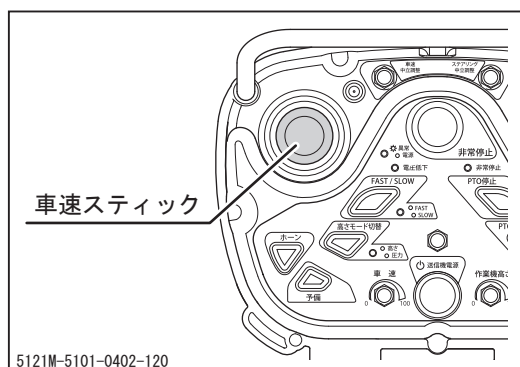
- ・ 傾斜での草刈り作業中は必ず左側クローラが傾斜谷側になるようにしてください。
- ・ 15度以上の傾斜で作業する場合はクローラトレッド幅を最大にして作業してください。
- ・ 傾斜地で作業中、車体の縦方向の傾斜角度（ピッチ角度）、車体右傾斜角度（ロール角度）が20度、または車体左傾斜角度（ロール角度）がディスプレイにて設定した角度（デフォルトは35度）を超えた場合、黄色警告灯が点灯します。（瞬間的に角度を超えても点灯しません）また、点灯した警告灯は縦方向の傾斜角度、車体右傾斜角度が15度以下かつ車体左傾斜角度が設定角度-5度以下（デフォルトは30度）になると自動的に消灯します。
 - ・ 車体左傾斜角度（ロール角度）が40度を超えた場合、ホーンが5秒間隔で3回ずつ吹鳴します。
 - ・ 車体右傾斜角度（ロール角度）が25度、車体左傾斜角度（ロール角度）が43度を超えた場合、ホーンが1秒間隔で3回ずつ吹鳴します。（瞬間的に角度を超えても吹鳴しません。）また、ホーンは車体右傾斜角度が20度、車体左傾斜角度が35度以下になると自動的に吹鳴停止します。警告灯が点灯したり、ホーンが吹鳴しだしたときは、速度を下げるなどの転倒防止策を行なってください。

 注 意

- ・ 傾斜地で作業中、車体の縦方向の傾斜角度（ピッチ角度）、車体右傾斜角度（ロール角度）が27度、または車体左傾斜角度（ロール角度）が45度を超えた状態で5秒以上経過した場合、走行が一時停止します。（エンジンは止まりません。）また、モアが回転中であれば、モアも停止します。一度車速スティックを中立に戻してから再度倒すと車両を動かすことができますので、安全な場所に移動させてください。モアは再度PT0回転スイッチを押すとモアを回転させることができます。
- ・ アクチュエータが動作不良になるなどのトラブルが生じた場合は、すぐにエンジンが停止します。異常停止した場合は、“不調と処置”の“本機の不調と処置”の項を参照して、整備点検を行なってください。（113ページ）
- ・ ラジコン運転の場合でも傾斜角度は次の範囲を厳守してください。
 - ・ 斜面に対し、機体が左傾斜のとき……45度まで
※左側クローラが傾斜谷側かつクローラトレッド幅最大（200mmスライド）時。（滑りやすい傾斜地では、スパイク（オプション）の装着を推奨します。）
 - ・ 斜面に対し、機体が縦方向のとき又は機体が横方向で右傾斜の時……25度まで
※斜面に対して縦方向の作業（上下刈り）は基本的には行わないでください。
やむなく行う場合も、傾斜角25° 以内でモアを上側にして作業してください。
ただし地面の状況・走行速度・旋回状況によってはこの傾斜角度より小さい角度でも転倒や横滑りを起こす場合があります。
- ・ 次のような斜面では本機を使用せず、手刈りで作業をしてください。
 - ・ 下方に通路があり人や車の往来がある斜面
 - ・ 下方に平坦地がなく、すぐに河川になっている斜面
 - ・ その他、転倒や横滑りが起きると重大事故になると予測される斜面
- ・ 降雨後の濡れた斜面や草丈の長い斜面では横滑りしやすいので、急激な旋回操作はしないでください。
- ・ 急傾斜地での作業は高度の熟練を必要とします。十分に練習して、上手に安全に作業を行なってください。
- ・ 斜面を登るときと降りるときでは、走行レバーの操作が同じでも走行速度が違ってきます。特に斜面での方向変換時は走行速度が急に速くなったりしますので注意してください。

！ 注 意

- ・ 斜面でエンジンを始動するときは、始動と共に車両がゆっくりと下へ動き始めることがあります。運転者は安全な位置を確保してください。
- ・ 斜面に対して縦方向に作業するとき（上下刈り）は、モアを上側にして作業してください。重心がモア側によっていますので、逆向きで作業を行うと、車体後方が浮上がることがあります。
- ・ 運転時にフロントカーテン（布地）がめくれてマフラーにかからないように注意してください。焦げつき変形する恐れがあります。
- ・ HST走行リンク駆動用モータにはサーモスタットが内蔵されており、負荷が高くなりモータの内部温度が125℃を約4～10秒検知すると、モータがロックし、走行不可となります。内部温度が90℃以下になると約4～10秒後に出力再開します。

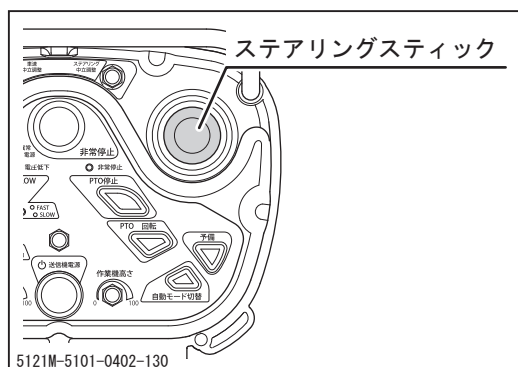


前後進する場合

1. 車速スティックを前側に倒すと前進、後ろ側に倒すと後進します。速度は車速スティックを倒す量に比例して変化します。
2. 車速スティックより手を離すとスティックが中立位置に戻り、車両が停止します。

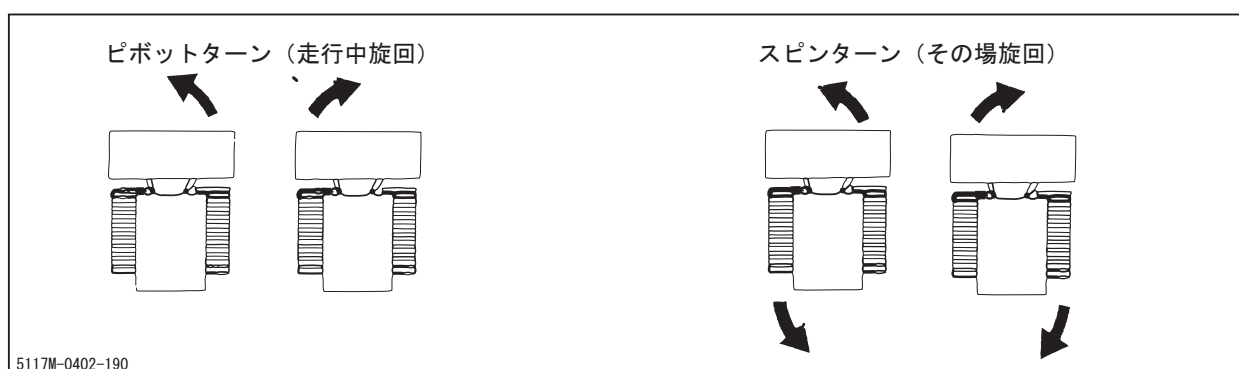
アドバイス

- ・ 車速調整ダイヤルで予め速度を設定しておき車速スティックを全倒で作業するとスムーズに操作できます。（➡19ページ）



旋回する場合

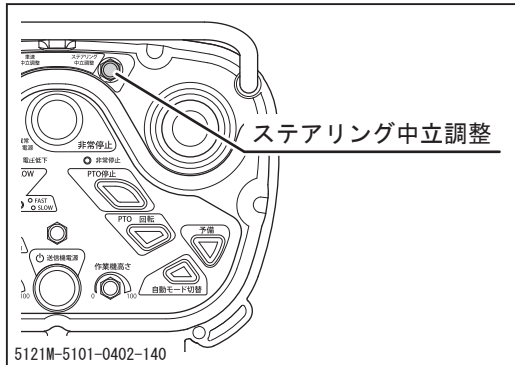
1. ステアリングスティックを中央付近で、右側へ倒すと右旋回、左側に倒すと左旋回します。
2. 車速スティックを少し前に倒しながらステアリングスティックを前側に倒し方向操作を行なうとスピントーンができます。



👉 アドバイス

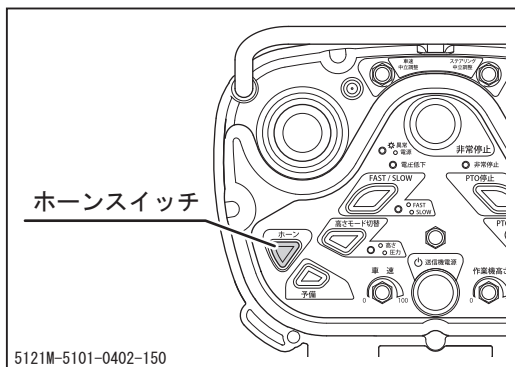
クローラ走行を上手に使用するために

- ・ ターンするときはできるだけスピントーンを避け、緩旋回をしてください。ラグの摩耗、石のかみ込みが少なくなります。
- ・ ターンするときに土砂のかみ込みによりリリーフが作動したときは、無理にターンせずに一度まっすぐ後進し、土砂が取れてから再度ターンしてください。また、その時にエラーコード37、38が検出され、直進制御に影響が出ることがあります。その場合は、キースイッチを一旦OFFにした後、エンジンを再起動することで復帰します。
- ・ 河川敷・碎石地盤上・鉄筋・鉄屑上ではゴムに傷をつけクローラ寿命が短くなりますので絶対に使用しないでください。



ステアリングの中立位置調整

1. 平たん地でステアリングスティックが中立時に車両が直進しない場合は、直進するようにステアリング中立調整を調整します。



ホーンの使用

1. 作業中、周囲の人などに注意を促すときはホーンスイッチを押してホーンを鳴らしてください。

アドバイス

- ・ホーンスイッチは[車速中立位置の確認と調整]の作業が完了するまで、ホーンとして使用できません。詳細は[車速中立位置の調整]の項を参照してください。(☞99ページ)

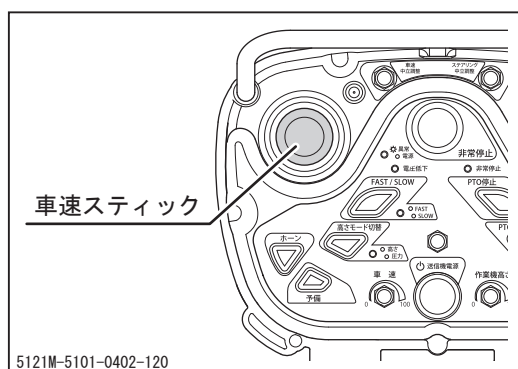
停止のしかた

！ 警 告

- ・ 急停止を行わないでください。車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあり危険です。

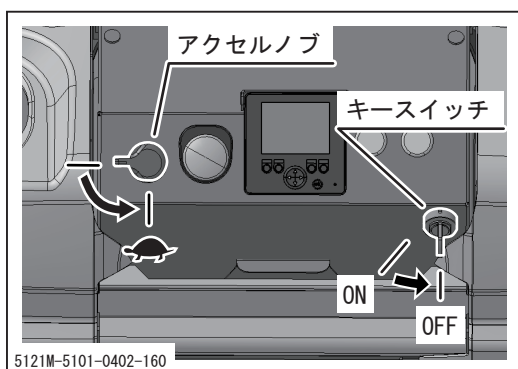
！ 注 意

- ・ 送信機でエンジンを停止させた場合は、必ずキースイッチも切ってください。切り忘れるとバッテリーが上がり、次回作業を行えなくなることがあります。

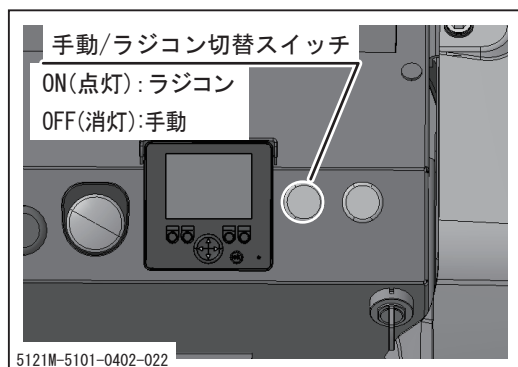
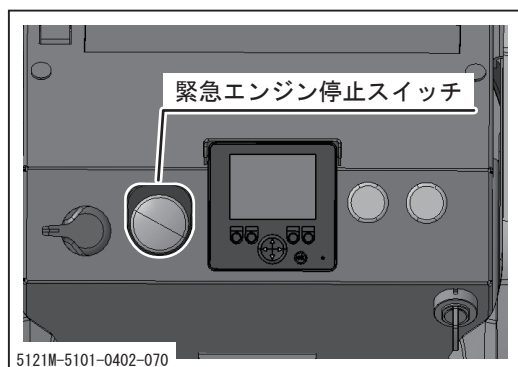
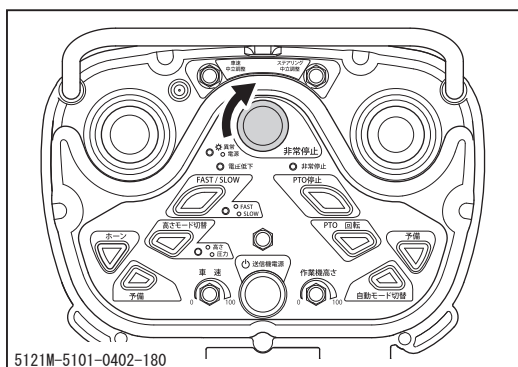
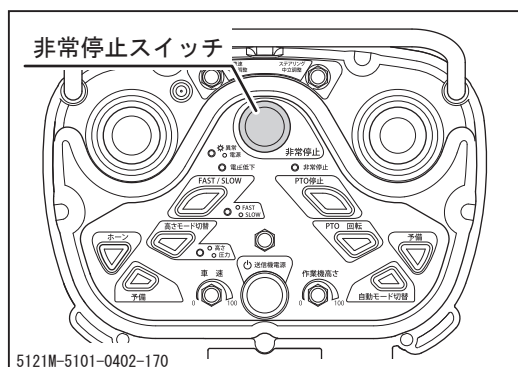


通常の停止

1. 車速スティックを[中立]に戻すと走行が停止します。



2. アクセルノブを低速にします。
3. 本機のキースイッチを[OFF]にしてエンジンを停止します。



緊急停止

1. ラジコン運転中にコントロールが不能になった場合には、送信機の[非常停止スイッチ]を押してエンジンを止め、車両を停止してください。

 アドバイス

- ・受信異常状態でエンジン停止スイッチを押しても、エンジンは停止しません。
- ・非常停止スイッチは、非常停止が必要なときのみ使用してください。
- ・非常停止スイッチをリセットする場合は、スイッチがカチッと音を立てて固定されるまで、時計回りに回してください。

- それでもエンジンが停止しない場合は本機の[緊急エンジン停止スイッチ]を押してエンジンを停止してください。

👉 アドバイス

- ・ 緊急エンジン停止スイッチを押した状態では、エンジンは始動しません。エンジン始動時は、緊急エンジン停止スイッチがリセットしていることを確認してください。

3. 停止後、送信機の電源スイッチと本機のキー
スイッチを[OFF]にし、手動/ラジコン切替ス
イッチも手動に戻してください。

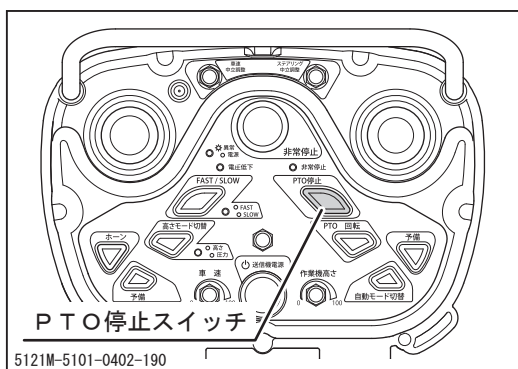
👉 アドバイス

- ・ コントロール不能が発生した場合は、お買上げの販売店、または弊社サービスマンの点検を受けるまではラジコン運転を再開しないでください。

駐車のしかた

警告

- ・急停止を行わないでください。車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあり危険です。
- ・本製品は自動ブレーキを装備しています。自動ブレーキは25度以下の坂では有効に駐車できますが、それ以上の坂では駐車できないことがあります。また、万一HSTの故障やブレーキ能力の低下などが発生した場合、所定のブレーキ力が確保されないことがありますので、駐車時は平坦地を選び、必ず歯止めをかけてください。
- ・急斜面でエンジンを停止したときやエンストしたときに、カクツカクツとクローラが回り斜面を下るようであれば、速かにエンジンをかけ、作業を再開するか平坦地に移動させてください。これを怠るとHST内の油が空になり機械が斜面を暴走することがあります。
- ・傾斜地には駐車をしないでください。やむなく傾斜地に駐車する際には輪止めをしてください。



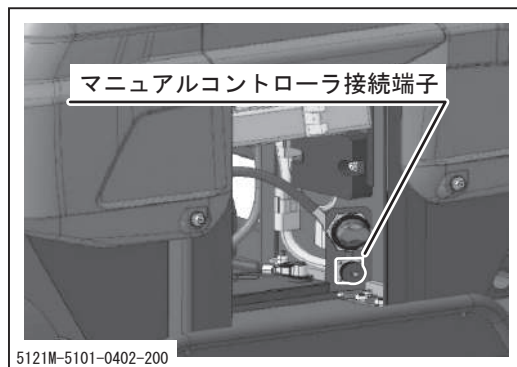
1. 本機を平たん地の安全な場所に止め、送信機の操作をやめて走行を停止させます。
2. モアが回転している場合は、PT0停止スイッチを押し停止させます。本機上部の青色警告灯が消灯します。
3. 作業機昇降スイッチで、モアを下げます。
4. 送信機の電源スイッチを[OFF]にします。本機上部の赤色警告灯が点灯します。
5. 手動/ラジコン切替スイッチを押して手動モードに戻します。スイッチのランプと本機上部の赤色警告灯が消灯します。
6. エンジン回転を下げ、キースwitchを[OFF]にしてエンジンを停止します。車両から離れるときは必ずキーを抜いてください。

マニュアルコントローラでの車両の操作

！ 警 告

- ・ 斜面での操作時は、斜面の上方から操作してください。また、機械の下方に人がいないかどうか確認してください。横滑り、転倒などで下方の人を巻き込む危険があります。

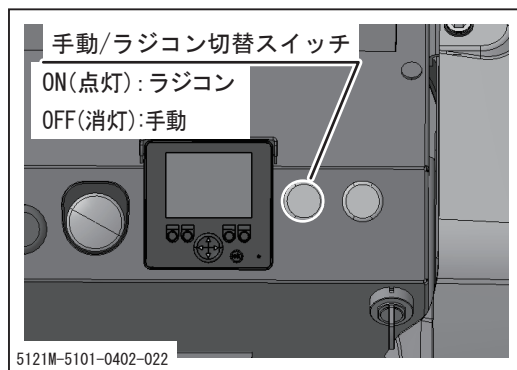
マニュアルコントローラは、ラジコン送信機が使用できない場合（例：電池切れ）に、機械を安全な場所等へ移動するときに用います。



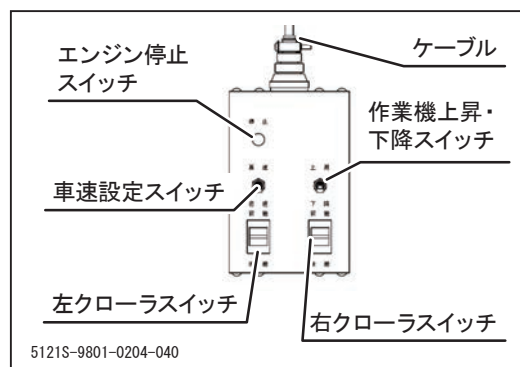
1. 後方カバーを上を持ち上げて外します。
2. マニュアルコントローラ接続端子からネジキャップを外し、マニュアルコントローラのケーブルを接続してネジでロックします。

👉 アドバイス

- ・ 接続部よりケーブルを外したときは、必ずネジキャップを取り付けてください。キャップをせず、雨水等が侵入した場合は故障・誤動作の原因となります。



3. 手動/ラジコン切替スイッチを押し、手動（スイッチランプ消灯）モードに切り替えます。



4. 車速設定スイッチで高速と低速の2段階に切り替えられます。
エンジン回転数が最高の状態で
高速：2.5km/h
低速：1.2km/h
5. 作業機上昇・下降スイッチを押してモアを昇降させます。スイッチを前側に押すとモアが上昇します。スイッチを後ろ側に押すとモアが下降します。スイッチより手を離すと、その位置で止まります。

👉 アドバイス

- ・モアを上昇させ終わった時はスイッチから手を離してください。スイッチを操作したままでは油温の上昇や故障のおそれがあります。

6. 左右クローラスイッチで走行操作を行います。左右のクローラスイッチは独立しており、それぞれ前進・後進の操作を行えます。
車両を前進させるとき：両方のスイッチを同時に前側に押します。
車両を後進させるとき：両方のスイッチを同時に後ろ側に押します。
停止：両方のスイッチから手を離します。
旋回：旋回したい方向の反対側のスイッチを操作します。例えば、前進で右に旋回する時は、左側のスイッチを前に押します。両方のスイッチを逆方向に操作するとスピントーン（その場旋回）を行うことができます。
7. エンジン停止スイッチを押すとエンジンが停止します。

作業のしかた

危 険

- ・ PT0スイッチ（PT0回転スイッチ）は作業直前に入れ、作業時以外は必ずPT0停止スイッチ押しでPT0を停止してください。刈刃の回転中は刈取部に近寄らないでください。
- ・ 作業時は本製品の周囲に人を近づけないでください。刈刃の回転中にガードやモアの下に手や足などを入れないでください。また、巻き込まれるおそれがあるので、モアを高く上げた状態で回転させないでください。

警 告

- ・ 小石等の異物の飛散により、人や動物、農作物、建築物、自動車等へ被害を及ぼさないように十分に注意して作業を行ってください。刈取り作業の前に、飛散する恐れのある異物を取り除いてください。
- ・ 溝や土手の端は、路肩が崩れ、転倒するおそれがあり危険ですので、作業を行わないでください。特に降雨後や地震後の地盤は崩れやすいので注意してください。
- ・ 傾斜地でラジコン操作を行う場合は、機体の左後方を10mほど離れた位置で操作を行ってください。本機の下側で操作を行うと、転倒・スリップ時に本機に巻き込まれるおそれがあります。
- ・ 機械と運転者の間は10m～20m位が最も作業しやすい距離です。機械と人が近すぎると、ちょっとした操作ミスで人と衝突する危険があります。また運転者が機械からあまり遠ざかると、通行人や障害物の発見が遅れたりして危険です。
- ・ モアを回転中に受信異常になった場合は、約5秒でモアの回転を停止します。正常受信状態に戻った後、再度PT0スイッチでモアを回転させてください。モアを回転させた場合、本機上部の青色回転灯が点灯し、回転が停止すると消灯します。
- ・ 斜面での作業は車両が横滑りする可能性があります。斜面下側のフェンスや建物、木などに注意して作業してください。

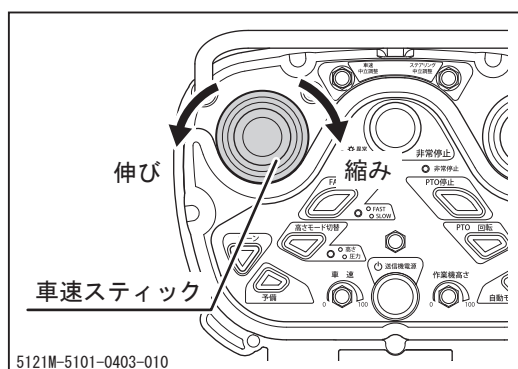
 注 意

- ・ 作業の前に必ず穴、障害物等を確認し、十分に注意して作業を行ってください。
- ・ 傾斜地では機体が転倒するおそれがあるため下記行動を厳守してください。
 - ・ 45° を超える傾斜では作業を行なわないでください。
 - ・ 15° 以上の傾斜地で作業をする場合はクローラトレッドを最大まで広げた状態で作業してください。
(滑りやすい傾斜地では、スパイク(オプション)の装着を推奨します。)
 - ・ 滑りやすい場所では作業を行わないでください。
 - ・ 左クローラのトレッドを広げ機体左側を必ず谷側にし、等高線上を谷側から山側へ刈るようにしてください。
 - ・ 斜面で旋回を行わず、往復走行での作業を行ってください。
- ・ モア装置を左にスライドさせた時は平坦地(10度以下)で作業してください。さらにクローラトレッドを広げ法面を走行すると機体バランスが悪くなり方向転換が出来ず危険ですので行わないでください。
- ・ 刈り取り作業中は最低2時間ごとにエンジンルーム内を清掃してください。草やごみの堆積が多い場合はより頻繁に清掃してください。刈り取った草が堆積したまま使用を続けるとエンジン、マフラの熱により発火する危険性があります。
- ・ 本機には電子機器が多く使われています。誤作動を防ぐため、電子部品の内部はさわらないでください。また、電子機器周辺に水をかけないでください。コントローラの上に物を置いたり、物を落としたりしないでください。
- ・ 刈刃が折損した場合には、ただちに新しい刈刃と交換してください。回転バランスがくずれ、異常振動を発生し、故障の原因となります。
- ・ 刈刃に異物が巻き付いた場合には、ただちにエンジンを停止し、異物を取り除いてください。回転バランスがくずれ、異常振動を発生し、故障の原因となります。
- ・ ほこりの多い場所で作業を行う場合には、半日ごとにエアクリーナエレメントの清掃を行ってください。エレメントの汚れがひどくなると、エンジンの始動不良、出力不足、寿命低下を引き起こします。

！ 注 意

- ・夏場など高温化での作業では、作業速度や草丈、密集度合いが大きいとオーバーヒートを起こす可能性が高まります。そのような高負荷作業の際は、インターバル（目安：1時間作業後20分休止）を設けて作業を行って下さい。

左クローラトレッドの伸縮操作

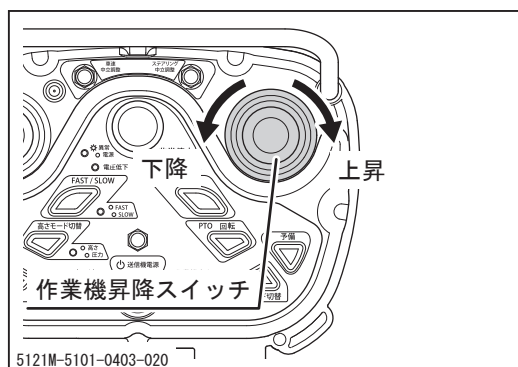


車速スティックを右に回すとクローラトレッドが縮み、左に回すと伸びます。スイッチから手を離すと伸縮は止まります。

！ アドバイス

- ・15度以上の傾斜で作業する場合には、クローラトレッド幅を最大にして作業してください。
- ・クローラトレッド伸縮操作は平坦な場所で行なってください。

モア装置の昇降操作

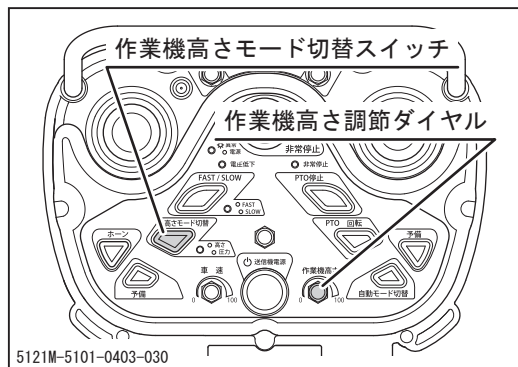


手動による昇降操作

作業機昇降スイッチを右に回すとモアは上昇、左に回すと下降します。なお、作業機高さ調整モードが自動の場合でも、手動スイッチが優先して働きます。また、スイッチから手を離すと上昇・下降は止まります。

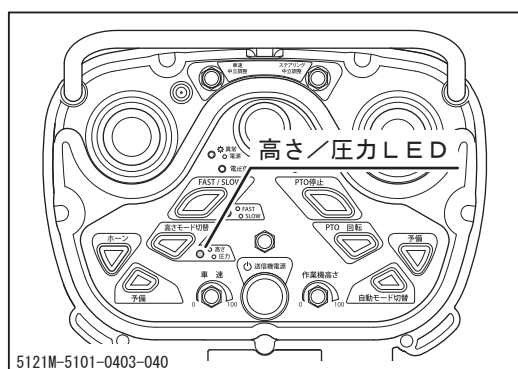
！ アドバイス

- ・上昇又は下降側にスイッチが入った状態で受信異常になった場合は、モアの上昇・下降は停止します。受信異常の状態から正常受信の状態に復帰すれば、即座にスイッチ信号にもとづいて上昇・下降を行ないます。



モア刈高さの自動設定の方法

刈高さ制御モードは圧力制御モードと高さ制御モードの2通りがあります。モードを切替えるときは、作業機高さモード切替スイッチを切り替えてください。



圧力制御モード（フローティング）

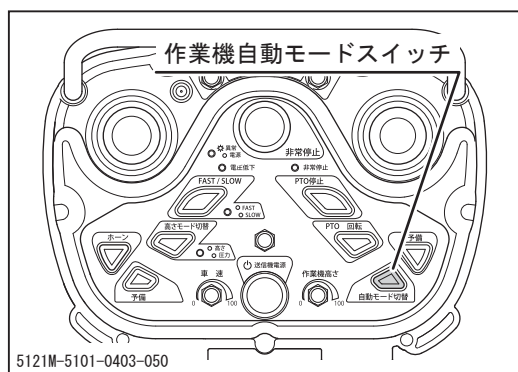
1. 作業機高さモード切替スイッチを[圧力]側にします。スイッチ横の高さ／圧力LEDが消灯します。
2. 作業機高さ調節ダイヤルを左右に回し、適切な圧力に設定します。

ダイヤルを左に回す……………

圧力は低くなり、モアのゲージ輪
(左右)にかかる荷重は高くなります。

ダイヤルを右に回す……………

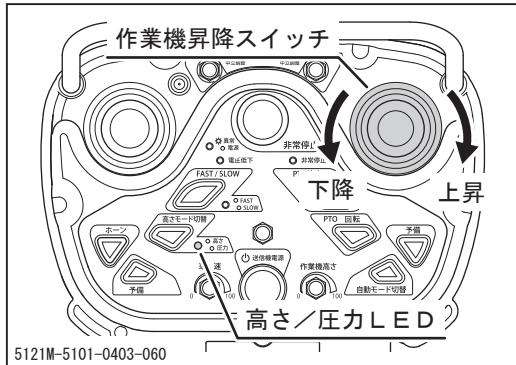
圧力は高くなり、ゲージ輪にかかる
荷重は低くなります。



3. 作業機自動モードスイッチを押すと圧力制御モードに設定されます。

アドバイス

- ・ 作業状況や草丈・草質により最適な圧力に設定して使用してください。一般的には、凹凸に敏感に追従させる場合は圧力を低く、反対にゲージ輪跡が残る場合は圧力を高く設定します。
- ・ 圧力制御モードの場合、作業機高さ調整ダイヤルが約40%以上でモアが上がり出します。フローティングで作業する場合は、40%以下に設定してください。



高さ制御モード

1. 作業機高さモード切替スイッチを[高さ]側にします。スイッチ横の高さ／圧力LEDが点灯します。
2. 作業機高さ調節ダイヤルを左右に回し、適切な高さに設定します。

ダイヤルを左に回す……

モアは低くなります。

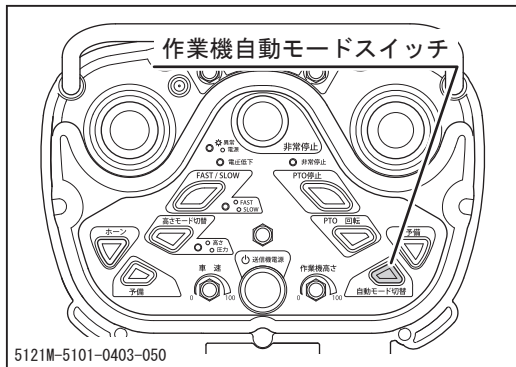
ダイヤルを右に回す……

モアは高くなります。

3. 作業機自動モードスイッチを押すと高さ制御モードに設定されます。

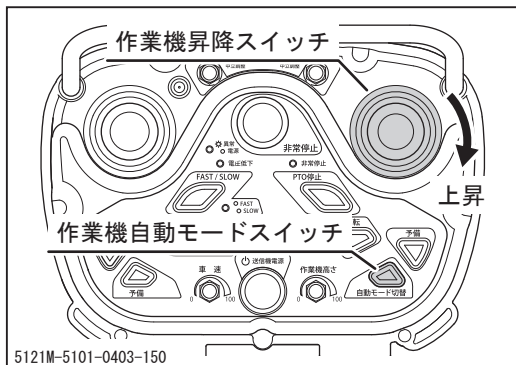
アドバイス

- ・ 一般的には石等が多い時や、際刈など[圧力制御モード]では作業が困難な場合は[高さ制御モード]でモアの高さを設定します。このとき、ゲージ輪が地面に接しないように調整します。



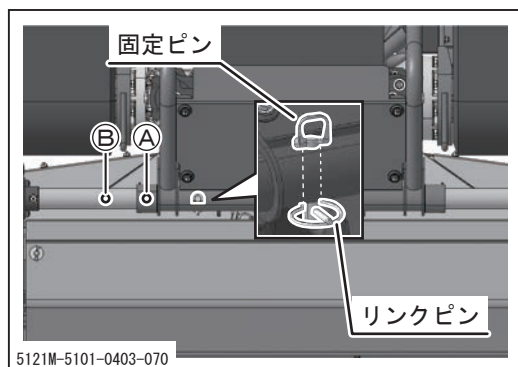
モア刈高さ自動設定位置への復帰

作業機刈高さ自動設定モードで作業中、旋回時等にモアを上げる場合は、作業機昇降スイッチを上昇側に回してください。その後、作業機自動モードスイッチを押すと自動設定位置の高さへ復帰します。



モア装置のスライド作業

平坦地できわ刈りを行う場合には、モアを手動で左側最大 200mm スライドさせることでより安全に作業を行うことができます。



1. ゲージ輪が地面に軽く接触する程度までモアを上げます。
2. モアリンクにあるリンクピンを外し固定ピンを抜きます。
3. モアを左方向に押し、スライド量をⒶ 100mm またはⒷ 200mmの固定穴位置に合わせます。
4. 固定ピンを差し、リンクピンをつけます。

👉 アドバイス

- ・スライド作業は、凹凸の少ない平坦地で、ゲージ輪を左右方向に向け、スライド時の補助として使用すると作業し易くなります。

刈高さとゲージ輪の調整

⚠️ 注 意

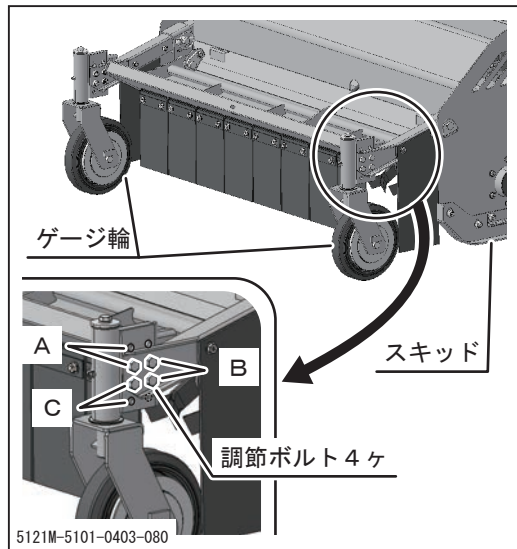
- ・最低刈高さ (30mm) は、平坦で障害物のない、条件の良い場所での作業以外では使用しないでください。
- ・モア両側のスキッドが地面に常時接地するような凹凸の多い場所や軟弱地では刈高さを高くして使用してください。リンクやモアが破損するおそれがあります。

刈高さの調整

ゲージ輪の高さを調整することで最低刈高さを設定することができます。

👉 アドバイス

- ・最低刈高さ以上の刈高さは、送信機の刈高さ調整で設定してください。



1. モアのゲージ輪が浮く程度にモアを上げ、エンジンを停止します。
2. ゲージ輪の調節ボルト4ヶを外し、ゲージ輪の組み付け位置を左右共に変更します。刈高さは3段階に調節できます。

位置	刈高さ
A	80mm
B	55mm
C	30mm

3. ゲージ輪を調節ボルト4ヶで確実に固定します。機体外側がボルト、内側がUナットとなるようにしてください。

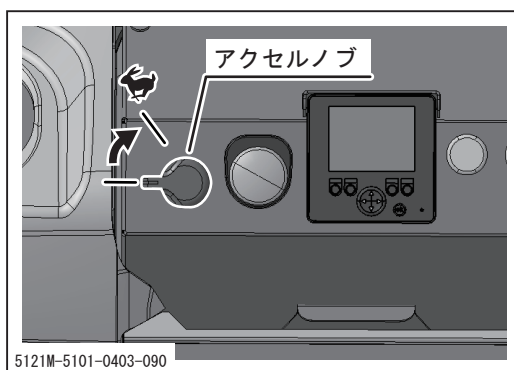
アドバイス

- ・ボルト/Uナットの締め付けトルク：25Nm

刈取り（モア）作業のしかた

！ 注意

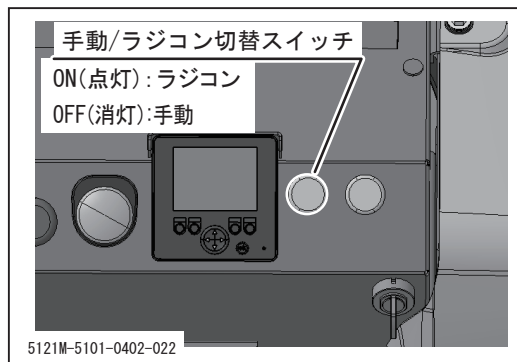
- ・本機のモア回転はダウンカットのみとなります。作業時機体の後方近くにいると石等の飛散物が当たる恐れがあるため、後方10m以内に人や建物等ない状態で、十分注意をしながら作業を行ってください。



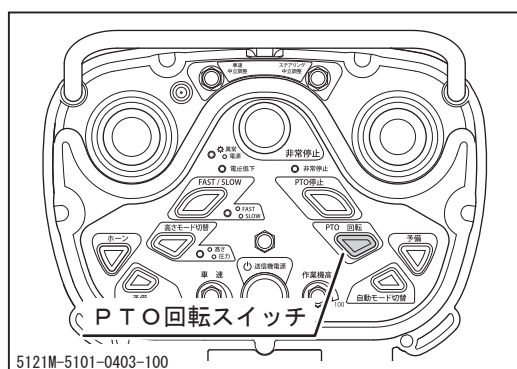
1. アクセルノブを[🏎️ (高速)]に、エンジンを最高回転にします。

アドバイス

- ・エンジン回転は、通常最高回転（約3600rpm）で使します。圃場の条件によりエンジン出力が不足気味の場合は、車速を落として使してください。



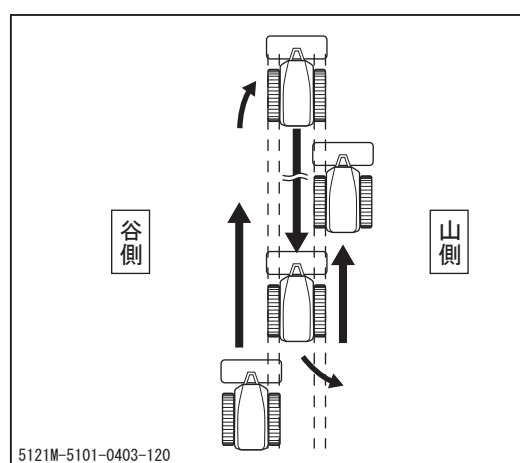
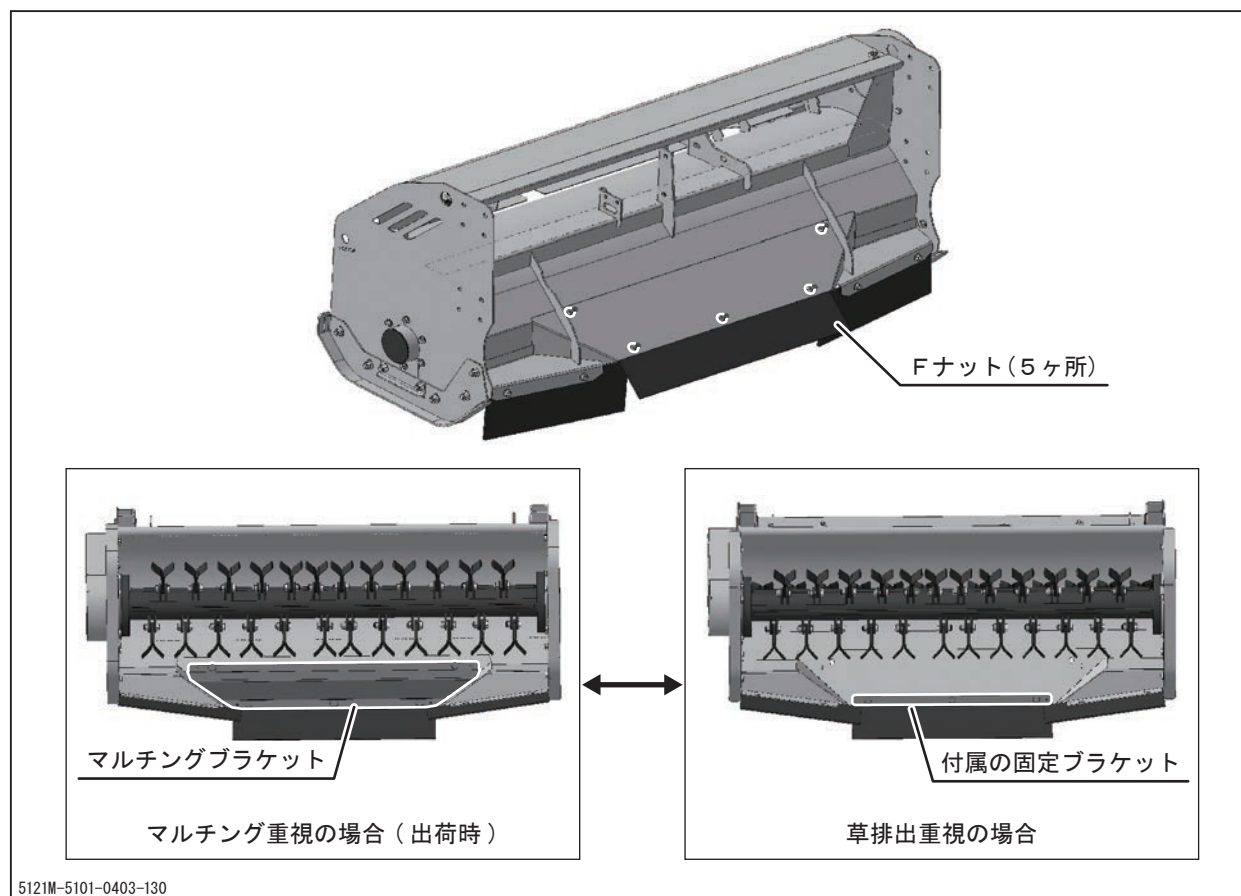
2. 手動/ラジコン切替スイッチを押し、[ラジコン (スイッチランプ点灯)] に切り替えます。



3. 送信機のPTO回転スイッチを押し、モアを回転させます。
4. 車両を走行させ、刈取り作業を行います。

👉 アドバイス

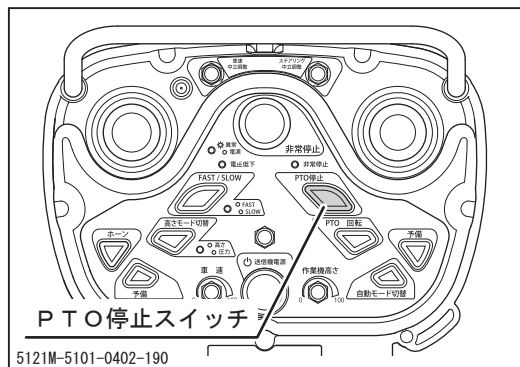
- ・ PTO回転スイッチを押しながら送信機電源を[ON]にしたときはPTOは回転しません。受信異常状態でPTO回転スイッチを押したまま正常受信状態に復帰したときはPTOは回転しません。
- ・ 受信異常状態が5秒以上続いたときはPTOは停止します。PTOを再回転させるには一度送信機の電源を入れ直し、正常受信状態にしてから、再度PTOスイッチを押してください。
- ・ 前進のときは、少し速度を落とすようにしてください。
- ・ 本機の標準的な作業速度は2～3km/hです。
- ・ エンジン負荷低減のため、負荷制御が[入] (スイッチランプ点灯) での作業を推奨します。
- ・ 車速が速すぎたり、負荷が大きいと、刈刃速度が落ち、きれいに刈れません。負荷の大きいときは、車速を落とすか2度刈りを行ってください。
- ・ 初めてモアを使用するときは、平坦地を選び、ゆっくりと、少し重複するようにして、まっすぐに刈ってください。
- ・ 適切な草刈方法は、圃場の大きさや形で決まります。木やフェンス、建物のような障害物を考慮してください。
- ・ 出荷時は、モアカバー内部に草マルチングのブラケットが装着されています。草丈や密集度に合わせてマルチングブラケット (Fナット5ヶ所) を外し、付属の固定ブラケットに変更することで、草排出重視に変更することができます。(ただし、マルチング性能が落ちます。)



- ステアリングスティックを操作し、左図のように谷側から山側へ、前・後進で刈取り作業を行うようにしてください。後進刈りのときは、刈り取ったところを片側のクローラが通るように、重ね刈りで作業してください。

アドバイス

- 後進刈りのときは、クローラで踏み倒した草が刈り残る場合があります。ラップしろを少し大きめに取ってください。



6. PT0停止スイッチを押してモアを停止します。

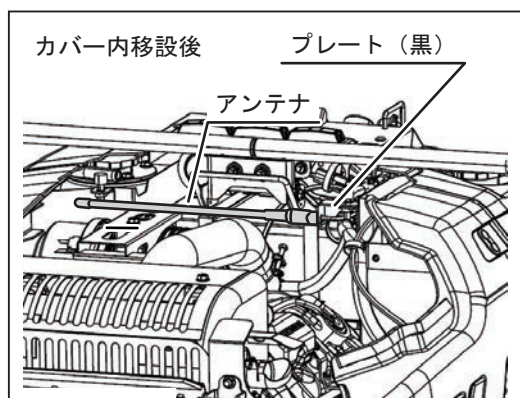
👉 アドバイス

- ・移動時はモアの回転を止めてから移動してください。

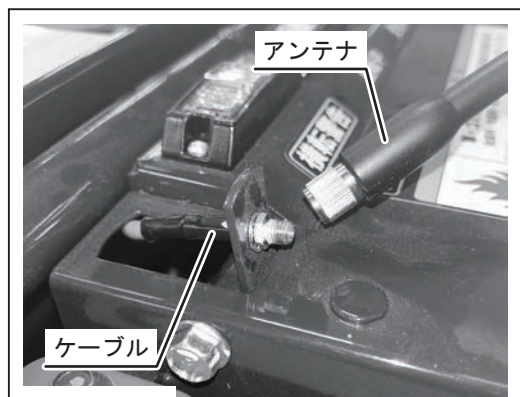
アンテナ取付位置について

⚠ 注意

- ・通常のアンテナ取付位置に比べると著しく通信飛距離が落ちます。カバー内にアンテナを取り付けた場合は15m以上離れないようにしてください。

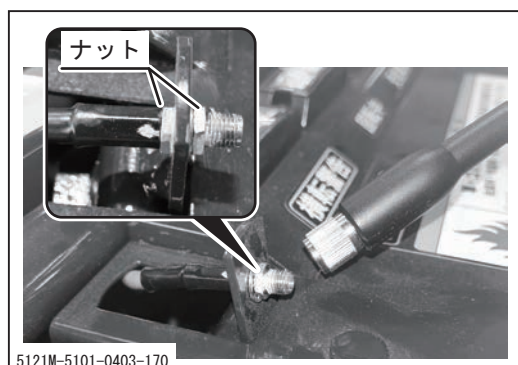


車両カバー内にもアンテナの取り付け位置を別に設けています。障害物の多い場所での作業時にご使用ください。

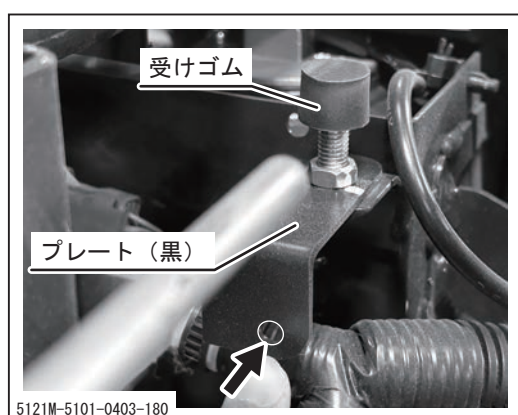


アンテナ移設手順

1. アンテナを手前に倒し、ケーブルから取り外します。



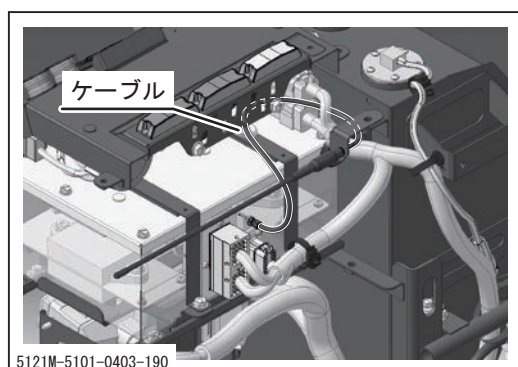
2. ケーブルは取り付けプレートに対しナット2個で締め付けられているため、上面側のナットを緩めて取り外します。この際、上段側ナット下面にある歯付き座金をなくさないでください。



3. トップカバー(茶色)を開け、燃料タンクに受けゴムと共に共締めされているプレート(黒)を確認し、それに開いているDカットの穴にケーブルを通します。
4. 2で外した座金、ナットを元に戻しアンテナを取り付けます。

👉 アドバイス

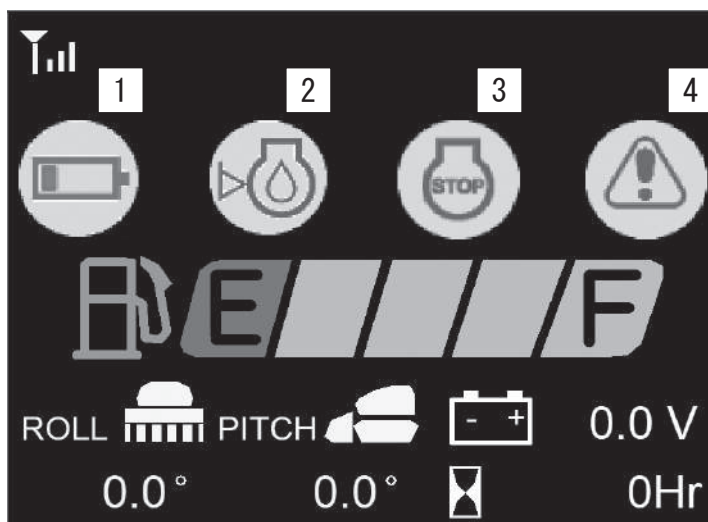
- ・ネジロック材塗布推奨、ただしアンテナ取付用のネジ部には塗布しないこと。
- ・推奨ネジロック材：スリーボンド製 嫌気性強力封着材 低強度タイプ 1344H（または相当品）



5. ケーブルの取り回しは、ケーブル根元に負荷が掛からないようにしてください。

ディスプレイの操作のしかた

①ホーム画面

**1. 車体バッテリー電圧低下警告**

エンジン ECU がバッテリー電圧低下警告を検出した際に点灯します。

**2. エンジンオイルレベル低下警告**

エンジンECUがオイルアラートを検出した際に点灯します。

**3. エンジン非常停止**

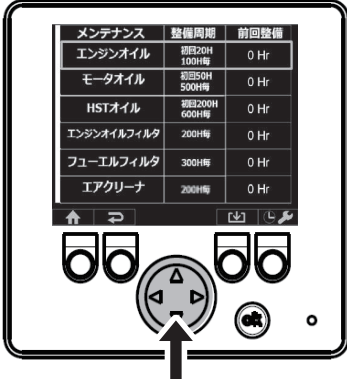
送信機非常停止スイッチ作動、横転警告作動時やエンジン停止要求のある故障発生時にエンジンを停止して点灯します。

**4. エラー**

エンジンまたはコントロールボックス内 ECU のいずれかのエラーを検出した際に点灯します。

5121M-5101-0404-010

②メンテナンス画面



表示方法

いずれかの項目が整備周期になるとキースイッチ[ON]時に自動的に画面が切り替わります。それ以降はホーム画面でカーソルキーの右 (▶) を1回押すと画面が切り替わります。

メンテナンス	整備周期	前回整備
エンジンオイル	初回20H 100H毎	0 Hr
モータオイル	初回50H 500H毎	0 Hr
HSTオイル	初回200H 600H毎	0 Hr
エンジンオイルフィルタ	200H毎	0 Hr
フューエルフィルタ	300H毎	0 Hr
エアクリーナ	200H毎	0 Hr

⬆
⬅
⏏
⌚
🔧

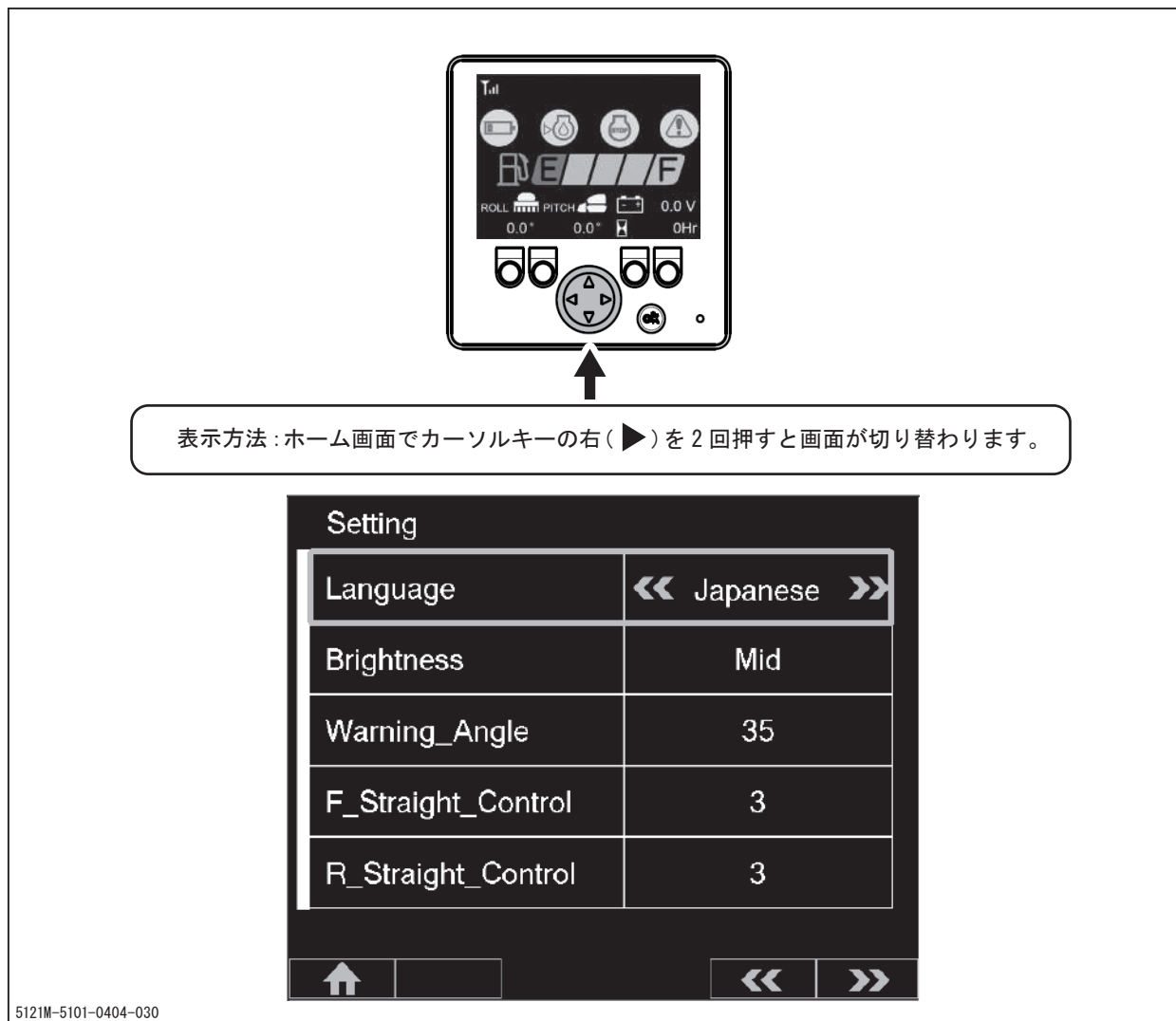
5121M-5101-0404-020

上下カーソルで点灯中のメッセージに合わせて  スイッチを押すことでメッセージが消灯します。スイッチを押したときのアワメータ時間が“前回整備”に記録されます。間違っ
て記録してしまった場合は  スイッチを押すと元に戻ります。最後に  スイッチ
を押すと保存されます。  スイッチを押すとホーム画面に戻ります。

メッセージ発生タイミング

ディスプレイ表示	メッセージ内容	整備周期
エンジンオイル	エンジンオイルの交換時期です	初回20H/前回整備時間から100H毎
モータオイル	モータオイルの交換時期です	初回50H/前回整備時間から500H毎
HSTオイル	HSTオイルの交換時期です	初回200H/前回整備時間から600H毎
エンジンオイルフィルタ	エンジンオイルフィルタの交換時期です	前回整備時間から200H毎
フューエルフィルタ	フューエルフィルタの交換時期です	前回整備時間から300H毎
エアクリーナ	エアクリーナの交換時期です	前回整備時間から200H毎

③設定画面



カーソルスイッチの上下で項目を選択し、[<<]か[>>]ボタンで設定を変更します。

- ・言語(Language) : Japanese(日本語) ⇄ English(英語)
- ・輝度(Brightness) : Low(暗) ⇄ Mid ⇄ High(明)
- ・左傾斜時の傾斜警告ランプ点灯角度 (Warning_Anle) : 25度～35度
- ・前進側傾斜直進補正(F_Straight_Control) : 1(弱)～10(強)
- ・後進側傾斜直進補正(R_Straight_Control) : 1(弱)～10(強)

④-1 現在エラー画面

表示方法：いずれかの故障発生時に自動的に画面が切り替わります。

ホーム画面でカーソルキーの右（▶）を3回押すと画面が切り替わります。

スイッチを押すとホーム画面に戻ります。

Error Name	ECU	Code
none	Eg	0
none	Rx	0
none	PTO	0
none	C_R	0
none	C_L	0
none	PTOH	0
none	DISP	0

エンジンECU
エラー表示

車体ECU
エラー表示

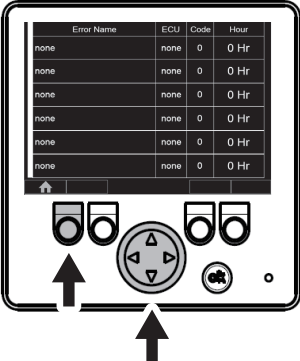
5121M-5101-0404-040

エラーコード

車体ECU	受信機	16	受信機車速データ上限オーバー
		17	受信機車速データ下限オーバー
		18	受信機ステアリングデータ上限オーバー
		19	受信機ステアリングデータ下限オーバー
	PTO	41	送信機スティックの中立確認
		10	ピッチ角横転検出
		11	ロール角横転検出
		42	PTO回転スイッチのOFF確認
		61	エンジンチルト右側リレー、モータ動作不良
		62	エンジンチルト左側リレー、モータ動作不良

車体ECU	右 ク ロ ー ラ	5	右レバー前進側位置制御不能（出力過多）
		6	右レバー前進側位置制御不能（出力不足）
		7	右レバー後進側位置制御不能（出力過多）
		8	右レバー後進側位置制御不能（出力不足）
		14	右レバー位置センサ故障(短絡)
		15	右レバー位置センサ故障(断線)
		21	左クローラECU CAN通信途絶
		27	右モータロック
		38	右クローラパルスが入力できない
		40	マニュアルコントローラのOFF確認
	左 ク ロ ー ラ	1	左レバー前進側位置制御不能（出力過多）
		2	左レバー前進側位置制御不能（出力不足）
		3	左レバー後進側位置制御不能（出力過多）
		4	左レバー後進側位置制御不能（出力不足）
		12	左レバー位置センサ故障(短絡)
		13	左レバー位置センサ故障(断線)
		20	右クローラECU CAN通信途絶
		26	左モータロック
		37	左クローラパルスが入力できない
		40	マニュアルコントローラのOFF確認
	モ ア 高 さ	40	マニュアルコントローラのOFF確認
		43	作業機自動スイッチのOFF確認
		50	リフトアームセンサ異常
		54	モア昇降圧力制御電流の制御不能（出力不足）
		55	モア昇降圧力制御電流の制御不能（出力過多）
		60	燃料センサ異常
	ディスプレイ	20	右クローラECU CAN通信途絶
		21	左クローラECU CAN通信途絶
		22	PTO ECU CAN通信途絶
		23	モア高さECU CAN通信途絶
		24	エンジン ECU CAN通信途絶
		25	受信機 ECU CAN通信途絶
	エ ン ジ ン	100	エンジンオイルレベル低下
		101	バッテリー電圧異常
		102	スロットルモータ異常
		103	スロットル開度センサ1異常
		104	スロットル開度センサ2異常
		105	スロットル開度センサ相関異常
		106	外気温度センサ異常
		107	エンジン温度センサ異常
		108	大気圧/インマニ圧力センサ異常
		109	CPU異常

④-2 過去エラー画面



表示方法：ホーム画面でカーソルキーの右（▶）を4回押すと画面が切り替わります。
 スイッチを押すとホーム画面に戻ります。

エラー内容
新しいエラーから昇順

ECU種類

Error Name	ECU	Code	Hour
none	none	0	0 Hr
none	none	0	0 Hr
none	none	0	0 Hr
none	none	0	0 Hr
none	none	0	0 Hr
none	none	0	0 Hr

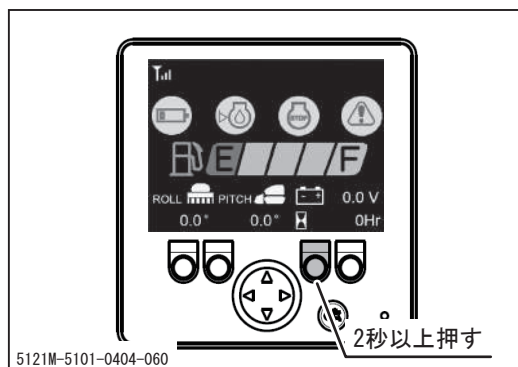
5121M-5101-0404-050

アドバイス

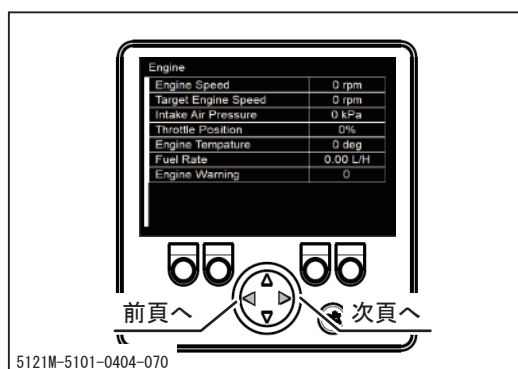
- ・過去のエラーは、7行以上になると古いエラーから消去されます。手動では、消去できません。

⑤データ表示画面

- ・エンジンECUやコントローラのステータスを確認することが出来ます。詳細な車両情報を確認する場合に使用してください。



1. メイン画面で右側から2番目のスイッチを2秒以上押します。



2. 車両の詳細情報が表示され、左右のカーソルスイッチにて表示ECUの切り替えが出来ます。

P1 : エンジンECU

P2～4 : 受信機

P5 : PTO ECU

P6 : 右クローラECU

P7 : 左クローラECU

P8 : モア高さECU

P9 : ディスプレイ

データ表示

エンジン

No	表示内容	意味	表示単位および備考
1	Engine Speed	エンジン回転数	rpm
2	Target Engine Speed	目標エンジン回転数	rpm
3	Intake Air Pressure	吸気圧力	kPa
4	Throttle Position	スロットル開度	%
5	Engine Tempature	エンジン温度	℃
6	Fuel Rate	燃料消費量	L/H
7	Engine Warning	エンジン警告	0 : 無、1 : 有

受信機

No	表示内容	意味	表示単位および備考
1	Communication Status	無線接続状況	Connected : 接続中 Disconnected : 未接続
2	Speed lever	車速スティック	20～1000まで変化 中立は512（調整要）
3	Steering lever	ステアリングレバー （ステアリングスティック 横方向）	20～1000まで変化 中立は512（調整要）
4	Steering Mode lever	ステアリングモードレバー （ステアリングスティック 縦方向）	20～1000まで変化 中立は512
5	PTO Start	PTO回転スイッチ	1 : ON 0 : OFF
6	PTO Stop	PTO停止スイッチ	1 : ON 0 : OFF
7	PTO Mode	作業機高さモード切替 スイッチ	Pressure_Mode : 圧力モード Height_Mode : 高さモード
8	Horn	ホーンスイッチ	1 : ON 0 : OFF
9	Engine Stop	送信機非常停止スイッチ	1 : ON 0 : OFF
10	PTO Up/Down	作業機昇降スイッチ （ステアリングスティック 時計回り : Up ステアリングスティック 反時計回り : Down）	Up : 上昇 OFF : 停止 Down : 下降
11	Tread Wide	トレッド伸縮スイッチ （車速スティック時計回 り : Narrow 車速スティック反時計回 り : Wide）	Wide : 拡張 OFF : 停止 Narrow : 縮小
12	Auto Switch	作業機自動モードスイッチ	1 : ON 0 : OFF
13	Reserve	予備スイッチ	1 : ON 0 : OFF

No	表示内容	意味	表示単位および備考
14	PTO Height Volume	作業機高さ調整ダイヤル	0～1020まで変化
15	Tx_DIP_func	送信機スライドスイッチ (機能)	1 : ON 0 : OFF
16	Rx_DIP_freq	受信機スライドスイッチ (車体ID番号)	1 : ON 0 : OFF
17	RSSI	電波強度	144以上で接続状況良好
18	Communication CH	通信CH	1～40のうち1つを選択
19	OUT0- Comm Error Lamp	受信異常表示回転灯 (赤色)	1 : ON 0 : OFF
20	OUT1- PTO Lamp	モア作動中表示回転灯 (青色)	1 : ON 0 : OFF
21	OUT2- Roll War Lamp	傾斜警告表示回転灯 (黄色)	1 : ON 0 : OFF
22	OUT3- Horn	ホーン	1 : ON 0 : OFF
23	OUT4- Operation Lamp	手動/ラジコン切替スイッチランプ	1 : ON 0 : OFF
24	IN0- Operation Switch	手動/ラジコン切替スイッチ	1 : ON 0 : OFF
25	Error_Careersense_Sts	エラーキャリアセンスステータス	開発者確認用
26	Carrersense_Sts	キャリアセンスステータス	開発者確認用
27	Com_Chk (Rx/PTO/C_R)	各ECUとの通信状況	Rx : 1 PTO : 9 C_R : 10 以外であれば異常
28	Com_Chk (C_L/PTO_H)	各ECUとの通信状況	C_L : 11 PTO_H : 12 以外であれば異常

PTO

No	表示内容	意味	表示単位および備考
1	OUT0- PTO Short Valve	PTO短絡バルブ	1 : ON 0 : OFF
2	OUT1- Engine Stop Relay	エンジン停止リレー	1 : ON 0 : OFF
3	OUT2- Engine Tilt (R)	エンジンチルト右リレー	1 : ON 0 : OFF
4	OUT3- Engine Tilt (L)	エンジンチルト左リレー	1 : ON 0 : OFF
5	IN0- Load Control Switch	負荷制御スイッチ	1 : ON 0 : OFF
6	IN3- Engine Stop Switch	マニュアルコントローラ 非常停止スイッチ	1 : ON 0 : OFF
7	Engine Stop Request	エンジン停止要求	1 : ON 0 : OFF
8	Engine Roll Angle	エンジンロール角度	deg
9	Eg Stop Request	エンジン停止要求	1 : ON 0 : OFF
10	Roll Warning Request	傾斜警告要求	1 : ON 0 : OFF

右クローラ

No	表示内容	意味	表示単位および備考
1	OUT1- Brake Release	ブレーキ解除バルブ	1 : ON 0 : OFF
2	IN0- Crawler_R Forward	マニュアルコントローラ 右クローラ前進スイッチ	1 : ON 0 : OFF
3	IN1- Crawler_R Backward	マニュアルコントローラ 右クローラ後進スイッチ	1 : ON 0 : OFF
4	Duty/Target/Act_Pos	右クローラ デューティ/ 目標レバー位置/ 実レバー位置	デューティ : %
5	Target/Act Speed	右クローラ 目標速度/実 速度	目標速度、実速度 : km/h
6	Engine Stop Request	エンジン停止要求	1 : ON 0 : OFF
7	DA_Neutral_MIN	レバー中立最小位置	
8	DA_Neutral_MAX	レバー中立最大位置	
9	DA_MIN	レバー最小位置	
10	DA_MAX	レバー最大位置	

左クローラ

No	表示内容	意味	表示単位および備考
1	OUT0- Tread Wide	トレッド伸バルブ	1 : ON 0 : OFF
2	OUT1- Tread Narrow	トレッド縮バルブ	1 : ON 0 : OFF
3	IN0- Crawler_L Forward	マニュアルコントローラ 左クローラ前進スイッチ	1 : ON 0 : OFF
4	IN1- Crawler_L Reverse	マニュアルコントローラ 左クローラ後進スイッチ	1 : ON 0 : OFF
5	IN2- H/L Speed	マニュアルコントローラ 低速/高速切替スイッチ	1 : ON (高速) 0 : OFF (低速)
6	Duty/Target/Act_Pos	左クローラ デューティ/ 目標レバー位置/ 実レバー位置	デューティ : %
7	Target/Act Speed	左クローラ 目標速度/ 実速度	目標速度、実速度 : km/h
8	Engine Stop Request	エンジン停止要求	1 : ON 0 : OFF
9	DA_Neutral_MIN/MAX	レバー中立最小位置/ レバー中立最大位置	
10	DA_MIN/MAX	レバー最小位置/ レバー最大位置	

モア高さ

No	表示内容	意味	表示単位および備考
1	OUT0- PT0/Tread Change	モア昇降/トレッド幅切替バルブ	1 : トレッド 0 : モア昇降
2	OUT2- PT0 Fall Prevent	モア落下防止バルブ	1 : ON 0 : OFF
3	IN0- PT0 Up	マニュアルコントローラ モア上昇	1 : ON 0 : OFF
4	IN1- PT0 Down	マニュアルコントローラ モア下降	1 : ON 0 : OFF
5	ANA0- Lift Arm Sensor	リフトアームセンサ	0~255 上限での目安 : 225 ± 20
6	Memory Lift Arm Sensor	リフトアームセンサ 基準記憶値	目安 : 45 ± 20
7	Target Height	目標高さ	-
8	Duty/Target_I/Act_I	フローティング デューティ/ 目標電流/実電流	デューティ : % 目標電流、実電流 : A
9	Engine Stop Request	エンジン停止要求	1 : ON 0 : OFF
10	Fuel_Level_1	燃料センサ	%

ディスプレイ

No	表示内容	意味	表示単位および備考
1	Engine Stop Request	エンジン停止要求	1 : ON 0 : OFF
2	Fuel_low	燃料残量低下警告	1 : ON 0 : OFF
3	Warning_angle	警告角度	deg
4	Soft Ver (PT0/PT0H)	ソフトバージョン (PT0/モア高さ)	
5	Soft Ver (Crawler R/L)	ソフトバージョン (右クローラ/左クローラ)	
6	Soft Ver (Rx/Disp)	ソフトバージョン (受信機/ディスプレイ)	

定期点検表

 警 告

- ・点検および作業時は必ず車両を平坦な場所に駐車し、モアを降ろしてエンジンを停止し、キーを抜き取ってから行ってください。
- ・車体の下で作業をする場合やモアを上げて点検する場合は、リジッドラック等で挟まれ防止の措置を取ってください。
- ・エンジン停止直後はエンジン各部およびエンジンオイルが高温になっており、やけどのおそれがありますので、エンジンが冷えてから作業を行ってください。
- ・整備時は火気を近づけないでください。
- ・廃油は法令に従って適切な処理をしてください。

 注 意

- ・点検や整備を怠ると事故の原因となります。本製品の正常な機能を維持するために下表を参考に定期点検を行ってください。
- ・機械は常に清掃をしてください。バッテリー、配線、マフラやエンジン付近にゴミや燃料の付着があると、火災の原因になります。また、常に清掃をしておくことでオイルや液の漏れが発見しやすくなります。
- ・整備時に出る廃油・廃液は必ず容器に受け、法令に従って適切な処理をしてください。また、フィルタ、ゴム類、バッテリーなどの廃棄物についても販売店または産業廃棄物処理業者等に相談し、規則に従って適切な処分をしてください。

点検整備の必要性について

- ・点検整備は機械の健康診断

本製品は多くの部品からなり、使用している間に各部が摩耗したり、劣化することは避けられません。定期的な点検を行い、その結果必要となった整備や部品交換を実施することが、本製品を末永くご使用頂く上で最も大切なことです。

- ・点検整備の実施について

本機・モアは常に適切な状態で使用できるように、使用する方は点検整備を確実に実施してください。なお、定期点検整備などには専用の整備機器や指定の油脂類、または油脂類交換後の適切な処理などが必要なため、販売店をご利用ください。

- ・油脂・液類の補充および交換

本製品を満足に働かせるためには、油脂類（オイル、グリースなど）が重要です。これらは使用している間に徐々に減ったり、汚れたりして劣化していき、性能低下や故障（焼き付き、作動不良、異音）の原因となります。

- ・消耗部品のメンテナンス

本機・モアには、作業をするとともに摩耗していく部品があります。これらの部品には必ず使用限度があり、永久的に使用できるものではありません。摩耗限度を超えての使用は故障を引き起こすばかりか、事故に結びつくこともありますので、定期的に点検し、適切な時期に交換することが必要です。

点検整備の種類

- ・日常点検整備

故障を未然に防ぐには、機械の状況をいつも知っておくことが大切です。日常点検は作業前に欠かさず行ってください。点検は次のページの表を参考に行ってください。

①車体を一回りし、油や水などの漏れた跡がないかを点検してください。

特にエンジンの継ぎ目、各高圧ホースの継ぎ目、油圧シリンダ、モア駆動系、燃料系統配管などに注意して点検し、漏れがあるときは漏れている箇所を調べ、漏れを止めてください。わからないときは販売店に依頼してください。

②各部のボルト・ナットのゆるみを点検し、緩んでいれば増し締めしてください。

特に走行部、エンジン部、配管の継ぎ目、モアなどに注意して点検してください。

- ・定期点検整備

弊社が指定している定期点検箇所と点検時期（アワメータ、期間等）で実施していただくものです。これは故障をできるだけ防止し、作業の遅延を少なくするためのものです。

- ・詳細については、販売店へお問い合わせください。

日常点検チェックシートおよび日報

運 転 年 月 日	年 月 日	運転場所	型式 CG271
天 候	雨・曇・晴・他 ()	会社名・運転者名	
アワメータ	始 業 時 Hr	終 業 時 Hr	稼働時間 Hr
✓：異常なし ×：調整 —：点検省略			燃料補給量 リットル

作業場のチェック

刈取りする作業場を歩いて目で確認してください。

No.	点検項目	チェック
1	刈取作業をする作業場に障害物（廃家電、自転車等）がないか、現場を歩いて確認する。	

本機のチェック

本機をチェックするときは、エンジンを止め、アスファルト等の平坦で固い所で実施してください。点検方法は取扱説明書各ページを参照してください。

No.	点検項目	チェック	参照	想定される不具合等
1	刈刃の減り具合、刈刃ボルト・ナットの摩耗状態		—	振動大、モア破損
2	刈刃駆動ベルト（2本）の張り状態（適正：中央を70Nで押したときのたわみが10mm）		106	刈取軸回転低下、 刈跡の乱れ
3	前日の異常箇所		—	
4	ボルトやナットのゆるみおよびモア取り付けピンの脱落		—	
5	車体各部の変形や損傷		—	外装、カバーなどの凹み、 亀裂、破損
6	油や水漏れなどの異常		—	作動不良やオーバーヒート
7	アイドラ外側・内側とアイドラサポート周辺の油漏れ・にじみ・締め付け状態		—	オイルシール破損、 ベアリング破損
8	トラックローラ内側、クローラ周辺の油漏れ・にじみ		—	オイルシール破損、 ベアリング破損
9	エンジンオイルの量および汚れ		82	エンジン焼き付き
10	油圧作動油の量および汚れ		87	走行部・モアの作動不良
11	後方カバー通風フィルタの目詰まり		86	オーバーヒート
12	エンジンスクリーンの目詰まり		86	オーバーヒート
13	エンジンエアクリーナの目詰まり		85	出力不足、オーバーヒート
14	クローラのゆるみ、損傷		93	クローラの外れ、破損
15	モニタランプ・表示回転灯の点検		16, 17, 29	
16	燃料の給油		24	
17	グリースアップ部分注入の確認（50時間ごとに注入）		78	グリースアップ部の異音・ 作動不良
18	飛び石防止ゴムの損傷		—	石及び危険物の飛来
19	外観の損傷・亀裂・変形		—	
20	オイルクーラの目詰まり		92	作動油のオーバーヒート
21	アンテナのゆるみ		—	受信不良

No.	点検項目	チェック	参照	想定される不具合等
22	ホース類のこすれ、油、燃料漏れ		—	走行部、モアの作動不良

作動チェック

本体を動かして、ラジコン操作・本体の動きをチェックしてください。送信機は必ず首にかけて使用してください。点検方法は[運転と操作]の章の該当箇所を参照してください。

No.	点検項目	チェック	備考
1	ホーンの作動		2回もしくは3回鳴る：中立ズレ
2	前後進の作動		
3	車速調整ダイヤルの効き		減速スイッチ[SLOW]、スティック全開で確認
4	発進、直進時の車体の進行方向変化		発進時右か左に大きく向きを変える：走行部点検
5	ステアリングの効き		
6	ピボットターンの効き		
7	スピントアンの効き		アスファルトや整地されたところ以外では使用しないこと
8	前後進・旋回時の異音など		発進時・走行中のキーキー、ギーギー音の有無：走行部点検
9	モアのアップ・ダウン		スイッチが重い時はスイッチ根元のほこり詰り確認
10	PTOの回転・停止		
11	モアの振動、異音など		回転中のガタガタ、ビビビ音の有無、刈刃の摩耗・欠けを確認
12	緊急エンジン停止スイッチの作動		本機後部、送信機、マニュアルコントローラで確認
13	刈高さ制御の効き（圧力および高さ）		自動ボタンを押した後、ダイヤルを回してモアの上下動きを確認
14	送信機の割れおよびスイッチの折れ		
15	アンテナの緩み		緩みがないかを確認
16	車速スイッチを中立にしての動作		車両が停止するかを確認
17	非常停止スイッチ確認		直ちに車両（エンジン）が停止するかを確認
18	受信異常時の動作確認		送信機の電源をオフにし、赤色灯点灯と車両が停止するかを確認

特記事項（作業中に発生した異常および処置事項を詳細に記入。不具合点・交換部品・調整・修理内容など）

定期点検箇所一覧表

専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは、販売店にご相談ください。

No	項目	時期	アワメータ表示時間																1 年 毎	それ 以後	参照
		50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800				
1	エンジンオイルの点検、交換	※																		—	
2	エンジンオイル点検、交換オイル フィルタの点検、清掃、交換																			—	
3	エンジンオイルクーラの点検																			—	
4	スパークプラグの点検調整、交換																			—	
5	スパークアレスタ清掃																			—	
6	バルブクリアランスの点検調整																			—	
7	燃焼室の清掃																			—	
8	燃料フィルターの交換																			—	
9	燃料チューブの点検																			—	

※は付属のエンジン取扱説明書を参照してください。

No	項目	時期	アワメータ表示時間																1 年 毎	それ以後	参照
			50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800			
10	マフラ	点検																	○		—
11	エアクリーナ エレメント	点検																		8時間毎	—
		清掃																		8時間毎	85
		交換				○				○				○				○		200時間毎	85
12	エンジンの ストップ	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		50時間毎	31
13	エンジン スクリーン	清掃																		8時間毎	86
14	HSTオイル(油圧 作動油兼用)	交換				○												○		600時間毎	87
15	油圧フィルタ (ラインフィルタ)	交換				○												○		600時間毎	90
16	油圧フィルタ (リターンフィルタ)	交換				○												○		600時間毎	90
17	油圧フィルタ (サクション)	交換				○												○		600時間毎	90
18	油圧ホース類	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		50時間毎	91
		交換																		2年毎	
19	オイルクーラ	清掃																		毎回	92
20	走行モータ 減速機オイル	交換	○										○							500時間毎	95
21	HST走行リンク 部扇ギヤ (L/R)	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		50時間毎	96
		交換				○				○				○				○		200時間毎	96
22	後方カバー通気 フィルター	清掃																		毎回	86
23	クローラの張り	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		50時間毎	93
24	クローラの 亀裂・損傷	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		50時間毎	—
25	足回り連結棒・ ブッシュ	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		50時間毎	—
26	ラベルの損傷・ はがれ	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		50時間毎	—
27	ユウドウリンの 油漏れ・ユウド ウリンフォーク との締付け状態	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		50時間毎	—
28	トラックローラ の油漏れ	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		50時間毎	94

No	時期 項目		アワメータ表示時間																1 年 毎	それ以後	参照
			50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800			
29	クローラガイド	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		50時間毎	—
30	クローラ トレッド伸縮	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		50時間毎	95
31	ブレーキ	点検	○							○									○		97
32	ワイヤーハー ネス、バッテ リ (-) ケーブル	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		50時間毎	101
33	送信機	点検																	○		—
34	マニュアル コントローラ	点検																	○		—
35	警告灯	点検																	○		102
36	ホーンの作動	点検																	○		41
37	配線・センサ類	点検																	○		—
38	ヒューズ	点検																	○		101
39	モアスライド	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		50時間毎	—
40	ガード	点検																	○		—
41	刈刃ケース ギヤオイル	交換	○										○							500時間毎	103
42	刈刃駆動 Vベルト (モア)	調整																		初回 20時間	105
		点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		50時間毎	105
43	刈刃	点検																		毎回	104
		交換		○		○		○		○		○		○		○		○		100時間毎	104
44	グリース注入	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		50時間毎	78
45	リターンフィ ルタ	交換	○		○		○		○		○		○		○		○			初回50時間 以降 100時間毎	

給油・給脂一覧表

給油

項 目	補 給 (交 換) 時 期	推 奨 品	容 量
燃 料	随時	無鉛レギュラーガソリン	20 ℓ
エ ン ジ ン オ イ ル	補給 毎日点検し不足時に補給 交換 初回：20時間 2回目以降：100時間毎	ガソリンエンジンオイル API分類 SJ級以上 SAE分類 10W-30	1.7ℓ (1.9ℓ)*1
刈刃ケースギヤオイル	交換 初回：50時間 2回目以降：500時間毎		0.21ℓ
モータ減速機オイル	交換 初回：50時間 2回目以降：500時間毎		0.8ℓ×2
油 圧 作 動 油	補給 毎日点検し不足時に補給 交換 初回：200時間 2回目以降：600時間毎	高粘度指数油圧作動油 VG46	25ℓ

*1：フィルタを含む量

👉 アドバイス

- ・エンジン内に残っているオイル量によってオイル容量は異なります。オイル容量を参考値として、オイルレベルゲージ（→82ページ、エンジンオイルの点検・補給・交換）を確認しながらオイル量を調整して下さい。
- ・寒冷地（0℃以下）で使用する場合、エンジンオイルは5W-30の使用を推奨します。

給脂

⚠ 注 意

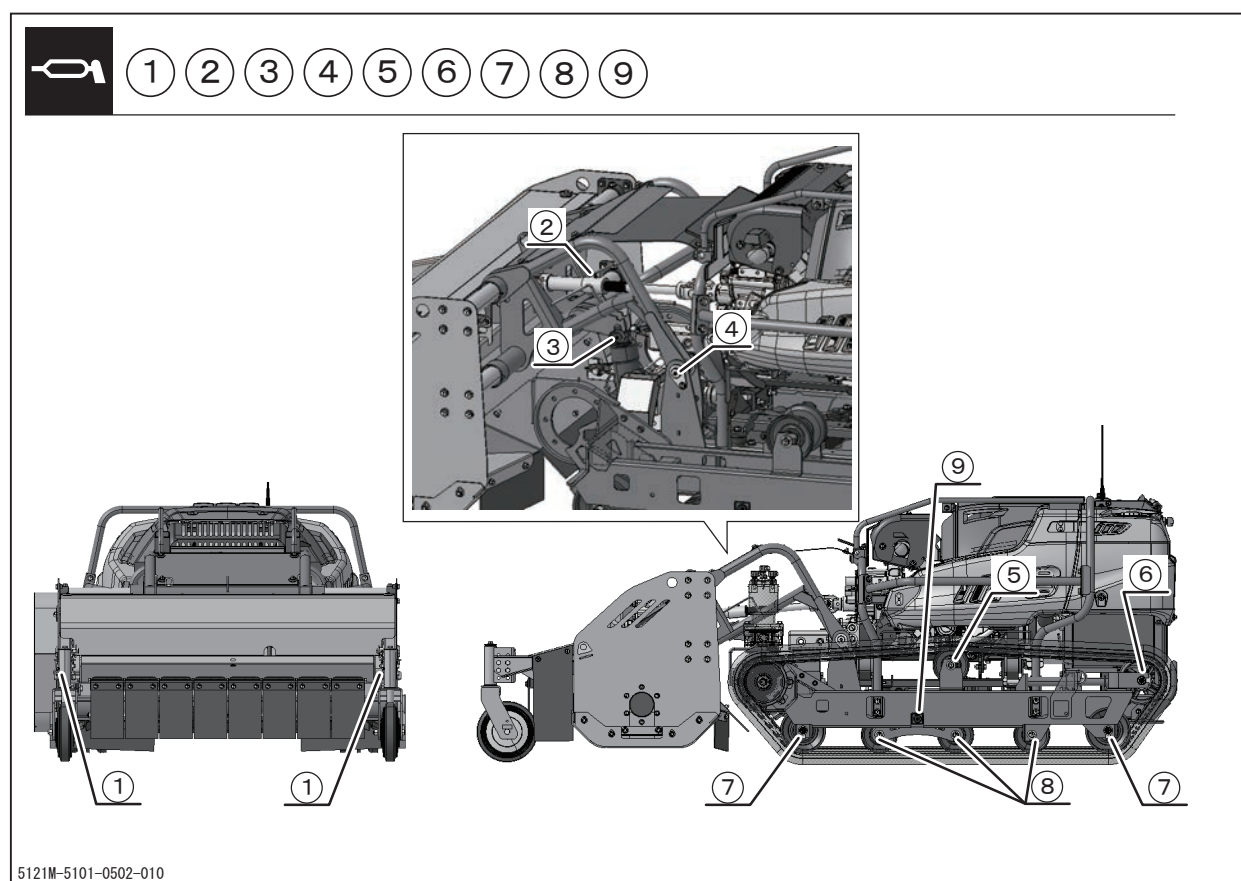
- ・給脂がおろそかになると、焼き付きや錆び付きの原因となり、作動が円滑に行われなくなるおそれがありますので、定期的に給脂を行ってください。

👉 アドバイス

- ・手動式のグリースポンプを使用の場合は5～6回突いてください。途中でポンプハンドルが重くなった場合は、ただちに給脂を終了してください。
- ・エア式のグリースポンプを使用の場合は2～3秒間給脂してください。

給 脂 箇所				補 給 時 期	箇所	推 奨 品
①	ゲ	ー	ジ 輪	50 時間毎	2	シャーシグリース
②	プ	ロ	ペ ラ シ ャ フ ト	50 時間毎	1	シャーシグリース
③	シ	リ	ン ダ 固 定 ピ ン	50 時間毎	1	シャーシグリース
④	リ	フ	ト 支 点 軸	50 時間毎	2	シャーシグリース
⑤	ア	ッ	パ ー ロ ー ラ 軸	50 時間毎	2	シャーシグリース
⑥	ユ	ウ	ド ウ リ ン 軸	50 時間毎	2	シャーシグリース
⑦	テ	ン	リ ン 軸	50 時間毎	4	シャーシグリース
⑧	テ	ン	リ ン 軸	50 時間毎	6	シャーシグリース
⑨	シ	ー	ソ ー 支 点 軸	50 時間毎	2	シャーシグリース

※⑤、⑧は固定のFボルト（外側）を付属のグリスニップルに組替えて給脂してください。



消耗部品

！ 注 意

- ・ 交換または修理が必要な場合は弊社純正部品のみを使用してください。弊社純正部品以外を使用し、問題が発生した場合は一切の責任を負いません。

👉 アドバイス

- ・ ゴム製品は時間の経過とともに劣化します。2年毎に交換してください。
- ・ 以下のURLまたはQRコードでオンラインパーツリストをご覧ください。

<https://www.canycom.jp/maintenance/parts/>

サイトに移動し、リスト内からモデルを検索します。



- ・ 消耗部品は別のページに記載されています。

https://www.canycom.jp/maintenance/recomment/consumables_CG27100.pdf

（これはPDFファイルにリンクしています。Adobeリーダーまたは類似のものがが必要です。） このファイルに無い部品については上記のパーツリストを参照してください。



- ・ 上記のパーツリストが表示できない場合は販売店にお問い合わせください。
- ・ 部品の交換は販売店に依頼してください。

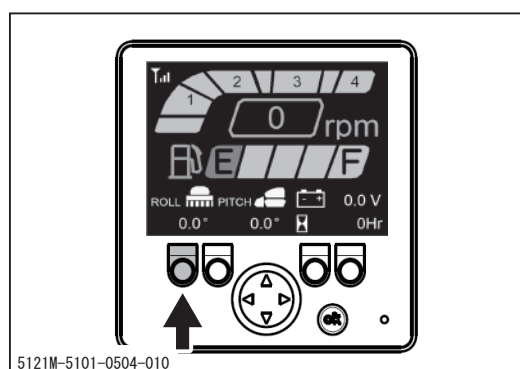
クリーニングモードについて

清掃作業や点検作業時の作業性向上のためにクリーニングモードを設定しております。必要に応じてお使いください。

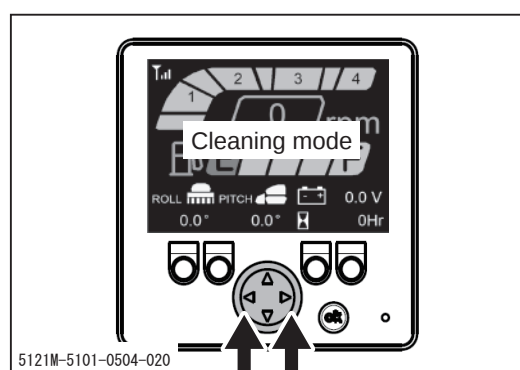
操作手順

！ 警 告

- ・ エンジンを傾ける際は他の作業者が手などを入れていないか十分に注意しながら少しずつ傾けてください。
- ・ モード解除するとエンジンが水平に戻りますので、中に手を入れたり、工具を置いたままにしないでください。



1. ホーム画面にて左端のスイッチを2秒以上長押しします。



2. 画面上に「Cleaning mode」が表示されます。
3. 「Cleaning mode」が表示された状態で、カーソルスイッチの  を押すと、押している間だけエンジンが左右に傾きます。（左右最大 約25°）この状態でキースイッチを[OFF]にするとエンジンを傾けたまま作業ができます。
4. 再度キースイッチを[ON]にするとモードが解除されエンジンが水平に戻ります。キースイッチを[OFF]にしていない場合は、もう一度左端のスイッチを2秒以上長押しすると「Cleaning mode」の表示が消え、モード解除されます。

エンジン

！ 警 告

- ・点検および作業時は必ずエンジンを停止し、キーを抜き取ってください。
- ・エンジン停止直後はエンジン各部およびエンジンオイルが高温になっており、やけどのおそれがありますので、エンジンが冷えてから作業を行ってください。
- ・エンジンの整備時は火気を近づけないでください。
- ・廃油は法令に従って適切な処理をしてください。

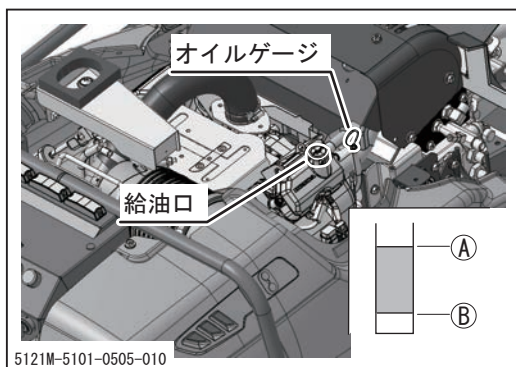
エンジンオイルの点検・補給・交換

！ 注 意

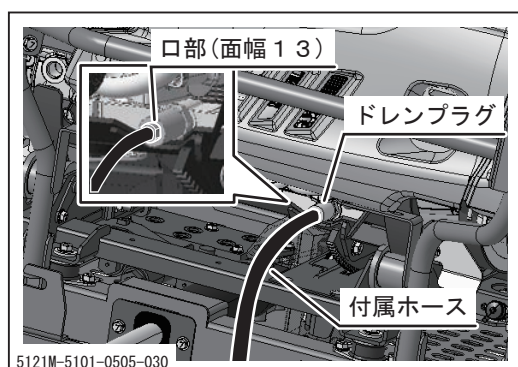
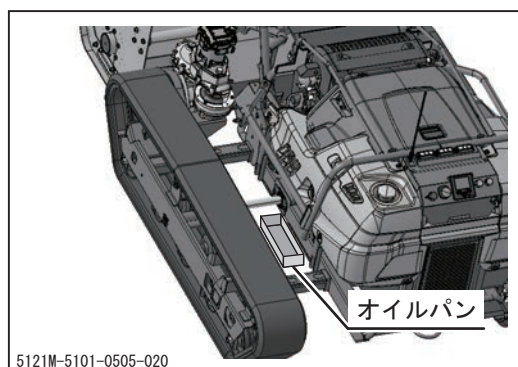
- ・オイルの補給がおろそかになると、エンジン故障の原因となりますので、指定のオイルを過不足なく補給してください。

！ アドバイス

- ・オイル量の点検するときは、機械を水平な場所に置いてください。傾いていると正確な量が示されません。
- ・オイル量はエンジン始動前かエンジン停止後約5分たってから行ってください。エンジン停止直後はエンジン各部にオイルが残留しており、正確なオイル量が点検できません。
- ・点検および作業時は付属の「エンジン取扱説明書」も参照してください。
- ・指定オイル、規定オイル量：☞78ページ

**点検**

1. トップカバーを開けます。
2. オイルゲージを抜いて先端をきれいに拭き、差し込んでから再び抜いて、オイルゲージの[下限 (B)]と[上限 (A)]の間にオイルがあるかを調べます。
3. オイル量が[下限]以下の場合はエンジンオイル給油口より補給してください。ただし、[上限]以上には入れないでください。
4. トップカバーを閉めます。



交換

1. 左トレッドを拡張させます。(☞49ページ) トラックフレームと車体フレーム間にオイルパンを置きます。
2. ドレンプラグ先端に付属のホース（内径9.5 mm）を取り付けます。
3. ドレンプラグの口部（面幅13）を半時計周りに5回ほど回すとオイルが出てきます。
4. 排出後、口部を時計周りに締めます。ホースを外します。

👉 アドバイス

- ・エンジンオイル交換は、オイルが温まった状態で、行ってください。オイルによるやけどに注意して行ってください。
- ・クリーニングモードを使用して、ドレンプラグ側が下に傾くようにすると排出が早く行えます。

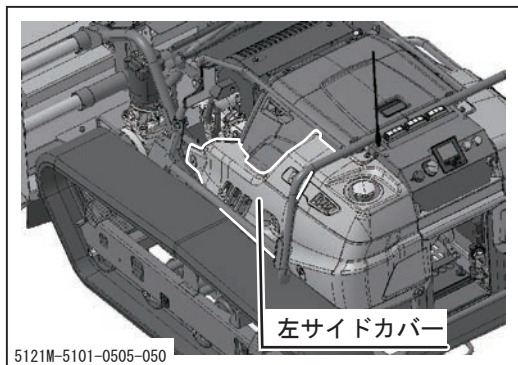
給油

エンジンオイルを給油口から規定量入れてください。このときオイルをこぼさないように注意してください。オイルゲージを外しておくと給油がしやすくなります。

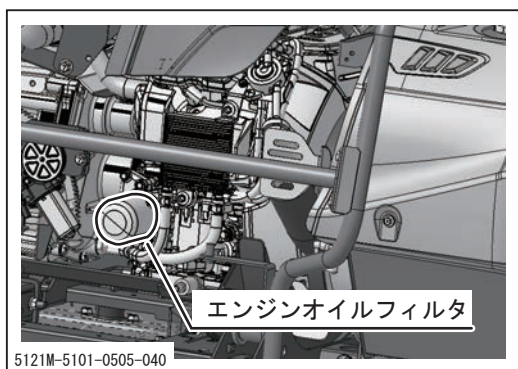
👉 アドバイス

- ・指定エンジンオイル：☞78ページ

エンジンオイルフィルタの交換



1. 左サイドカバーを外します。

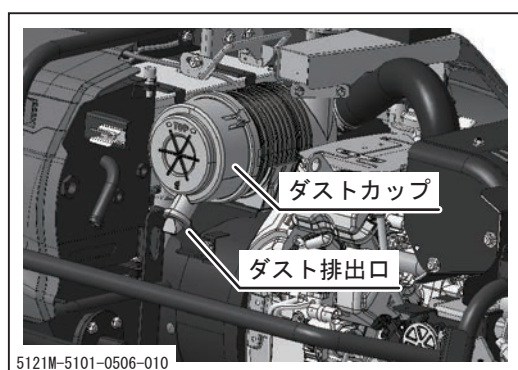


2. 付属の「エンジン取扱説明書」の指示に従って、オイルフィルタカートリッジの交換を行います。
3. 左サイドカバーを取り付けます。

エアクリーナの清掃・交換

! 注 意

- ・エアクリーナエレメントの清掃は8時間毎に行ってください。エレメントの汚れがひどくなると、エンジンの始動不良、出力不足、寿命低下を引き起こします。
- ・エアクリーナエレメントは200時間毎に交換してください。交換時期でない場合でもエアクリーナエレメントが損傷している時は速やかに交換してください。

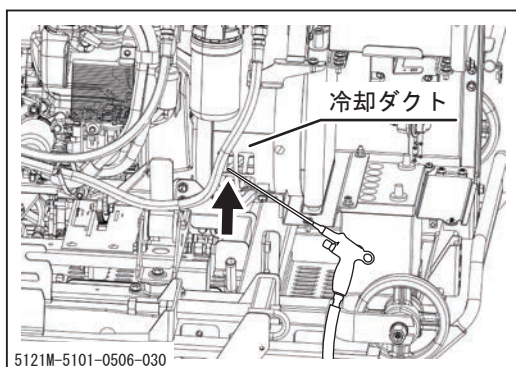


1. トップカバーを開け、右サイドカバーを外します。
2. ダストカップを外し、フィルタエレメントを取り出します。
3. エレメントを痛めないようにエアーを内側から吹き付け、ちりやほこりを取り除いてください。
4. エレメントを戻し、ダスト排出口が下を向くようにダストカップを装着してください。
5. 右サイドカバーを取り付け、トップカバーを閉めます。

エンジンスクリーンの清掃

！ 注 意

- ・ エンジンスクリーンに草等が詰まるとエンジンがオーバーヒートする恐れがあります。エンジンスクリーンの清掃は、8時間毎に行ってください。清掃時期でなくても枯れ草などが飛散しやすい圃場での作業後は清掃を行ってください。

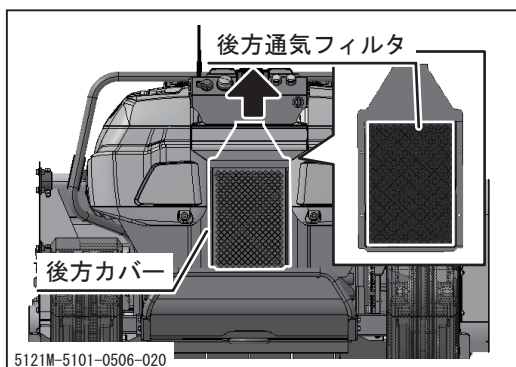


1. 左クローラのトレッドを広げます。
2. 左後方下より冷却ダクト内にエアーのノズルを差し込み、エンジンスクリーン全体のほこりをエアーで飛ばします。

後方カバー通気フィルタの点検・清掃

！ 注 意

- ・ フィルタの清掃は毎日行ってください。フィルタの汚れがひどくなると、オイルクーラの冷却効率が悪くなり、オーバーヒートする恐れがあります。
- ・ フィルタが損傷している場合、交換してください。
- ・ フィルタは乾式です。水洗いした場合は乾かして使用してください。



1. 機体から後方カバーを外します。
2. エアーで後方通気フィルタのほこり、草等を取り除きます。
3. 機体に後方カバーを戻します。

油圧系統

！ 警 告

- ・ 作業時は必ずエンジンを停止してください。
- ・ エンジン停止直後はオイルおよび各部が高温になっており、やけどのおそれがありますので、各部が冷えてから作業を行ってください。排出のために暖機する際は、高温部品や排出されるオイルによる火傷に注意してください。

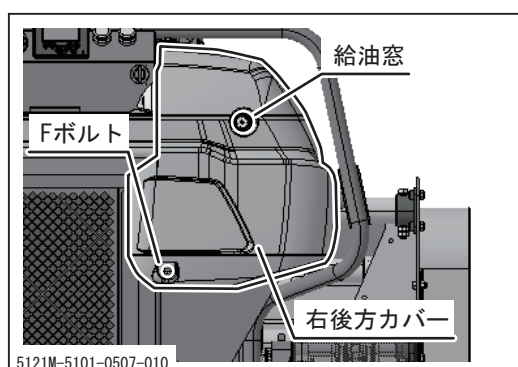
油圧作動油の点検・補給・交換

！ 注 意

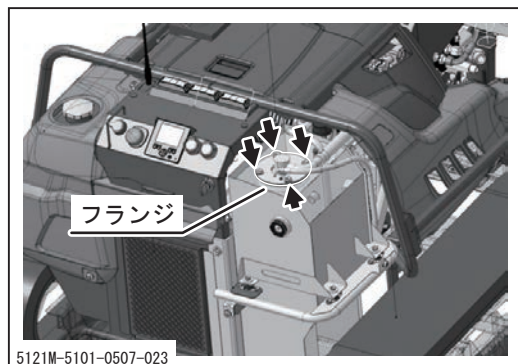
- ・ オイルが減ると油圧回路内に空気が入り、油圧機器の作動が悪くなりますので、指定のオイルを過不足なく補給してください。
- ・ 廃油は適切な処理をしてください。

👉 アドバイス

- ・ オイル量の点検はエンジン始動前に行ってください。エンジン停止直後はオイルが膨張しており、正確なオイル量が点検できません。
- ・ 点検するときは、機械を水平な場所に置いてください。傾いていると正確な量が示されません。
- ・ 指定オイル、規定オイル量：👉78ページ

**点検**

1. オイルレベルが検油窓内に見える範囲であるか確認します。
2. 不足しているときは、オイル漏れがないか確認し、右後方カバー（Fボルト3ヶ）を外します。

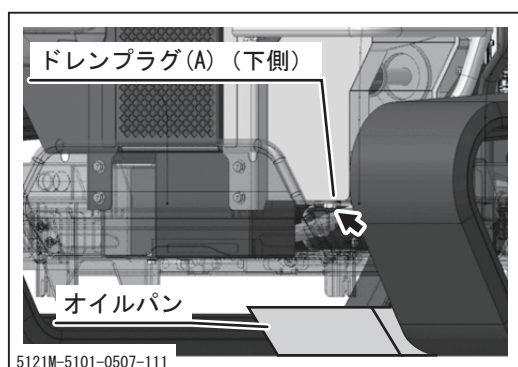


3. 作動油タンク上部のフランジ（Fボルト4ヶ）を外して取り外します。
4. 作動油を検油窓の目盛（中央）まで給油してください。

交換

👉 アドバイス

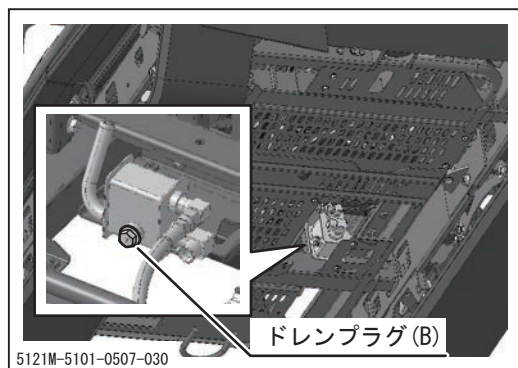
- ・油圧作動油排出量目安：約17ℓ
- ・交換前に作動油が暖まっている方が排出し易くなります。その際は排出時に火傷に注意してください。



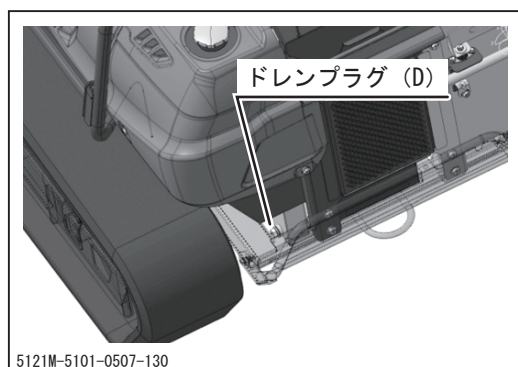
1. 少し走行して作動油を温めた後、左クローラトレッドを伸ばした状態で駐車します。
2. 車体右後方にある、作動油タンク下のドレンプラグ（A）の下にオイルを受けるオイルパンを置き、ドレンプラグを外してオイルを排出します。

👉 アドバイス

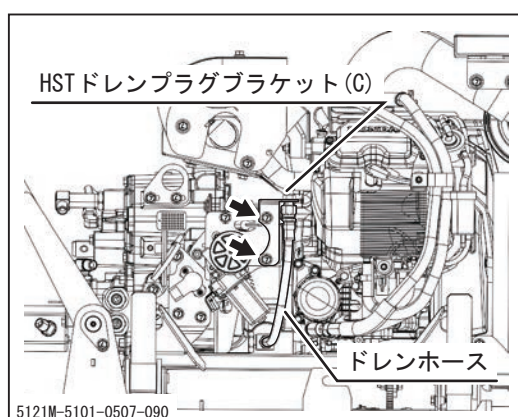
- ・作動油タンクのオイルを抜く際は、漏斗等を使用するとフレームにオイルがかかることなく綺麗に抜くことができます。



3. 左後方アンダーガードを取り外します。
4. オイルクーラ前のドレンプラグ（B）の下にオイルを受けるオイルパンを置き、ドレンプラグを外してオイルを排出します。



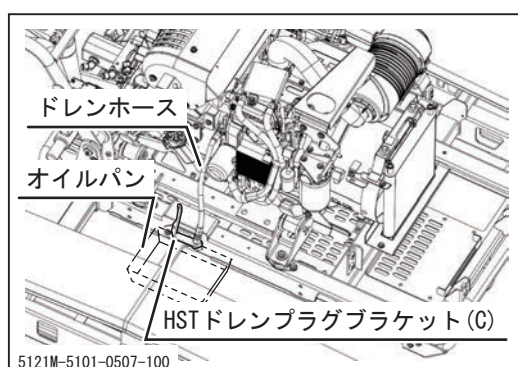
5. サブタンクの下にオイルパンを置き、ドレンプラグ (D) を外しオイルを排出します。



6. 左サイドカバーを取り外します。
7. HSTドレンプラグブラケット (C) を保持しているFボルト2ヶを取り外します。

アドバイス

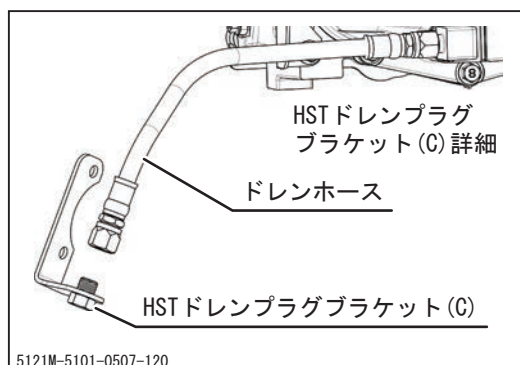
- ・ドレンプラグブラケットを留めているFボルトは電動モータの固定も兼ねていますので、ブラケットを取り外した後、すぐに再度組み付けて下さい。



8. 伸ばしたクローラとフレームの間にオイル受けのオイルパンを置き、ドレンホースからHSTドレンプラグブラケット (C) を取り外してオイルを排出します。

アドバイス

- ・オイルパンからオイルが漏れないように、ドレンホースをワイヤなどで仮固定してください。



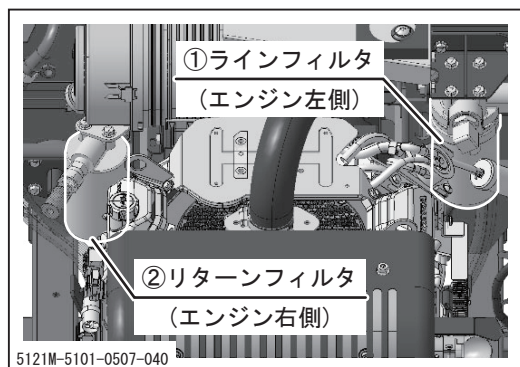
9. ドレンプラグ (A)、(B)、(D) を取り付けます。
10. HSTドレンプラグブラケット (C) をドレンホースに仮組みし、元の位置にFボルト2ヶで取り付けてから、ドレンホースの振じれがないようにHSTドレンプラグブラケット (C) とドレンプラグを本締めします。
11. 規定のオイルを給油口から規定量入れます。

👉 アドバイス

- ・ 作動油タンクの給油キャップは燃料キャップと形状が同じです。作業時に入れ間違えないよう注意してください。
- ・ 作動油交換後は各油圧機器にオイルが充填されていないため、エンジン始動前に緊急エンジン停止スイッチ[停止]で3回に分けてセルを回転させてください。(10秒間セル回転⇒10秒間休止) × 3回
- ・ エンジン始動後にタンク内の作動油油面が検油窓より下がるため、減少分を再度給油してください。

12. オイルパンを片付け、左後方アンダーガードと左サイドカバー、右後方カバーを取り付けます。

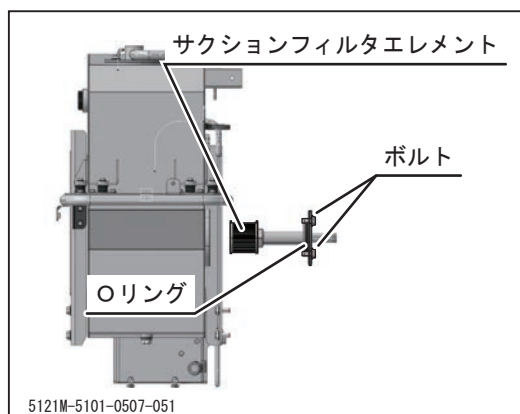
油圧作動油フィルタの交換



ラインフィルタとリターンフィルタの交換

1. 作動油交換時の排出手順でオイルを抜きます。
2. フィルタレンチで①ラインフィルタおよび②リターンフィルタを取り外します。
3. 新しいカートリッジのOリングにオイルを薄く塗布してから、フィルタレンチを使用せず手で確実に締め付けます。
4. 油圧作動油を規定量まで補給します。
5. 約2分間運転し、モアの昇降や走行に異常がないか確認してからエンジンを止めます。

6. 再び検油窓より油面を確認し、不足していれば補給してください。（☞87ページ）

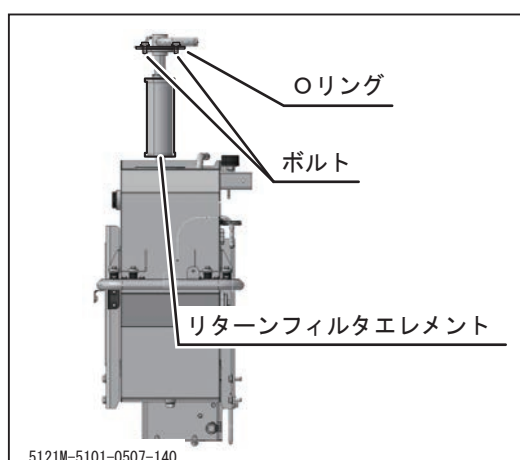


サクションフィルタの交換

1. 作動油オイルを抜きます。
2. ボルト（4本）を取り外しサクションフィルタマウントを取り外します。
3. サクションフィルタエレメントを交換します。
4. Oリングにきれいなオイルを薄く塗布し、Oリングが外れないようにサクションフィルタマウントをタンクに挿入します。

アドバイス

- ・油圧作動油交換時、ラインフィルタ、リターンフィルタ、サクションフィルタも同時に純正部品のカートリッジと交換してください。



リターンフィルタの交換

1. ボルト（4本）を取り外し、フランジを取り外します。
2. リターンフィルタを交換します。
3. Oリングにオイルを薄く塗布し、Oリングが外れないようにフランジをタンクに取り付けます。

油圧ホースの点検

！ 注 意

- ・ ホース類の傷みや締付バンドのゆるみは必ず点検し、異常があれば交換・整備を行ってください。油圧作動油漏れによる火傷や傷害事故の原因になります。

1. 配管からの油漏れがないか点検してください。

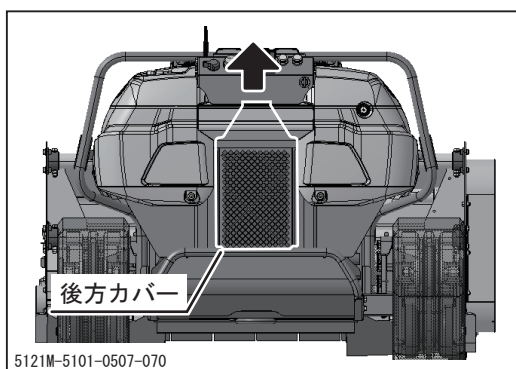
！ アドバイス

- ・ オイル漏れがある場合やホースの交換が必要な場合は販売店に依頼してください。

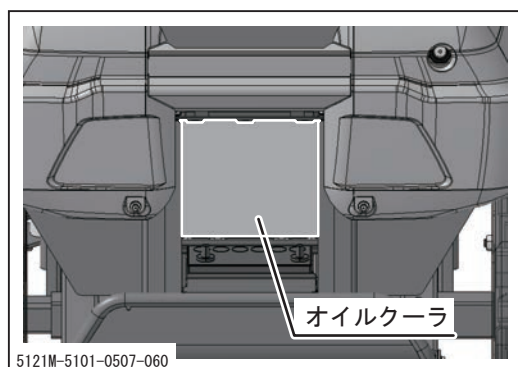
オイルクーラの清掃

！ 注 意

- ・ オイルクーラの清掃は毎日行ってください。クーラが目詰まりを起こすと、作動油がオーバーヒートする恐れがあります。
- ・ オイルクーラの至近距離でエアーを使用するとフィンが変形します。20cm以上離して使用してください。



1. 機体から後方カバーを外します。



2. オイルクーラ周辺のちりやほこりをエアーで取り除きます
3. 機体に後方カバーを取り付けます。

走行装置

！ 警 告

- ・ 作業時は必ずエンジンを停止してください。

クローラ張り調整

！ 警 告

- ・ ジャッキアップした場合は、シャシフレームに支持台をあて、確実に車体を保持してください。

！ 注 意

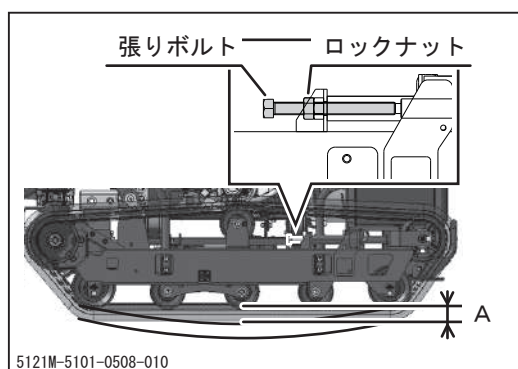
- ・ クローラは新品時の初期伸びによるゆるみが発生するのでクローラの張り調整が必要です。クローラの張りが正常でないと脱輪したりクローラの寿命を著しく縮めたりする原因となります。
- ・ 走行距離が多くなるとスプロケットとのなじみによるゆるみが発生するのでクローラの張り調整が必要です。クローラの張りが正常でないと脱輪したりクローラの寿命を著しく縮めたりする原因となります。
- ・ クローラを頻繁に張るような場合は、販売店にご連絡ください。重大な故障につながる可能性が考えられます。

! 注 意

- ・ クローラは重量があるので取り扱いには十分注意してください。
- ・ スプロケットに石などを噛み込んでいるときは、まず除去してからクローラの調整を行ってください。
- ・ クローラ部は、作業終了後十分清掃し、泥などが付着したまま放置しないでください。万一、作業中クローラ部に泥などが詰り、張りすぎた状態になった場合は、ジャッキでクローラ部を浮かせて片側ずつ無負荷運転をさせるなどして泥を落としてください。

👉 アドバイス

- ・ クローラを張り過ぎると、クローラの摩耗を早めます。
- ・ クローラが緩すぎると、スプロケットの噛み合い不良、クローラの摩耗、クローラ外れなどの原因となります。



クローラの張り調整

クローラが緩んだら、次の要領で点検・調整をしてください。

1. 車両を水平な場所に停止させます。
2. ジャッキアップ等して片側のクローラを地面と平行に浮かせます。
3. ロックナットを緩めます。
4. クローラとフレームの隙間Aが10～15mmになるようにクローラ張りボルトで調整します。
5. ロックナットを確実に締め付けます。
6. 車両を降ろします。

ユウドウリンとトラックローラの点検

！ 警 告

- ・点検するときは、機械を水平な場所に駐車し、クローラの前後に車止めをしてください。また、モアのゲージ輪は必ず接地してください。

点検のしかた

1. 足回りの草や土、砂等を取り除いて下さい。
2. ユウドウリンやトラックローラの油漏れ、ボルトのゆるみがないか確認してください。
3. ボルトのゆるみがある場合は増し締めをし、油漏れが確認された場合は、速やかに販売店での対応をお願いします。

 アドバイス

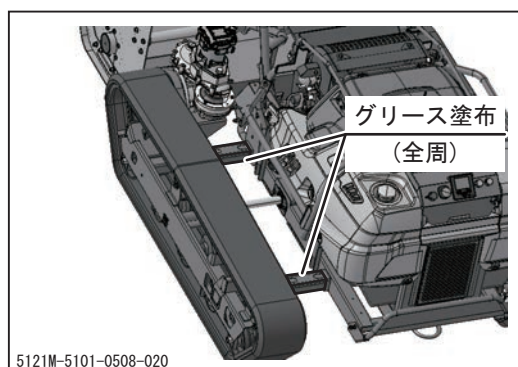
- ・規定締付けトルク

M12 : 83.4~93.2 N・m (850~950kgf)

トレッド伸縮の点検

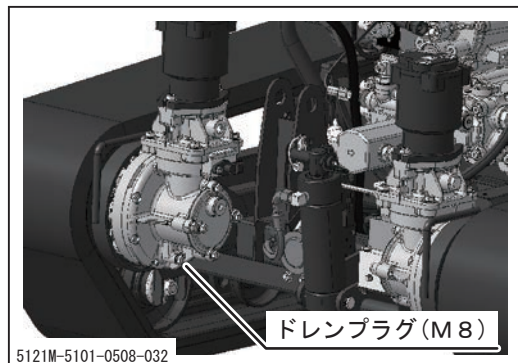
！ 警 告

- ・トレッド伸縮がスムーズに行えない状態で無理に動かすとフレームの破損につながるおそれがあります。



1. フレームの摺動部にグリースを塗布してください。(50時間毎)
2. トレッドの伸縮を行い、動きの確認をしてください。
3. 動きがスムーズでない場合は、速やかに販売店での対応をお願いします。

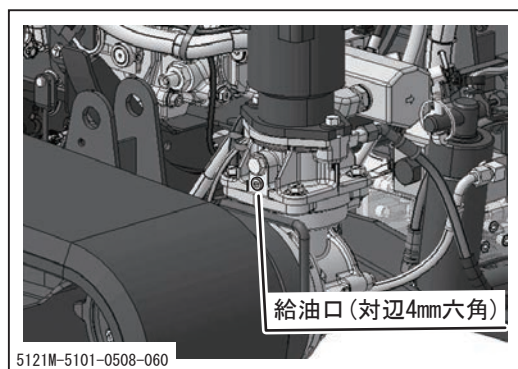
走行モータ減速機オイル交換



1. ドレンプラグを外し、オイルを排出します。
2. 給油口のボルトを外します。(オイルが排出されやすくなります。)
3. ドレンプラグを取り付けます。
4. 給油口から給油を行います。
5. 給油口のプラグにシールテープを巻き、取り付けます。

 アドバイス

- ・ 給油量(目安) : 800cc



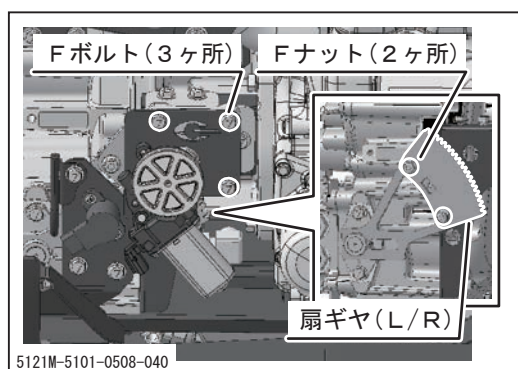
HST 走行リンク部扇ギヤの点検・交換

点検

1. 左および右サイドカバーを外します。
2. HSTポンプの左右にある走行リンクの扇ギヤに欠けたような磨耗や変形がないか確認します。
3. 左および右サイドカバーを取り付けます。

👉 アドバイス

- ・定期交換時期前でも扇ギヤに損傷がある場合は、走行トラブルに繋がる可能性があるため直ちに交換してください。

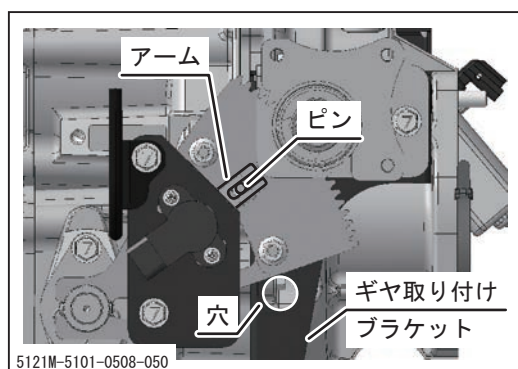


交換

1. 左および右サイドカバーを外します。
2. 電動モータ固定のブラケット (Fボルト3ヶ所で固定) を外します。
3. 扇ギヤ (Fナットと対辺4mmの六角 2ヶ所で固定) を外します。
4. 新しい扇ギヤを取り付けます。このとき、相手のギヤと無理な干渉をしないように調整してください。
5. アームの切込み部にピンをはめます。
6. 電動モータ固定のブラケットを取り付けます。このとき、走行モータのギヤと相手のギヤが無理な干渉をしないように調整してください。
7. 左および右サイドカバーを取り付けます。

👉 アドバイス

- ・扇ギヤ下側のボルト (対辺4mm六角) はアームを下方へ動かした後にギヤ取り付けブラケットにある穴を通して、六角レンチを使用することができます。



ブレーキの調整

 警 告

- ・ブレーキの調整が悪いと、人身事故にもつながります。常に作動状態に注意をし、異常を感じたら点検してください。

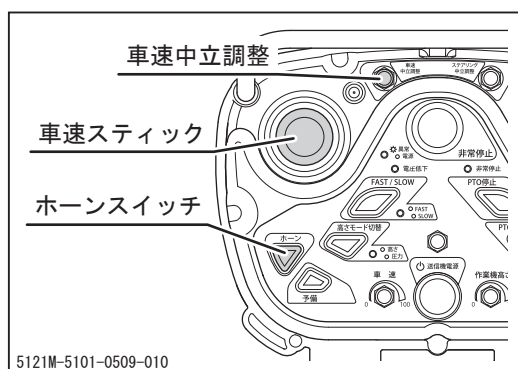
傾斜地でエンジンを止めたときに、カクッ、カクッとクローラが回り車両が下がるようであれば、すぐエンジンを始動して平坦地へ移動させ、販売店でブレーキの点検を行ってください。

電装品

！ 警 告

- ・点検および作業時は必ずエンジンを停止し、キーを抜き取ってください。
- ・ぬれた手で作業を行わないでください。感電のおそれがあります。

車速中立位置の調整



エンジン始動後、車速中立位置の確認(☞37ページ)でエラーが出た場合(ホーンが2回または3回鳴る)は、車速中立位置の調整を行います。

1. ホーンが2回鳴る場合は、車速中立調整を左へ回します。
2. ホーンが3回鳴る場合は、車速中立調整を右へ回します。
3. 調整後、再度ホーンスイッチで確認してください。2回、または3回鳴る場合は1、2の作業を繰り返します。

👉 アドバイス

- ・車速中立位置の調整後は、車速中立調整を触らないでください。微調整の位置を変えると中立位置がズレます。
- ・ホーンスイッチは車速中立位置の設定後は通常のホーンとして使用できます。

バッテリーの点検・交換

 危 険

- ・ この車両にはAGM（Absorbed Glass Mat）バッテリーが搭載されています。AGMバッテリー以外のバッテリーを搭載しないでください。傾斜地走行時にバッテリー液が漏れてしまい危険です。

 警 告

- ・ バッテリーの電極に触れないでください。感電のおそれがあります。
- ・ バッテリーの清掃は湿った布で行ってください。乾いた布で清掃すると、静電気で引火爆発するおそれがあります。
- ・ バッテリーの点検および取り外し時は、エンジンを必ず停止し、キースイッチを[OFF]にしてください。
- ・ バッテリーを取り外すときは、短絡（ショート）事故を防ぐため、最初にバッテリーキルスイッチを[OFF]状態にしてからバッテリー・マイナス（-）ケーブルを取り外してください。接続するときはマイナスケーブルを最後に接続してください。また、工具などがバッテリー端子に接触しないようにしてください。

 注 意

- ・ 新品のバッテリーと交換する場合は必ずAGMタイプの[34B20R]のバッテリーを使用してください。
- ・ バッテリーを取り付けるときはプラスとマイナスのケーブルを正しく接続してください。

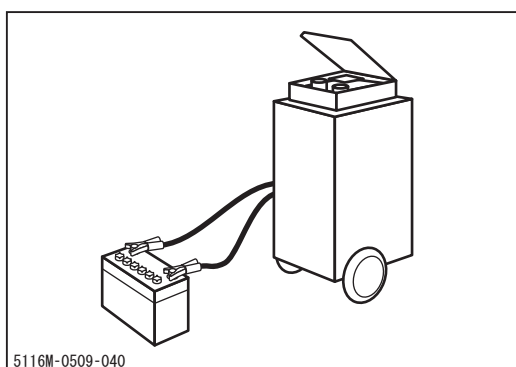
バッテリーの充電

！ 警 告

- ・ バッテリーに火気を近づけないでください。バッテリーは充電中に引火性のガスを発生し、引火爆発のおそれがあります。
- ・ バッテリーの電極に触れないでください。感電のおそれがあります。
- ・ バッテリーの充電は車両から取り外して行ってください。

！ 注 意

- ・ バッテリー端子を取り外すときは(－)端子から取り外し、取り付けるときは(＋)端子から取り付けてください。(＋)端子と車体の間に工具等が接触するとショートします。
- ・ バッテリーを充電するときは、AGM対応の充電器を使用し、使用する充電器の取扱説明書の指示に従ってください。
- ・ バッテリー端子をバッテリーに取り付けるときには(＋)と(－)を間違えないでください。また、端子はしっかりと取り付け、配線がまわりに接触しないようにしてください。



1. バッテリーは必ず車体から取り外して充電してください。電装品の損傷の他に配線などを傷めることがあります。なお急速充電はしないでください。
2. バッテリーコードを接続するときは、プラスとマイナスを間違えないようにしてください。間違えるとバッテリーと電気系統が故障します。
3. 充電はバッテリーのプラスを充電器のプラスに、バッテリーのマイナスを充電器のマイナスにそれぞれ接続し、普通の充電法で行なってください。コードの接続を間違わないように注意してください。

ワイヤハーネス・バッテリープラスケーブルの点検

! 注 意

- ・ワイヤハーネス及びバッテリープラスコードが損傷しているとショートを起すので、必ず点検してください。
- ・バッテリー、配線及びマフラやエンジン周辺部にワラクス、ゴミや燃料の付着などがあると、火災の原因となるので毎日作業前に点検してください。

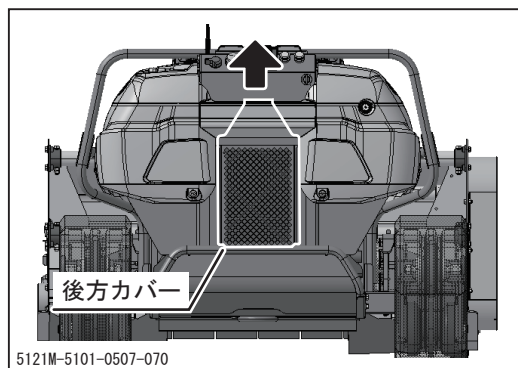
ワイヤハーネス、バッテリープラスコードの被覆は各部の角に接触したり、ネズミなどに齧られたりして損傷したり、自然劣化することがありますので、下記の項目について定期的に点検してください。

1. ワイヤハーネスの損傷及びクランプのゆるみがないこと。
2. ターミナル、コネクタの接続部のゆるみがないこと。
3. 各スイッチが確実に作動すること。

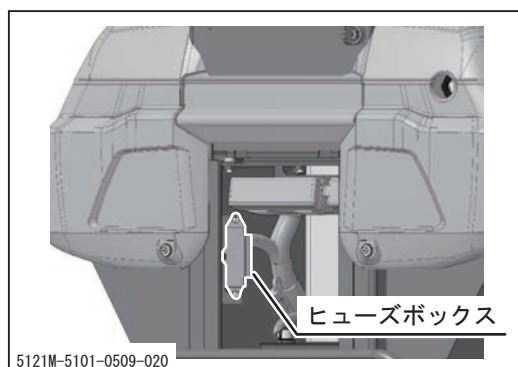
ヒューズの交換

! 注 意

- ・ヒューズが切れているときは、原因を調査し、修理をしてから交換してください。
- ・ヒューズは指定容量のものと交換してください。電装品が故障するおそれがあります。



1. 機体から後方カバーを外します。



2. ヒューズボックスのふたを外します。
3. 切れてるヒューズを外します。
4. 切れたものと同容量のヒューズを取り付けます。
5. ヒューズボックスのふたを取り付けます。
6. 後方カバーを取り付けます。

品名	個数
10Aオートヒューズ	5
20Aオートヒューズ	3
30Aオートヒューズ	2

👉 アドバイス

- ・ヒューズボックス内に刈草やほこりなどが入っている場合は清掃してください。ヒューズが切れたり電圧が低下する原因となります。

取付場所	ヒューズ
オプション電源	10A
モア	10A
マイコン・表示	10A
トレッド可変	10A
予備	10A
走行	20A
エンジンチルト	20A
予備	20A
メイン	30A
予備	30A

ランプ類の交換

⚠ 注 意

- ・表示警告灯交換時は、必ずバッテリーキルスイッチを[OFF]にして下さい。

表示警告灯

1. 点灯しないときは部品を交換します。

作業機（モア）

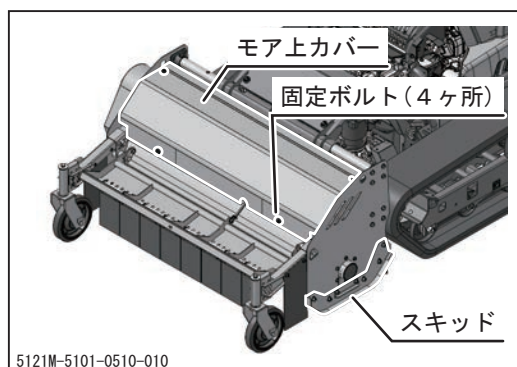
! 警告

- ・点検および作業時は必ずエンジンを停止し、キーを抜き取ってください。
- ・エンジン停止直後は各部が高温になっており、やけどのおそれがありますので、各部が冷えてから作業を行ってください。

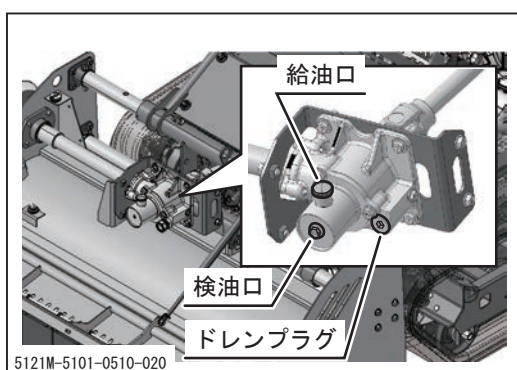
刈刃ケースギヤオイルの交換

! 警告

- ・作業直後はオイル及び各部が高温になっており、やけどのおそれがありますので、冷えてから作業を行ってください。



1. モア両端のスキッドが路面と平行になるようにモア高さを調節します。
2. 固定ボルト (M6×4ヶ所) を外し、モア上カバーを外します。



3. ドレンプラグを外し、オイルを排出します。オイルを排出しにくい時は、オイル注入口キャップを外してください。
4. ドレンプラグを取り付けます。
5. オイル注入口のキャップを外し、指定のオイルを規定量入れるか、検油口からオイルが出るまで入れてください。
6. モア上カバーを固定ボルト (M6×4ヶ所) で取り付けます。

👉 アドバイス

- ・指定オイル、規定オイル量：👉78ページ
- ・検油口からオイルが出るまで注油する場合は、一度に入れるとすぐに検油口からあふれるため、数回に分けて、時間を空けながら注油するようにしてください。

刈刃の点検・交換

！ 警 告

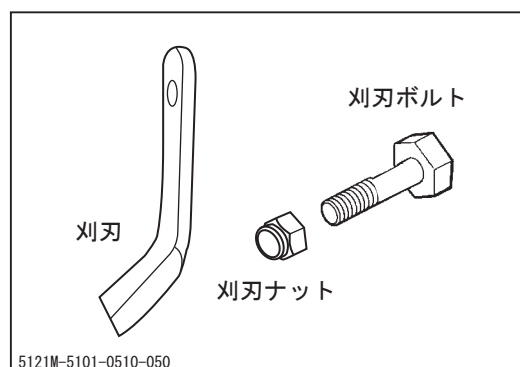
- ・モアを油圧で持ち上げて、その下で作業を行わなければならない場合は、油圧作動油の漏れなどによるモアの降下がないことを確認したうえで、モアの下に支持台などを置いて落下しないように処置してから作業してください。

！ 注 意

- ・刈刃が折損した場合には、ただちに新しい刈刃と交換してください。回転バランスがくずれ、異常振動を発生し、故障の原因となります。
- ・刈刃を交換する時は、刈刃ボルトも同時に新品に交換してください。部品は必ず純正部品を使用してください。
- ・刈刃を交換する場合は全数交換をしてください。やむを得ず一部を交換する場合は左右対称になるように交換してください。回転バランスがくずれ、異常振動を発生し、故障の原因となります。
- ・刈刃の取扱時は厚い手袋を着用するか、厚い布で刃先を包んで慎重に取り扱ってください。

点検

フレールモアは高速回転するため振動が出ます。使用時ごとに各所のボルト、ナット類が緩んでいないか、一つ一つ増し締めをしながら点検します。新品の場合は使用2～3時間毎に必ず増し締めをしてください。



交換

刈刃（フレール爪）の減り具合、刈刃ボルト、刈刃ナットの摩耗を特に注意し、使用時ごとに点検します。異常がある場合はただちに新品と交換してください。刈刃の交換時は刈刃ボルトも同時に新品と交換してください。部品は必ず純正部品を使用してください。

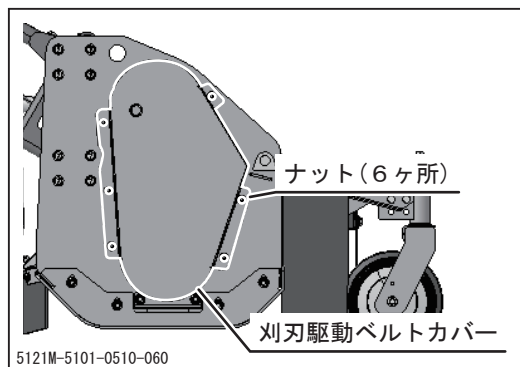
👉 アドバイス

- ・ 刈刃は両刃になっているので、片側が減ったときは反転して取り付けることにより、もう片側も使えます。両側が摩耗し、先が丸くなったら刈刃と刈刃ボルトを交換してください。
- ・ 交換後、60時間使用し反転させて40時間使用。合計100時間で再度交換が目安となります。ただし、圃場の状態で摩耗時期が異なる場合があります。

刈刃駆動ベルトの点検・調整・交換

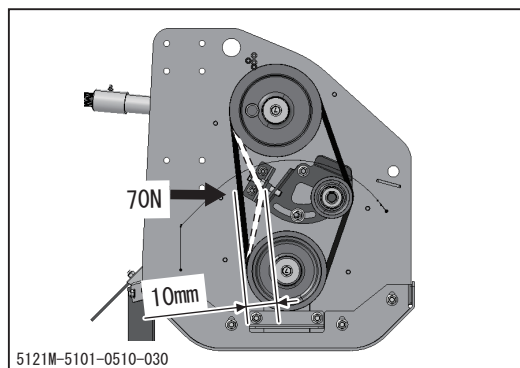
! 注 意

- ・ ベルトの張りが弱いとベルトがスリップし、作業能力が低下します。また、ベルトの寿命が縮みます。



点検

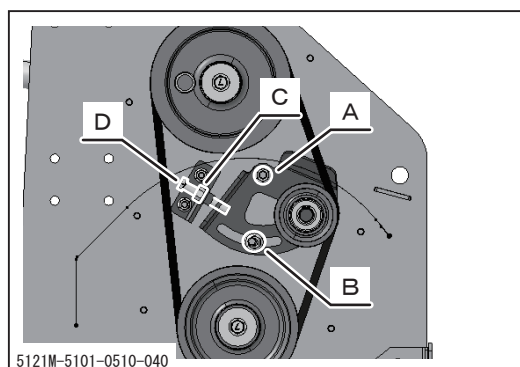
1. ナット (M8×6ヶ所) を外し、刈刃駆動ベルトカバーを外します。



2. 刈刃駆動ベルトの中央を指で押さえ、刈刃駆動ベルトの張りを点検します。たわみ量が適正でない場合にはベルトの張りを調整します。
3. 刈刃駆動ベルトカバーをナット (M8×6ヶ所) で取り付けます。

👉 アドバイス

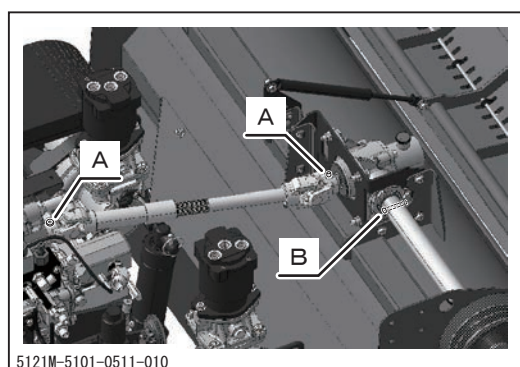
- ・ たわみ量：約70Nで約10mm
- ・ ベルトは初期伸びが発生しますので初回は20時間を目途にベルトの張りを調整してください。



調整

1. ナット (M8×6ヶ所) を外し、刈刃駆動ベルトカバーを外します。
2. FナットA,Bを緩めます。
3. ロックナットCを緩めます。
4. 張りボルトDでベルトの張りを調整します。
5. ロックナットCとFナットA,Bを締付けます。
6. 2～3分間試運転を行い、緩みがないことを確認します。
7. 刈刃駆動ベルトカバーをナット (M8×6ヶ所) で取り付けます。

刈刃駆動シャープピンの交換



1. モア上カバーとフロントカバーを外します。
2. 刈刃駆動シャフトのA,Bの3ヶ所のシャープピンを確認します。
3. 不具合があれば交換してください。
(シャープピン1セットは標準付属品となっていますのでご使用ください。)
4. モア上カバーとフロントカバーを組付けます。

アドバイス

- ・PTO回転スイッチを[ON]にしても刈刃が回らないときは、駆動のシャープピンが折れている場合があります。シャープピン組付け箇所を確認し、不具合があれば交換してください。

使用後のお手入れ

注 意

- ・コントローラや電子機器の内部を不用意に触らないでください。またコントローラの上に物を置いたり、物を落としたししないでください。誤作動のおそれがあります。
- ・使用後はエンジンルーム内も清掃してください。エンジンルーム内に刈取った草が堆積したままにすると、エンジン、マフラの熱により発火する危険性があります。
- ・格納時は、必ずキーを抜いておいてください。
- ・保管時にシートや防水カバーをかける場合は、マフラやエンジンが充分冷えてからカバーをしてください。火災を起こす恐れがあります。
- ・付着物は凍結して故障の原因となりますので、きれいに取り除いてください。
- ・凍結して運転不能となった場合は無理に動かさないでください。

本製品には精密な電子部品が多く使われています。機能を十分発揮させるためには、良い環境で使用・保管してください。

通常使用後のお手入れ

1. 使用後は車両に付着した草や泥などの異物を取り除きます。
2. 車両の洗浄時は、エンジンカバーを開けて内部を水洗いすることは絶対行わないでください。コントローラやエンジンECUなどの電子機器が濡れると、故障したり操作不能になる恐れがあります。コントローラを濡らさないように注意して洗浄してください。
3. 必ず屋内で保管してください。エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

寒冷期使用後のお手入れ

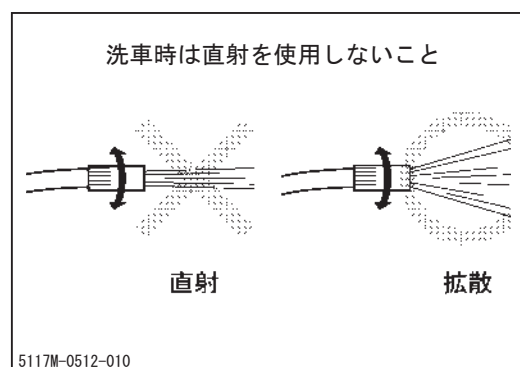
1. 使用後は車両に付着した草や泥などの異物を取り除きます。
2. 車両の洗浄時は、エンジンカバーを開けて内部を水洗いすることは絶対行わないでください。コントローラが濡れると、故障したり操作不能になる恐れがあります。コントローラを濡らさないように注意して洗浄してください。
3. 必ず屋内の、コンクリートか固い乾燥した床の上で保管してください。エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

洗車

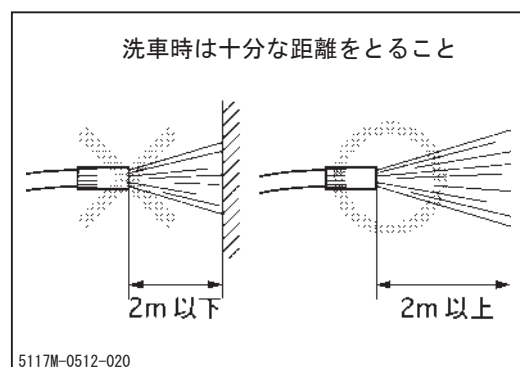
! 注 意

- ・ 洗車時はエンジンを止めてから洗車してください。洗車中はエアクリーナの吸入口や排気口から水が入らないように注意してください。
- ・ エンジンや操作パネル、またコントローラ、エンジンECUやその他の電子機器の水洗いはしないでください。水の浸入による誤作動や故障、錆び付きのおそれがあります。
- ・ 高圧洗車機を使用する時は、洗車機の取扱説明書とラベルにしたがい、正しく使用してください。洗浄ノズルは[拡散]にし、2m以上離して洗車してください。直射にしたり、近距離から洗車すると、ラベル類の剥がれや電子部品への浸水による誤作動、塗装・メッキ面の損傷やゴム、樹脂部品などの損傷だけでなく、電気配線部の損傷や油圧ホースの損傷により重大な障害や事故に繋がるおそれがあります。

高圧洗車機の使用方法を誤ると、人に傷害を与えたり機械を破損させたりする恐れがあります。高圧洗車機を使用する時は、洗車機の取扱説明書とラベルにしたがって、正しく使用してください。



1. 機械を損傷しないように洗浄ノズルを[拡散]にし、2m以上離して洗車してください。



長期保管のしかた

 警告

- ・火気のある場所に格納しないでください。火災のおそれがあります。

 注意

- ・格納時は、必ずキーを抜いておいてください。
- ・保管時にシートや防水カバーをかける場合は、マフラやエンジンが充分冷えてからカバーをしてください。火災を起こす恐れがあります。
- ・付着物は凍結して故障の原因となりますので、きれいに取り除いてください。

本機を長い間使用しない場合は、次の要領で整備してから格納してください。

1. 車両を停車します。
2. 車両に堆積した草や付着した泥などを取り除きます。
3. 定期点検一覧表の項目を点検し、必要なら整備を行います。また、不具合箇所も整備します。
4. エンジンオイルを交換します。2000回転／分以上で10～15分間の防錆運転をし、各部にオイルをゆきわたらせます。その後も1～2カ月ごとに同様に防錆運転をしてください。
5. 車体のさびやすい部分には、グリースかオイルを塗っておいてください。また、鋼板部分を油のしみた布で清掃し、給脂箇所に給脂します。
6. バッテリーを本機から取り外し、風通しの良い冷暗所に保管してください。また本機に取り付けたまま保管するときは、バッテリーキルスイッチを[OFF]にして下さい。
7. 各部の配線・バッテリーコード・燃料配管などの亀裂・被覆の破れ・コードクランプの外れを点検し、必要があれば整備してください。
8. 格納中バッテリーは、1カ月に一回充電器で完全充電するようにしましょう。
9. 格納場所は、周囲にワラなど燃えやすいものがない、雨のかからない乾燥した屋内を選定し、シートなどをかけるようにしましょう。
10. 燃料は満タンにしてください。空にしておくと水滴ができ、タンク内のサビの原因になります。

 アドバイス

- ・バッテリーは使用しなくても放電してしまいます。約6カ月は蓄電していますが、放電してしまわないうちに充電するとバッテリーを長持ちさせることができます。
- ・エンジンの長期保管の詳細については付属の「エンジン取扱説明書」を参照してください。

不具合診断表

- ・ 不具合と考えられる現象が起きた場合は本製品の使用を停止し、下記の不具合診断表を参照して適切な処置をとってください。不具合診断表に記載されていない不具合が発生した場合や、適切な処置をとっても不具合が解消されない場合、ご不明な点がある場合は、販売店へ連絡してください。
- ・ 下記の処置内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具や計器が必要なものが含まれています。ユーザー自身で実施できない処置内容については販売店へ依頼してください。

不調と処置

不 具 合 現 象	考 え ら れ る 原 因	処 置	参 照
エンジン 始動困難な 場合	燃料切れ	・ 燃料を補給する。	24ページ
	燃料が流れない	・ 燃料タンクを点検し、沈殿している不純物や水分を除く。	
		・ 燃料フィルタ、コックフィルタを点検し、汚れていれば交換する。	
	燃料送油系統に空気や水が混入している	・ パイプ、プラグ、袋ナットおよび締付バンドを点検し、ゆるみがあれば締め、損傷があれば新品と交換、または補修する。	
		・ 空気抜きをする。	
	バッテリーがあがり気味で、スタータの回転が弱い	・ バッテリーを充電する。	101ページ
	緊急エンジン停止スイッチが押されたままになっている	・ 一度キースイッチを[OFF]して緊急エンジン停止スイッチを“運転”に回す。	31ページ
	バッテリーキルスイッチが[OFF]になっている	・ バッテリーキルスイッチを[ON]にする。	
エンジン 出力不足の 場合	エンジンECUのエラー	・ 販売店へお問い合わせ下さい。	
	燃料不足	・ 燃料を補給する。	24ページ
		・ 燃料系統を調べる。 (特に空気混入に注意)	
	燃料の流れ不足	・ 燃料フィルタ、コックフィルタを点検し、汚れていれば交換する。	
	エアクリーナが目詰まり	・ エレメントを清掃する。	85ページ
	エンジンECUのエラー	・ 販売店へお問い合わせ下さい。	
	点火系の不具合	・ プラグ点検・交換	

不 具 合 象	考 え ら れ る 原 因	処 置	参 照
突然停止した場合	燃料不足	・ 燃料を補給する。	24ページ
		・ 燃料系統を調べる。 (特に空気混入に注意)	
	燃料が流れない	・ 燃料フィルタを点検し、汚れていれば交換する。	
排気煙が異常に黒い場合	燃料が悪い	・ 良質の燃料に交換する。	78ページ
	エンジンオイルの入りすぎ	・ 正規のオイル量にする。	82ページ
	エアクリーナが目詰まり	・ エレメントを清掃する。	85ページ
始動時青白煙が消えない	前の作業が長時間にわたるアイドリング運転で終わっている場合、または冷機時アイドリング運転の繰返しであった場合、マフラ内部に湿りが残っている。	・ 負荷をかけてマフラを十分に加熱する。 冷機時アイドリング運転の繰返し、および長時間にわたるアイドリング運転は極力避ける。	
	燃料不良	・ 良質の燃料に交換する。	78ページ
	エンジンチルトの動作不良	・ パネルに表示されるエラーコードを確認し対応する	
ディスプレイに故障コードが表示されている	エンジンECUまたは車体ECUのエラー	・ 販売店へお問い合わせ下さい。	
無線操作通信異常	アンテナ締付不足	・ アンテナを増し締めする。	

本機の不調と処置

各部に異常が発生した場合は、ホーンでの警告やエンジンの自動停止などを行い、その原因をモニタランプまたはディスプレイに表示します。異常発生時は表示に従い、必ず点検・整備を行ってから作業を始めてください。わからない場合は販売店にご相談ください。

不 具 合		現 象				原 因	処 置	参 照
警告ホーン	エンジン	モニタランプ						
		エンジンオイルレベル低下警告	車体バッテリー電圧低下警告	エ ン ジ ン 非 常 停 止 	エ ン ジ ン 非 常 停 止			
約10秒周期で ホーンが1回 ずつ10回鳴る	停止しない	-	-	点 灯	-	リフトアームセンサの故障またはハーネス切れ	・リフトアームセンサ・ハーネスの点検・交換	
		-	-	点 灯	-	燃料センサの故障またはハーネス切れ	・燃料センサ・ハーネスの点検・交換	
約10秒周期で ホーンが2回 ずつ10回鳴る	停止しない	-	-	点 灯	-	別表1の(25)、(26)が原因	・バルブ・ハーネスの点検・修理・交換 ・コントローラの点検・修理・交換	
鳴らない	停止する	点 灯	-	点 灯	点 灯	エンジンオイルレベル低下	・エンジンオイルの補充	82 ページ
鳴らない	停止する (※1)	-	点 灯	点 灯	点 灯	車両バッテリー電圧低下	・レギュレータ・ハーネスの点検・交換	
鳴らない	停止する	-	-	点 灯	点 灯	別表1の(1)～(30)が原因	・バルブ・ハーネスの点検・修理・交換 ・コントローラの点検・修理・交換	

※1：11V以下を検出してから1分後にエンジン停止します。

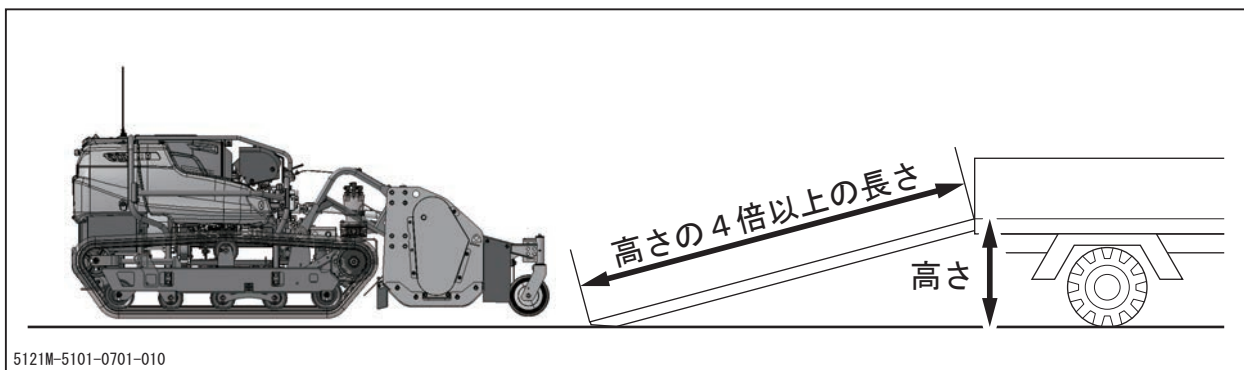
別表 1

No.	検出ECU	故 障 原 因	エラーコード
1	左クローラ走行	左レバー前進側位置制御不能	1
2	左クローラ走行	左レバー前進側位置制御不能	2
3	左クローラ走行	左レバー後進側位置制御不能	3
4	左クローラ走行	左レバー後進側位置制御不能	4
5	右クローラ走行	右レバー前進側位置制御不能	5
6	右クローラ走行	右レバー前進側位置制御不能	6
7	右クローラ走行	右レバー後進側位置制御不能	7
8	右クローラ走行	右レバー後進側位置制御不能	8
9	モア高さモード	ピッチ角横転検出	10
10	モア高さモード	ロール角横転検出	11
11	左クローラ走行	左レバー位置センサ故障(短絡)	12
12	左クローラ走行	左レバー位置センサ故障(断線)	13
13	右クローラ走行	右レバー位置センサ故障(短絡)	14
14	右クローラ走行	右レバー位置センサ故障(断線)	15
15	受信機	受信機車速データ上限オーバー	16
16	受信機	受信機車速データ下限オーバー	17
17	受信機	受信機ステアリングデータ上限オーバー	18
18	受信機	受信機ステアリングデータ下限オーバー	19
19	ディスプレイ	右クローラ走行マイコンCAN通信途絶	20
20	ディスプレイ	左クローラ走行マイコンCAN通信途絶	21
21	ディスプレイ	PTOマイコンCAN通信途絶	22
22	左クローラ走行	左モータロック	26
23	右クローラ走行	右モータロック	27
25	モア高さモード	モア昇降圧力制御電流の制御不能	54
26	モア高さモード	モア昇降圧力制御電流の制御不能	55
27	エンジン	スロットルモータ異常	102
28	エンジン	スロットル開度センサ1異常	103
29	エンジン	スロットル開度センサ2異常	104
30	エンジン	スロットル開度センサ相関異常	105

トラックへの積み降ろし要領

！ 警 告

- ・トラックは平坦な場所に停め、必ず輪止めをしてください。
- ・作業中は車両およびアユミ板の周辺には人を近づけないでください。
- ・アユミ板は、十分な強度（機械質量に十分耐え得ること）、幅（クローラ幅の1.2倍以上）、長さ（トラックの荷台床面高さの4倍以上）のあるすべり止め付きのものを使用してください。
- ・アユミ板のフックは荷台との段差がなく、また、ずれないように確実にかけてください。
- ・前進でゆっくりと積み込んでください。
- ・アユミ板の上で旋回を行わないでください。転落のおそれがあります。
- ・輸送中に車両が動かないように荷台に確実に固定してください。
- ・輸送中はアンテナを外してください。



1. トラックを平坦な場所に停め、輪止めをします。
2. アユミ板のフックを荷台との段差がなく、また、ずれないように確実にかけます。
3. 積み込みは前進にてゆっくりと積み込みます。その際、モアをアユミ板や荷台にぶつけないようにモアの高さを調節してください。特にアユミ板への乗り移りは、低速度でエンジン回転数を下げ、安全を確認しながら行ってください。
4. モアを最下位まで下げ、ゲージ輪またはモア装置を床面に接地させます。

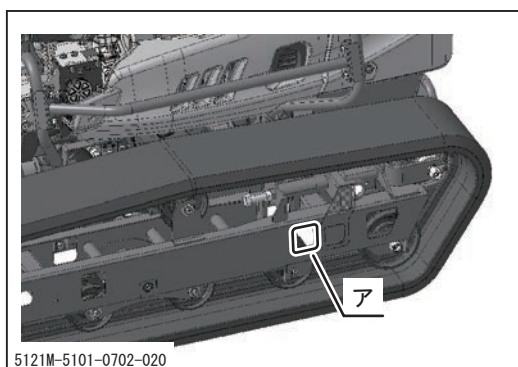
5. 積載時車両が移動しないようにエンジンを停止し、クローラに車止めをし、ロープ、ワイヤ等で車両を荷台に確実に固定します。
6. 運送中は荷動きしないよう、急発進・急停止・急カーブは絶対にしないでください。
7. 積み降ろし時は後進で降ろしてください。

クレーン等による吊り上げ要領

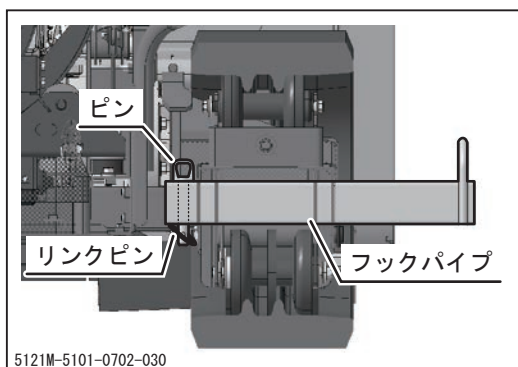
！ 警 告

- ・ クレーンの操作および玉掛けには資格が必要です。資格のない人は作業を行わないでください。
- ・ 吊り上げに使用するワイヤーロープおよびシャックルは、車両の重量に対して十分強度のあるものを使用してください。
- ・ 車両を吊り上げるときは、重心位置およびバランスに注意してください。

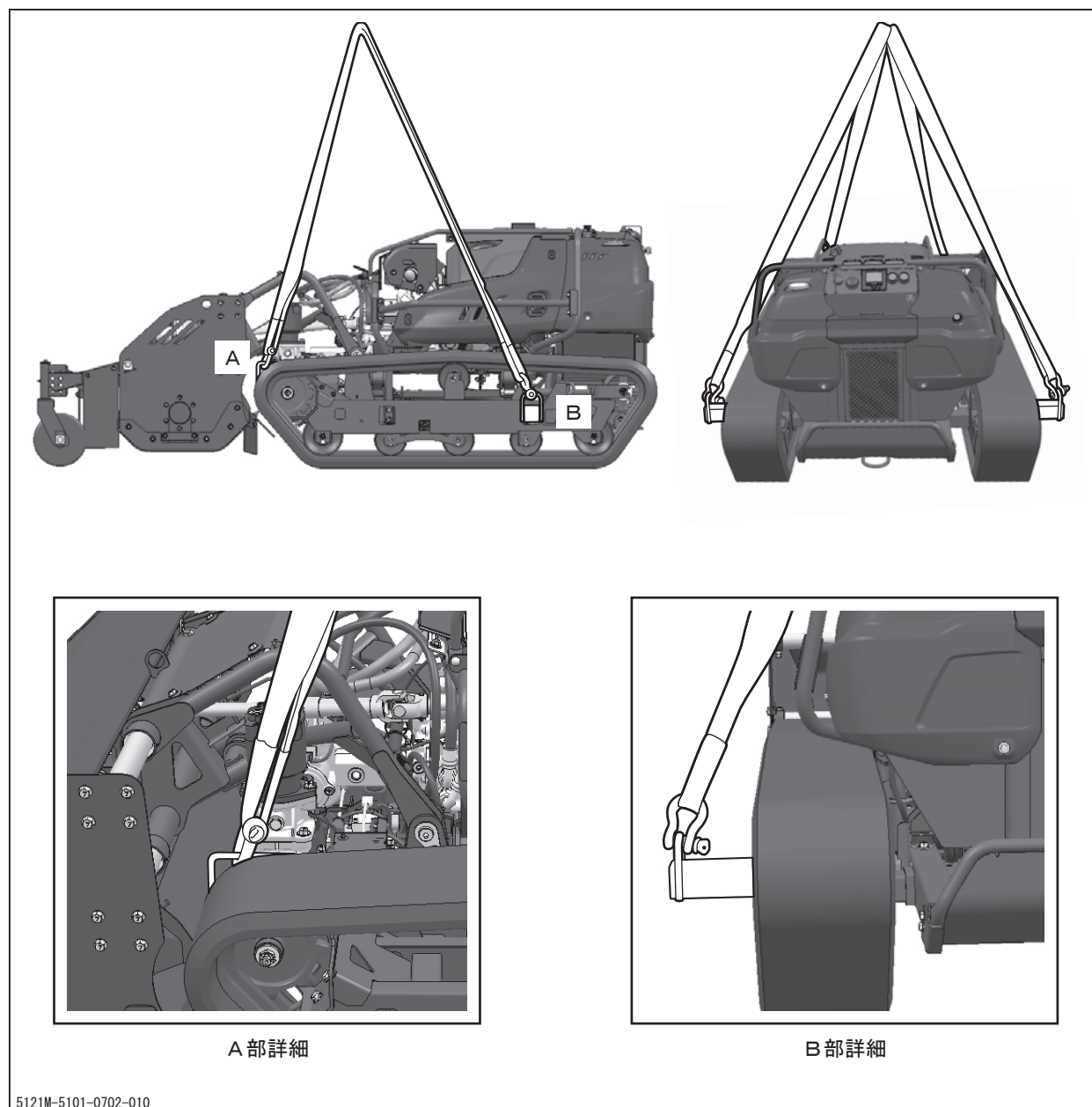
吊り上げ準備



1. 左クローラトレッドを30mmほど広げ、クローラが本体中心から左右対称になるようにします。(49ページ)
2. トラックフレーム左右の口穴(ア部)に付属品のフックパイプを挿入し、フックパイプの穴に付属品のピンとリンクピンを取り付け、抜け止めをします。



吊り上げのしかた

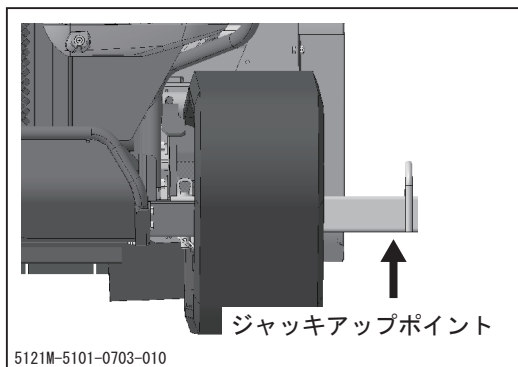


シャックルを使用しベルトスリング2ヶを左右のA、B箇所に取り付け車両を吊り上げます。本機を吊る際はシャックル(4ヶ)を使用します。

👉 アドバイス

- ・推奨シャックル：呼び18相当(使用荷重1t以上)
- ・推奨ベルトスリング：使用荷重0.8t以上かつ長さ3m以上

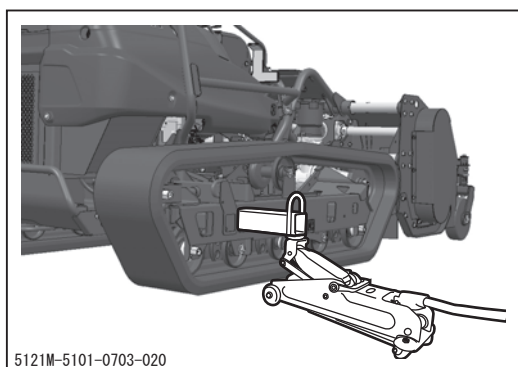
ジャッキアップ要領



1. クレーン等による吊り上げ要領の準備 (☞116ページ)と同様にフックパイプを装着します。
2. ジャッキアップポイントにジャッキを当て、上げます。

👉 アドバイス

- ・ジャッキアップは左右同時に行わず、片側ずつ行うようにしてください。

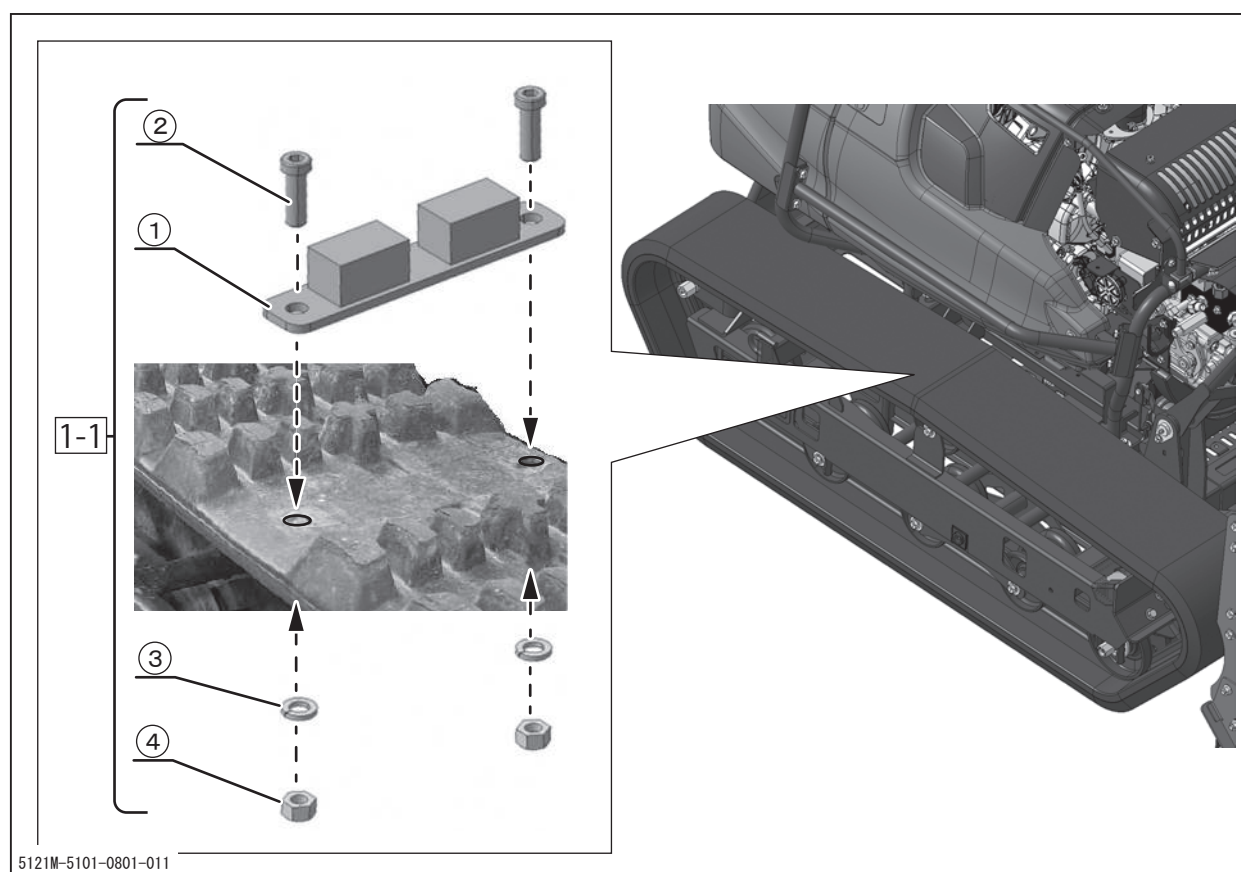


スパイク

No	品名	品番	1キットあたりの個数
1	スパイクキット (1 台分)	5121 9001 000	1
1-1	スパイクセット	5121 9011 000	14
1-1-①	スパイクシュー	5121 9002 000	14
1-1-②	ボルト	5121 9005 000	28
1-1-③	SW	A360 0101 202	28
1-1-④	ナット	A301 0112 001	28

👉 アドバイス

- ・滑りやすい傾斜地では、スパイク（オプション）の装着を推奨します。
- ・クローラ1本に **1-1** スパイクセットは7ヶ装着できます。



株式会社 筑水キャニコム

<https://www.canycom.jp/>

〒839-1396 福岡県うきは市吉井町福益90-1

連絡先控え(販売店名)